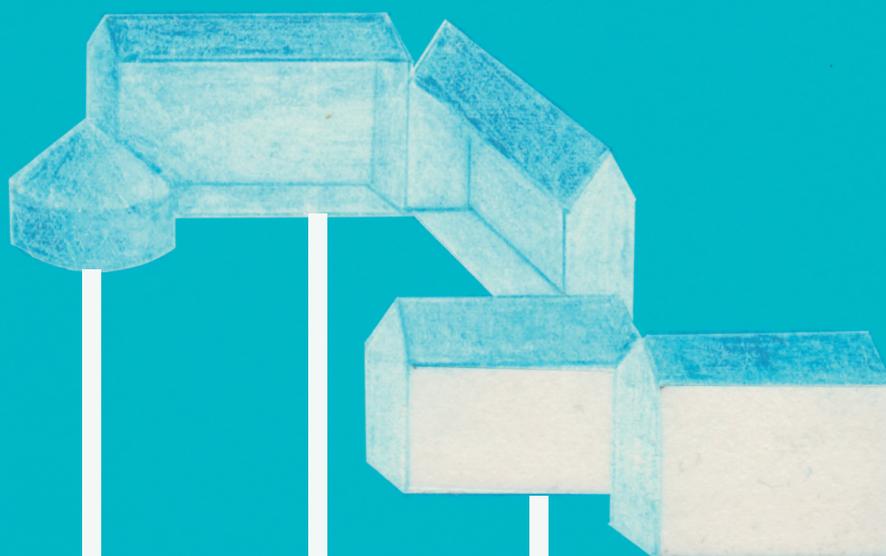


MORIOKA DAIGAKU JUNIOR COLLEGE



2013年度 盛岡大学短期大学部
自己点検・評価'13
(教育研究活動の現状と展望)

目 次

はじめに	学長 徳田 元	2
1	全国の短期大学の現状と本学の現状	4
2	盛岡大学短期大学部の教育活動 ―幼児教育科としての取り組み―	7
3	改善点	8
4	各教員の教育研究活動	
	(1) 掲載要領について	10
	(2) 学長	11
	(3) 幼児教育科教員	14
5	授業評価	
	(1) 平成 25 年度 学生による授業評価調査実施要領	30
	(2) 幼児教育科教員	31
6	教務事項	66
	教務委員会からの報告	
7	学生支援	69
	学生委員会からの報告	
8	就職支援の状況	73
	盛岡大学・盛岡大学短期大学部就職センターからの報告	
9	地域に開かれた短期大学としての現状 ―地域連携の取り組み等について―	78
	各取り組みからの報告	
10	学生の受入状況について ―入試制度の改善状況等―	83
	盛岡大学・盛岡大学短期大学部入試センターからの報告	
11	本学の特色ある教育についての報告	90
12	図書館の活動状況についての報告	93
	あとがき	100

はじめに

学長 徳 田 元

本冊子は、2009年4月1日から2014年3月31日までの5年間における、盛岡大学短期大学の教育・研究活動を自己点検・自己評価し、今後の教育・授業の改善に反映する目的で上梓するものである。近く公的機関による第三者評価を受ける予定であり、そのための予備的自己点検評価書でもある。

上記の期間において、本学には大きな変化があった。食物栄養科を発展的に解消し、4年制の盛岡大学栄養科学部栄養科学科を2010年4月1日に開設したことである。これに伴い、食物栄養科は2011年3月に最後の卒業生を出し廃止となった。以来、盛岡大学短期大学部は幼児教育科のみとなった。

2011年3月11日に東北地方を襲った東日本大震災は、本学にも大きな被害をもたらした。本学は岩手県内陸に位置しているため、建物に大きな被害はなく、また在学生に犠牲者は無かったものの、家族が犠牲になったり、実家が津波で流失・全壊したりした被災学生を多数生み出した。また、本学の入学予定者の中からも犠牲者が出た。同年3月17日の卒業式と、4月3日の入学式はやむなく中止となった。卒業式については、翌年3月24日に「卒業を改めて祝う会」として挙行し、多数の卒業生の参加があった。東日本大震災直後に入学した幼児教育科新入生は、授業の開始が遅れた結果、過密した時間割となった。しかし幼児教育科入学生176名の内、173名(卒業率98.3%)が2013年3月無事卒業した。教職員の熱意と学生の勉学意欲が困難を克服し、所定の教育目標を達成できたと考える。

被災学生に対する支援は、大震災以来現在まで継続して行っている。2011年度～2013年度において、延べ36名の学生の学納金を半額免除している。3年間での免除総額は約1,500万円である。減免を申請する学生数は減少しておらず、引き続き支援が必要である。免除額の3分の2は国から補助が出るが、いつまで国が補助を継続するかは明らかでない。学生募集要項に記載するため、国の決定より先に次年度の支援を決定する状況が続いている。これまで国からの補助が無くても支援するとの方針の下、学生募集要項に記載しているが、私学の経営には負担である。一方、高等教育を充実し、人材を育成することは、震災の復興に極めて重要である。地域に根ざした大学であり続けたいと考えている本学にとって、被災地出身の学生を支援することは当然の使命であろう。

5年間における各教員の研究活動は、著書論文や学会活動だけでなく、社会活動についても調査項目とした。地域に貢献することがこれからの大学には要求されている。本学の

教員は、以前から地域の要請で様々の貢献をしており、東日本大震災以降は特に学生ボランティアを巻き込んだ活動を展開している教員もいる。大学の教員に要求されるのは研究をベースにした教育であり、研究成果の発表である。多くの教員が成果を出版物として発表している。研究活動も概ね順調と評価している。

2013年度後期に、各専任教員が担当する1科目を選んで学生による授業評価を行った。本冊子には、各科目について13項目、5段階の評価のアンケート集計結果が掲載されている。それをもとにより良い授業のためには、どのような工夫が今後必要かを各教員が考察している。基礎的科目の授業は、実習・実技科目に比べ学生の評価は低くなる傾向があるが、「学生の評価は今後の授業に貴重な助言」ととらえる教員がいることは重要である。教育の質向上に役立てるために、今後も学生による授業評価を継続することが必要であろう。13項目の内、評点が特に低いのが「授業の予習・復習をしたか」という設問である。各科目のシラバスに予習・復習をするよう明記するだけでなく、実行させるような工夫が必要であろう。

本学は「対話のある大学」を具体的な教育の目標としている。これをよく表しているのが、きめ細かな学生支援である。新入生を対象としたオリエンテーションと特別研修による円滑な大学生活への導入、履修ガイダンスと時間割作成指導、生活支援、就職支援など、「面倒見の良い大学」との評価に答えられる教職員の活動が、この5年間にもあったと評価できる。全国の短期大学の内7割が定員を充足していない中で、本学は一度も定員割れを起こしていない理由として、このような教員と職員が一体となった学生支援の充実にもあると考えられる。

今回の自己点検・自己評価によって、本学の運営が順調であることを結論できると考えられる。しかし、少子化の嵐はいつ本学を襲うか知れず、これまで以上の教育の質の向上、より魅力的な短期大学への改革を教職員が一体となって取り組まなければならない。

1 全国の短期大学の現状と本学の現状

1 志願者数・入学者数の推移

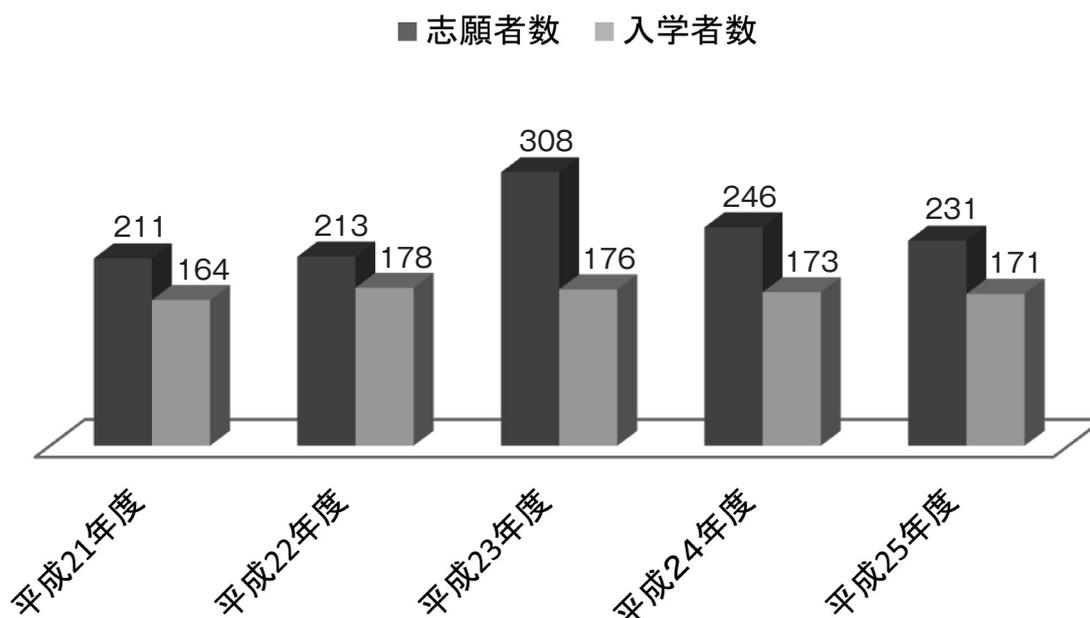
日本私立短期大学協会の調査によると全国の短期大学の数は、ピーク時の平成13年に559校だったものが、平成23年には387校となり172校の減であった。四年制の大学の数は、平成13年が669校で、平成23年が780校と111校の増である。このことから、平成13年以降の短大は、改組転換と四年制への移行を行いながら、定員を確保できる短大が現在も存続している状況と言えるが、なおそれでも7割弱の短大は、定員割れをおこしている。定員割れをкаろうじて免れているのが、幼稚園免許と保育士資格を取得できる保育系の短大や看護系の短大で、保育系である本学もこれまで定員割れはおこしていない状況にある。

また、入学者数で見ると、ピークであった平成7年が50万人で、平成23年には15万人と、約7割の減少となっている。ちなみに、短大の数が559校と最も多かった平成13年の学生数は29万人であった。四年制大学は、平成7年が255万人、平成13年が267万人、平成23年が289万人で、増加を維持している。

本学は、平成21年度の入試結果では志願者211人で入学者が164人、平成22年が同じく213人の178人、平成23年が308人の176人、平成24年が246人の173人、平成25年が231人の171人と定員を維持している（図1参照）。

図1

本学の志願者数と入学者の推移



2 各短期大学の生き残り

各短期大学は、先に述べたとおり生き残りをかけて地域総合学科などへの再編、四年制大学への移行等、多くの改組転換を行った。特に人文系と家政系を有していた短大は四年制へ移行したケースが多かった。その中で特に家政系は、二年制の栄養士課程から四年制の管理栄養士課程に改組する例が多く見られた。

本学でも、平成 22 年 4 月に栄養士課程である食物栄養科の学生募集を停止し、同年 4 月から管理栄養士課程である四年制の栄養科学部を開設した。これまで、栄養科学部の入学者の状況は良好に推移している。

幼稚園免許と保育士資格の取得可能な幼児教育科は、先に述べたとおり志願者数は減少傾向にあるものの、定員は維持している。定員を維持している短期大学の多くは、様々な資格取得が可能で、その資格が即就職に繋がるという特徴を持っている。また、最近では地域との連携に力を入れ、地元と密着した事業を展開しているところが多い。

3 本学の取り組み

本学は、前述したとおり平成 22 年に食物栄養科を改組し四年制へ移行させ、幼児教育科一学科のみの単科の短大となった。

全国的に保育士不足が叫ばれるようになり、平成 23 年時点で、保育士を養成する大学が 230 校、短大が 250 校（ピークは平成 20 年の 265 校）、専門学校 105 校、その他 2 校となっている。それぞれの入学定員の合計は、大学が 17,180 人、短大が 30,400 人、専門学校 7,137 人、その他 170 人である。全体の入学定員に占める短大の割合は、55.4 パーセントを占めており、依然短大が保育士養成の中心となっている。

平成 24 年 8 月に「子ども・子育て関連 3 法」が成立したのを受け、本格的な待機児童解消に向けた取り組みが加速し、平成 27 年度には全国で約 7 万 4 千人の保育士が不足すると予想されている。このことを受け本学でも保育士養成を中心とした展開を当分の間継続していくことになるが、これまでのように入学定員を超過した入学者を受けいれられなくなる。

それは、平成 24 年度に受けた厚生労働省東北厚生局の監査において、50 人クラスでの授業を実施するように指導を受けたためである。したがって、これまでのように入学者を受けいれると、3 クラス制で実施していた授業を 4 クラス制で実施しなければならなくなり、施設の規模と教員の負担を考えると到底不可能であるため、入学者数を入学定員に近づけなければならないからである。

このような状況にはあるが、これからも様々な改革をしつつ、地域と連携しながら、質の高い保育者の養成に努めていきたい。

なお、盛岡大学文学部児童教育科に平成 26 年度から、保育士を養成するコースが 40 名定員で開設されるため、学校法人盛岡大学全体で見ると、保育者養成数は増ということになり、そういう意味では保育者不足という社会全体の要請には、応えていけると言える。

さらに、これも先の「子ども・子育て関連3法」の関連で、現在幼稚園免許しか持っていない現職の幼稚園の先生（勤務年数3年以上が条件）に、指定される8単位の科目を取得すると保育士資格が取得できる講座を平成26年度から実施するので、こうした取り組みも保育士不足解消の取り組みに寄与する。

以上のように、短大としては、幼稚園教諭の免許と保育士資格の両方を有した保育者の養成に力を入れつつ、18歳人口減少の推移を見ながら、文学部と協力して入学定員の見直しを図っていくことが、近々の課題である。

2 盛岡大学短期大学部の教育活動 ―幼児教育科としての取り組み―

幼児教育科では、幼稚園二種免許状と保育士資格取得を基本にしながら、児童厚生二級指導員の資格などが取得できるように授業科目を構成している。また、これらの資格を取得する課程で、質の高い保育者を養成できるよう、通常の授業科目以外にも様々な特色のある教育を展開している。

平成 12 年度から実施した全専任教員による「特別演習」は、卒業発表として外部への公開を行うまでに進化したゼミもあり、今なお各教員が工夫を凝らしながら今日に至っている。その活動の様子は、「特別演習集録」にまとめられ、第 15 号の発刊に至っている。さらに、後援会の助成を受けながら後述するように様々な講演やセミナーを実施し、学生の知的好奇心に刺激を与え、教育効果を高めてきた。

また、平成 22 年からコミュニケーションスキルを高めることを目的に、外部講師を交えながら 1 年生全員を対象に「総合講座」（通年）を開始し、平成 27 年度から必修科目にすべく準備を始めた。

学内的には、以上のように正規の授業以外の講座を設け学生の資質をさらに向上させる取り組みを展開してきた。

また、東日本大震災を受け、被災地へ当初はボランティア派遣したり、被災した幼稚園や保育所を回ってお見舞いをしたりなどの活動をし、現在は影絵サークルを被災地の小学校や幼稚園等に派遣したりしている。研究の分野では、被災地の子どもや保育者のケアへの取り組みが始まった。このことをきっかけに地域との連携を強化すべく、併設する盛岡大学と協力して「地域連携センター」の開設に向け現在取り組んでおり、被災地のみならず全県を視野に入れた地域との連携を模索している。

さらに、平成 20 年から「教員免許状更新講習」に幼児教育科として関わり現在に至っている。また、平成 26 年度から幼稚園免許しか所有していない教員（3 年以上の勤務経験が必要）を対象として、保育士資格が取得できる講座（8 単位分）を開設する。これまでも文学部児童教育学科で幼稚園一種免許状取得見込み者を対象に、国家保育士試験免除科目に相当する科目に科目等履修生として受け入れ、保育士資格取得の手助けをし、保育士不足解消に貢献してきている。このことに加え、潜在保育士（保育士資格を持ちながら現在働いていない方）を発掘し、保育所等で働いてもらうための講座に専任教員を派遣する県の取り組みにも協力している。

3 改善点

前回（平成 21 年度）における認証評価において、向上・充実のための課題として、次の三点について指摘があった。それぞれ課題とされた事項とその改善状況は次のとおりである。

(1) 教育内容

ア 課題 「シラバスの内容について、各科目における書式の共通理解を図りたい。特に各回の授業内容、評価方法(成績評価の基準)、参考文献を明示する必要がある。」

イ 改善の状況

シラバスの様式について見直しを行い、改善を図っている。従前の項目であった「授業科目の単位数」、「卒業要件における必修・選択の別」、「開講時期」に加え、「授業形態（講義、演習、実験、実習の別）」、「資格要件における必修・選択の別」の項目を増やした。その他、「評価方法と基準」、「各回の授業内容」に関する事項については、より詳細に記述するよう各教員への徹底を図った。さらに、参考文献を明示するように改めるとともに、事前学習を含む履修上の留意点に関する記述欄を増やしている。

また、各授業科目担当者によって記述方法が区々であったという反省から、教授会において、担当者によるシラバス作成に関する説明の機会を設けるなど、教員間の共通理解に努めた。

(2) 教育目標の達成度と教育の効果

ア 課題 「今後、グレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度の導入に向けて、評価の配分を明示する必要がある。」

イ 改善の状況

単位認定にかかわる評価方法の配分を明示することに関しては、シラバスにおいて定期試験の結果、レポート課題や口頭発表の内容等、項目と評価の比重を割合で示すように改善を図った。

GPA 制度については、今のところ本格導入には至っていない。同一法人内の四年制大学の盛岡大学文学部 3 年次への編入学試験において、本学から推薦する者については筆記試験を免除する措置がとられているが、その学内推薦に際して、盛岡大学側から推薦条件として GPA の基準値が示されていることから、必然的に本学において当該推薦者を選考する際に GPA の数値を算定し、その結果により推薦している。

また、特別奨学生として表彰する成績優秀者を選考する際に、GPA の数値を参考として利用しているが、それ以外に特に活用例はなく、GPA 制度の本格的な導入に関しては、今後の検討課題である。

(3) 避難訓練

ア 課題 「避難訓練については、今後早急に実施する必要がある。」

イ 改善の状況

平成 22 年度においては、平成 23 年 1 月 6 日の午後 2 時に大学入試センター試験を実施中に火災が発生したことを想定して、法人本部、盛岡大学、盛岡大学短期大学の教職員を総動員して避難訓練を実施した。事前にマニュアルを配付し、説明会を行ったうえで実施し、実施後は立ち会いの消防署員から指導を受け、その指導事項については教授会で報告し、教職員への周知を図った。

その後は、平成 25 年 9 月 27 日の午後、3 時限目の授業終了時刻に火災が発生したことを想定し、教職員その他、短期大学部及び盛岡大学の学生も参加して火災避難訓練を行った。同日は、併せて消防署員の指導の下、消火器の放射による消火訓練も行った。

また、平成 26 年 1 月 14 日には、東日本大震災並みの地震が発生したことを想定した地震避難訓練を実施した。短期大学部及び大学の学生と法人本部職員を含む教職員あわせて約 900 名が参加する大がかりな訓練となったが、当該訓練においては、公共交通機関の停止、電話の不通、停電、断水を想定し、学生に「安否報告カード」による報告を求めて、学内に帰宅困難者がどれくらいの人数が残ることになるのか、見込み数を把握することをも目的とする訓練であった。

4 各教員の教育研究活動

(1) 掲載要領について

本学の教育職員の職務は、「学生を教授し、その研究を指導し、研究に従事すること」である。この責務が確かに果たされているかどうか自己点検・自己評価することが、教育の継続的な質の保証を維持し、短期大学をより魅力あるものにする上で必要とされている。このことが「大学改革」の基本理念の一つである「多元的な評価による教育研究活動の改善」に繋がるものとして、本学では定期的に専任教員の教育研究活動について自己点検を行い、その結果を公表することとした。

公表する項目について、自己評価専門委員会において再度検討した。項目の設定にあたっては、研究業績はもちろんのこと、授業のほか総合特別講座・専門特別演習・課外活動指導等の教育活動や、専門分野を生かした社会的活動、また著書・論文に相当する、あるいは準ずる実技系の業績についても掲載することとし、多面的な評価がなされるようにした。

掲載項目は次のとおりである。

- ① 氏名
- ② 職名
- ③ 最終学歴
- ④ 学位
- ⑤ 主要職歴
- ⑥ 担当授業科目及び教育活動
- ⑦ 所属学会
- ⑧ 専門分野
- ⑨ 最近の研究課題
- ⑩ 主な著書・論文
- ⑪ 体育競技・美術または音楽等芸術関係の発表活動
- ⑫ 学会活動
- ⑬ 社会活動

なお、⑩から⑬項目については、原則として前回の第三者評価報告以降の2009年4月から2014年3月までの業績等を記載することとした。

自己評価において重要なことは、これらの教育研究業績等の報告が、単なる結果の公表に終わってしまうのではなく、より意義のあるものとなるために、個々の教員が改めて自己の教育研究活動の内容を客観視して、自己点検・評価し、より教育・研究の質が向上するために必要な改善策を講じ、実行するためのステップとなることが求められる。

(2) 学長

徳田 元 (トクダ ハジメ)

職名 学長、栄養科学部・教授

最終学歴 1974年名古屋大学大学院農学研究科博士課程修了

学位 農学博士

主要職歴 東京大学分子細胞生物学研究所・教授 (～2010年)

盛岡大学栄養科学部・教授 (2010年～)

盛岡大学・学長 (2013年～)

担当授業科目

微生物学、生物学、食品衛生学、生化学、分子栄養学、卒業研究 (栄養科学部)

所属学会 日本農芸化学会 (評議員)、日本生化学会 (評議員)、日本分子生物学会、日本薬学会、蛋白質科学会、食品衛生学会

専門分野 生化学、微生物学

最近の研究課題

細菌の細胞表層構造の構築機構

主な著書・論文

Tokuda, H. Biogenesis of outer membranes in Gram-negative bacteria. *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 73, 465-473 (2009).

Okuda, S., and Tokuda, H. Model of mouth-to-mouth transfer of bacterial lipoproteins through inner membrane LolC, periplasmic LolA, and outer membrane LolB. *Proc. Natl. Acad. Sci., USA*, 106, 5877-5882 (2009).

Tsukahara, J., Mukaiyama, K., Okuda, S., Narita, S., and Tokuda, H. Dissection of the LolB function; lipoprotein binding, membrane targeting, and incorporation of lipoproteins into lipid bilayers. *FEBS J.* 276, 4496-4504 (2009).

Narita, S., and Tokuda, H. Biochemical characterization of an ABC transporter LptBFGC complex required for the outer membrane sorting of lipopolysaccharides. *FEBS Lett.* 583, 2160-2164 (2009).

Nakada, S., Sakakura, M., Takahashi, H., Okuda, S., Tokuda, H., and Shimada, I. Structural investigation of the interaction between LolA and LolB using NMR. *J. Biol. Chem.* 284, 24634-24643 (2009).

Yasuda, M., Iguchi-Yokoyama, A., Matsuyama, S., Tokuda, H., and Narita, S. Membrane topology and functional importance of the periplasmic

- region of ABC transporter LolCDE. *Biosci. Biotechnol. Biochem.*, 73, 2310-2316(2009).
- Tsukahara, J., Narita, S., and Tokuda, H. Real time analysis of lipoprotein transfer from LolA to LolB by means of surface plasmon resonance. *FEBS Lett.* 583, 2987-2990(2009).
- Nishiyama, K., and Tokuda, H. Development of a functional *in vitro* integration system for an integral membrane protein, SecG. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 390, 920-924(2009).
- Narita, S., and Tokuda, H. Sorting of bacterial lipoproteins to the outer membrane by the Lol system. In "Methods in Molecular Biology ; Protein Secretion", A. Economou(ed), Humana press, pp.117-129 (2010).
- Narita, S., Tokuda, H. Biogenesis and membrane targeting of lipoproteins. Chapter 4. 3. 7. In "Escherichia coli and Salmonella: cellular and molecular biology." Böck, R. Curtiss III, J. B. Kaper, P. D. Karp, F. C. Neidhardt, T. Nyström, J. M. Schlauch, and C. L. Squires, and D. Ussery(ed), ASM Press. Washington, DC. doi : 10. 1128/ecosal. 4. 3. 7 (online journal).
- Nishiyama, K., Maeda, M., Abe, M., Kanamori, T., Shimamoto, K., Kusumoto, S., Ueda, T., and Tokuda, H. A novel complete reconstitution system for membrane integration of the simplest membrane protein. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 394, 733-736(2010).
- Morita, Y., Narita, S., Tomida, J., Tokuda, H., and Kawamura, Y. Application of an inducible system to engineer unmarked conditional mutants of essential genes of *Pseudomonas aeruginosa*. *J. Microbiol. Methods* 82, 205-213(2010).
- Tao, K., Watanabe, S., Narita, S., and Tokuda, H. A periplasmic LolA derivative with a lethal disulfide bond activates the Cpx stress response system. *J. Bacteriol.* 192, 5657-5662(2010).
- Nishiyama, K., and Tokuda, H. Preparation of a highly translocation-competent proOmpA/SecB complex. *Protein Sci.* 19, 2402-2408,(2010).
- Sakamoto, C., Satou, R., Tokuda, H., and Narita, S. Novel mutations of the LolCDE complex causing outer membrane localization of lipoproteins despite their inner membrane retention signals. *Biochem. Biophys. Res. Commun.* 401, 586-591(2010).
- Okuda, S., and Tokuda, H. Lipoprotein Sorting in Bacteria. *Annu. Rev.*

- Microbiol. 65, 239-259(2011).
- Narita, S., and Tokuda, H. Overexpression of LolCDE allows deletion of the *Escherichia coli* gene encoding apolipoprotein N-acyltransferase. J. Bacteriol. 193, 4832-4840(2011).
- Morita, K., Tokuda, H., and Nishiyama, S. Multiple SecA molecules drive protein translocation across a single translocon with SecG inversion. J. Biol. Chem. 287, 455-464(2012).
- Tao, K., Narita, S., and Tokuda, H. Defective lipoprotein sorting induces *lolA* expression through the Rcs stress response phosphorelay system. J. Bacteriol. 194, 3643-3650(2012).
- Nishiyama, K., Maeda, M., Yanagisawa, K., Nagase, R., Komura, H., Iwashita, T., Kusumoto, S., Tokuda, H., and Shimamoto, K. MPIase is a glycolipozyme essential for membrane protein integration. Nature Communications 3, 1260 | DOI : 10. 1038/ncomms2267(2012).
- Mizutani, M., Mukaiyama, K., Xiao, J., Mori, M., Satou, R., Narita, S., Okuda, S., and Tokuda, H. Functional differentiation of structurally similar membrane subunits of the ABC transporter LolCDE complex. FEBS Lett. 587, 23-29(2013).
- Moser, M., Nagamori, S., Huber, M., Tokuda, H., and Nishiyama, K. Glycolipozyme MPIase is essential for topology inversion of SecG during preprotein translocation. Proc. Natl. Acad. Sci., USA, 110, 9734-9739(2013). doi : 10. 1073/pnas. 1303160110
- Tokuda, H., Sander, P., Lee, B. L., Okuda, S., Grau, T., Tschumi, A., Brülle, J. K., Kurokawa, K., and Nakayama, H. In “Bacterial Membranes: Structural and Molecular Biology”. Bacterial lipoproteins; biogenesis, trafficking and function. pp.133-177, Han Remaut and Rémi Fronzes, eds, Caizer Academic Press, Norfolk, UK(eBook, 2013; print, 2014), ISBN : 978-1-908230-27-0
- Hayashi, Y., Tsurumizu, R., Tsukahara, J., Takeda, K., Narita, S., Mori, M., Miki, K., and Tokuda, H. Roles of the protruding loop of factor B essential for the localization of lipoproteins(LolB) in the anchoring of bacterial triacylated proteins to the outer membrane. J. Biol. Chem., 289, 10530-10539(2014). DOI 10. 1074/jbc. M113. 539270

学会活動 1986年日本農芸化学会奨励賞、2006年日本農芸化学会賞
社会活動 2013年～滝沢市国体実行委員会顧問

(3) 幼児教育科教員

齋藤 修 (サイトウ シュウ)

職名 教授

最終学歴 1979年 経済学研究科博士後期課程満期退学

学位 経済学修士

担当授業科目及び教育活動

社会福祉論、地域福祉論、施設実習、暮らしと経済

所属学会 日本社会福祉学会、日本老年社会科学会

最近の研究課題

児童館、放課後児童クラブをめぐる状況について

主な著書・論文

「家庭的保育制度について—デンマークと日本—」盛岡大学短期大学部紀要第20巻 2010年

「日本における家庭的保育事業の展開」盛岡大学短期大学部紀要第22巻 2012年

「高齢者への支援と介護保険制度『少子高齢社会の現状と課題』」みらい社 2014年

社会活動

- (1) 岩手県立児童館いわて子どもの森 運営委員会委員長 (2003～2010)
- (2) 岩手県社会福祉協議会児童館部会 いわて子どもあそび隊運営委員 (2011～現在)
- (3) 全国児童厚生員養成課程連絡協議会 副会長 (2010～現在)
- (4) 「第三者評価」評価委員 一般財団法人短期大学基準協会 (2005～現在)
- (5) 八幡平市立保育所の民間移管に関する選考委員会 委員長 (2010～現在)

小林 芳 弘 (コバヤシ ヨシヒロ)

職 名 教 授

最終学歴 1975年 農学研究科博士課程修了

学 位 農学博士「紫外線照射によるカイコ卵の初期発生機構に関する研究」

授業担当科目及び教育活動

科学の基礎 専門特別基礎演習 専門特別演習

所属学会 日本蚕糸学会 国際啄木学会 日本社会文学会

専門分野 生物学 食文化学

最近の研究 ヒトの進化とたべものや性との関連性 北東北の食文化

主な著書・論文

「食資源としてのエゾイソアイナメー分布、生産量、食文化をめぐって」

『盛岡大学短期大学部紀要』 第32号 5-11 2009年

「岩手の塩造り—昔と今—」『盛岡大学短期大学部紀要』 第33号 1-5
2010年

「食といきもの教育の必要性—カイコと桑—」『盛岡大学短期大学部紀要』
第34号 1-5 2011年

松 里 雪 子 (マツサト ユキコ)

職 名 教 授

最終学歴 日本大学藝術学部大学院修士課程修了

学 位 藝術学修士

担当授業科目

児童文化、国語表現法、国語表現の研究、遊びと表現、遊びと言葉、専門特別基礎演習、専門特別演習

所属学会 保育学会、絵本学会

専門分野 藝術学

最近の研究課題

- ・「食の美学」の更なる充実を図るために、世界の国々の食事様式、そして日本の伝統的な行事食の様式について研究し、深めたい。
- ・30年来、こだわり続けている、児童文化財の一つである絵本について、特に最近の傾向（出版、読者層、読者の意識等）について研究を続けたい。
- ・学生のより良い「自己表現」のあり方について、その実際を認識しつつ、より効果的な指導方法を模索、研究し続けている。

主な著者・論文

論 文 「科学絵本の世界に遊ぶ」盛岡大学短期大学部紀要第19巻 2009年

社会活動 全国保育士養成協議会第50回研究大会 2011年

盛岡市景観審議会委員 2013年

中 里 義 博 (ナカサト ヨシヒロ)

職 名 教 授

最終学歴 文学研究科英文学専攻修士課程修了

学 位 文学修士

主要職歴 1977年—78年 東海大学文学部

1978年—82年 北海道東海大学芸術工学部

1982年— 盛岡大学短期大学部

担当授業科目及び教育活動

英語 (コミュニケーション・イン・ライティング)、国際英語 I・II、幼
児英語、異文化理解、海外英語研修、専門特別演習

所属学会 日本英文学会、日本シェイクスピア協会、東北英文学会等

専門分野 エリザベス朝演劇・及び英詩

最近の研究課題

シェイクスピアのローマ劇、英米児童文学ならびに石川啄木の語彙研究

主な著書・論文

「石川啄木歌集コンコーダンス (中～下)」単著、盛岡大学短期大学部紀要
第19巻、2009

長谷川 誠 (ハセガワ マコト)

職 名 教 授

最終学歴 1981年 教育学部特設美術科卒業

学 位 教育学士

担当授業科目及び教育活動

造形基礎平面、造形基礎立体、応用造形Ⅰ、応用造形Ⅱ、美術入門、専門特別基礎演習、専門特別演習、アートサークル顧問

所属学会 日本デザイン学会

専門分野 現代美術

最近の研究課題 絵画におけるイメージの生成と絵画の物質性

主な著書・論文

「絵画考」『盛岡大学短期大学部紀要』第16巻 2006年

「造形考—縁辺への眼差し(4)」『盛岡大学短期大学部紀要』第23巻 2013年

体育競技・美術発表・演奏活動等の業績

2009年 個展「消景」湯本美術展示館(岩手・花巻)

印象・いわて 7人の画家の表現 岩手町立石神の丘美術館(岩手・岩手)

アート@つちざわ 街かど美術館 コンペ部門(岩手・花巻)

2010年 絵画のサイズ・絵画のイメージ 工房“親”(東京・恵比寿)

2011年 個展「触覚の森」田中屋画廊(青森・弘前)

現在をつくる IWATE コンテンポラリーアート展 萬鉄五郎記念美術館
(岩手・花巻)

アート@つちざわプレビュー展 at 川口 川口市立アートギャラリー

(埼玉・川口)

絵画を考える—支持体— 工房“親”

「2011.3.11～展」諄子美術館(岩手・北上)

アート@つちざわ 街かど美術館 招待部門

「私たちがIMA 在ること」展 岩手県立美術館(岩手・盛岡)

2012年 Extending Media—削る・縫う・搔く—工房“親”

長谷川 誠展 白い森の足跡 岩手町立石神の丘美術館

石神の丘美術館リニューアル10周年記念石神の丘展覧会十年記美術編

常設展第2期 岩手県立美術館

2013年 常設展第4期、常設展第2期 岩手県立美術館

2014年 個展「遠い種子」田中屋画廊(青森・弘前)

通算個展32回、グループ展多数、平成元年度岩手県優秀美術選奨受賞
第9回(1995年)ホルベインスカラシッ作家

社会活動

2010年 大更公民館成人講座 講師 大更公民館(岩手・八幡平)

2011年 岩手県立美術館復興支援展示「私たちがIMA 在ること」展

アーティストトーク 岩手県立美術館(岩手・盛岡)

2012年 二戸地区幼稚園研修会 講師 シビックホール(岩手・二戸)

るんびにい美術館(岩手・花巻) アドバイザー(2007年より現在に至る)

2013年 平成25年度学連携活性化事業「たきざわ夢プロジェクト」採択プロジェクト「チャグチャグ馬コ夢ウォーク」顧問 ふるさと交流館(岩手・滝沢)

大塚 健 樹 (オオツカ ケンジュ)

職 名 教 授

最終学歴 1987年 上越教育大学学校教育研究科幼児教育専攻修士課程修了

学 位 教育学修士「父親の援助行動」

担当授業科目及び教育活動

発達心理学Ⅰ、発達心理学Ⅱ、教育心理学、幼児教育相談、家庭支援論、
教育実習、専門特別基礎演習、専門特別演習、編入対策講座、盛岡大学男
子ソフトボール部コーチ、盛岡大学女子ソフトボール部監督

所属学会 日本発達心理学会、日本乳幼児医学・心理学会、家族関係学部会（家政学
会）

専門分野 発達心理学、家族関係学

最近の研究課題

親子関係、幼児教育の異文化比較、住育（育児しやすい住まいの間取り）

主な著書・論文

著書 「今日の生涯発達心理学—自分の人生を設計する—」（共）、(有)アートアン
ドブレイン、2010年

「発達心理学—生涯発達の視点から—（改訂版）」（単）、山口北州印刷㈱、
2011年

「子どもの発達心理学—その発達を支えるもの—」（単）、山口北州印刷㈱、
2011年

論文 「幼児教育科学生のコミュニケーション能力の養成に関する研究」（共）、
全国保育士養成協議会第50回研究大会研究発表論文集、2011年

「カナダの就学前教育について—多文化主義の視点から—」（共）、盛岡大学
短期大学部紀要第22巻（通巻第35号）、2012年

「子育てしやすい住まいの間取りに関する研究—住育の視点から—」（共）、
全国保育士養成協議会第51回研究大会研究発表論文集、2012年

社会活動

2010— 全日本大学ソフトボール連盟常任理事

2010— 東日本大学ソフトボール連盟理事長

2013— 岩手県子ども・子育て会議委員（支援計画部会長）、北上市子ども・子育
て会議委員、滝沢市子ども・子育て会議委員（会長）

劔 持 清 之 (ケンモチ キヨユキ)

職 名 教 授

最終学歴 1980年 音楽学部教育音楽学科卒業

学 位 芸術学士

担当授業科目及び教育活動

音楽基礎表現、音楽表現法、幼児音楽表現Ⅰ・Ⅱピアノ実技、
音楽専攻ゼミⅠ・Ⅱ

所属学会 日本音楽学会、日本音楽表現学会

専門分野 チェンバロ、通奏低音、ピアノ

著書・論文

「幼児教育のためのやさしいコードネーム伴奏・こどもの歌」共著 (2010)

「幼児教育のためのやさしいコードネーム伴奏・こどもの歌70選」共著
(2013)

「保育者を目指す学生の音楽表現力の育成について」共著 紀要 (2013)

演奏業績

- ・デュオリサイタル (2009、2010、2011、2012) チェンバロ
- ・青山教会イースターコンサート オルガンソロ (2009)
- ・弘前メサイア演奏会 チェンバロ通奏低音 (2009～2014)
- ・高知バッハカンタータフェライン演奏会 チェンバロ通奏低音
(2009～2014)
- ・ケルン放送管弦楽団トリオ・ダンシュ・デ・コロ日本公演 チェンバ
ロ (2010)
- ・バッハ：ヨハネ受難曲演奏会 ポジティブオルガン (2012)
- ・もりおか啄木・賢治青春館開館10周年記念演奏会 チェンバロ (2012)
- ・東北大学混声合唱団定期演奏会フォーレ「レクイエム」オルガン (2012)

学会・社会活動

北松園中学校教養講座講師 (2009)

教員免許状更新講習講師 (2009～現在)

日本音楽表現学会イーハトーブ大会 (全国大会) 実行委員 (2013)

最近の研究課題

- ・17～18世紀ドイツ・フランスのチェンバロ楽曲における演奏様式
- ・L. クープランのプレリュード・ノン・ムジユレ奏法
- ・バロック期の器楽・声楽曲における通奏低音法

宮 森 孝 治 (ミヤモリ コウジ)

職 名 教 授

最終学歴 1971年 工学部電子工学科卒業

学 位 工学士

担当授業科目及び教育活動

情報処理入門、教育情報処理演習、統計の基礎、

専門特別演習「マルチメディア入門」

所属学会 情報文化学会

専門分野 コンピュータ科学

最近の研究課題

短期大学における情報処理教育、幼児教育とマルチメディア

主な著書・論文

「幼児教育者のデジタル絵本制作の検討—PowerPoint と FLASH 動画を用いた絵本制作の試み—」『盛岡大学短期大学部紀要』第 19 巻 19-25、2009 年

「幼児教育者の PowerPoint を用いたデジタル絵本制作の実践分析」『盛岡大学短期大学部紀要』第 21 巻 33-36、2011 年

「幼児教育者としてのデジタル絵本の提示方法の検討—ナレーション音声の作成および組込み—」『盛岡大学短期大学部紀要』第 23 巻 37-41、2013 年

菊池 由美子 (キクチ ユミコ)

職 名 教 授

最終学歴 1998年 教育学研究科音楽専修修士課程修了

学 位 教育学修士

担当授業科目及び教育活動

保育内容の指導法「表現」 音楽入門Ⅰ・Ⅱ 幼児音楽表現Ⅰ・Ⅱ

専門特別基礎演習 専門特別演習

所属学会 日本音楽学会 日本音楽教育学会 日本保育学会 日本モンテッソーリ協会
オルフ音楽教育研究会

専門分野 音楽教育学

最近の研究課題

コダーイの音楽教育について

主な著書・論文

『幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現』(共) 圭文社 2009年

『幼児教育のためのやさしいコードネーム伴奏・こどものうた』(共) 永代印刷 2010年

『幼児教育のためのやさしいコードネーム伴奏・こどものうた70選』(共) 永代印刷 2013年

「保育者をめざす学生の音楽表現に関する一考察—ドラムジカを手がかりにして—」盛岡大学短期大学部紀要22号 2012年

「保育者をめざす学生の音楽表現力の育成について—音楽と朗読劇を通して—」盛岡大学短期大学部紀要23号 2013年

学会・社会活動

2009年4月 日本音楽学会東北北海道支部役員(2011年3月まで)

2009年8月 教育免許状更新講習講師(現在に至る)

2013年11月 西和賀町障害教育研修会講演

2014年2月 保育士再就職援助講座講師

嶋野重行(シマノ シゲユキ)

職名 教授

最終学歴 1989年 学校教育研究科生徒指導コース修士課程修了

学位 教育学修士「小学校教師における『問題行動』認知に関する研究」

担当授業科目及び教育活動

特別支援保育、社会的養護、社会的養護内容、子どもの行動心理学、特別支援教育演習 保育実習 相談援助 保育者論

所属学会 日本教育心理学、日本特殊教育学会、日本応用心理学会、日本発達障害学会、日本社会福祉学会、日本LD学会、東北心理学会

専門分野 特別支援教育 教育心理学

最近の研究課題

幼児期の「気になる」子どもの研究、教師と子どもの人間関係
発達障害、自閉症スペクトラム

主な著書・論文

論文

「『気になる』子どもに関する研究(2)」盛岡大学短期大学部紀要第19巻、2009年
「『気になる』子どもに関する研究(3)」盛岡大学短期大学部紀要第20巻、2010年
「『気になる』子どもに関する研究(4)」盛岡大学短期大学部紀要第21巻、2011年
「『気になる』子どもに関する研究(5)」盛岡大学短期大学部紀要第22巻、2012年
「『気になる』子どもに関する研究(6)」盛岡大学短期大学部紀要第23巻、2013年
「短期大学生が認知した幼稚園の『気になる』子どもの行動特徴 日本LD学会編、LD研究第22巻第4号、2013年

著書

『特別支援教育・保育』(単)博光出版、2013年
『子どもの養護—原理と内容—』(共)建帛社、2011年
『子どもの養護—社会的養護の原理と内容—〔第2版〕』(共)建帛社、2013年
『保育者のための教育・福祉事典』(共)建帛社、2013年

社会活動

2007— 滝沢市青少年問題協議会 委員
2007— やまゆり会みのりホーム 第三者委員
2007— 障害福祉サービス事業所奥中山高原結カフェ 第三者委員
2009— 滝沢市教育委員会特別支援教育巡回相談事業 専門員
2010— 岩手県手をつなぐ育成会あすなる園 評議員
2010— 滝沢村教育委員会社会教育 委員(2014年 市制変更により滝沢市)

吉 田 実 (ヨシダ ミノル)

職 名 准教授

学 齢 1976年 教育学部保健体育科卒業

学 位 教育学士

担当授業科目及び教育活動

保育内容の指導法・健康、体育学、基礎スポーツ、専門特別演習
学生課外活動顧問

所属学会 日本体育学会、日本体力医学会、日本家政学会、日本テニス学会
日本体力医学会東北地方会、岩手県体育学会

専門分野 体育方法論

最近の研究課題

テニスにおけるジュニア選手の運動強度について
中高年における適切な運動処方について

主な著書・論文

研究ノート

「盛岡大学短期大学部における大学礼拝受講学生の意識調査について」

『盛岡大学短期大学部紀要』第22巻8(通巻第34号)、2012年

体育競技・美術発表・演奏活動等の実績

社会活動 2009年4月 (財)滝沢村体育協会「総合型地域スポーツクラブ(テニス)」
の年間指導(～2012年7月)

2010年10月 放送大学岩手学習センター面接授業 共通科目・保健体育
「生涯スポーツの実践」講義・実技指導講師

鎌 田 多恵子 (カマダ タエコ)

職 名 准教授

最終学歴 1968年 保育科卒業

担当授業科目及び教育活動

保育内容の指導法「人間関係」、保育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育原理特論、専門特別基礎演習、専門特別演習

所属学会 保育学会

専門分野 教育

最近の研究課題

環境教育について

発表活動 盛岡大学短期大学部幼児教育科「特色ある教育活動」の一環として岩手県民会館にて、専門特別演習のステージ発表の指導

社会活動 岩手県シェアリングネイチャー協会理事を務め、協会活動としての野外活動にリーダーとして取り組んでいる

岩崎基次(イワサキ モトツグ)

職名 准教授

最終学歴 1986年 上越教育大学大学院 修士課程学校教育研究科幼児教育専攻 修了

学位 教育学修士『幼児の遊びに及ぼす環境の影響』—自発活動について—

担当授業及び教育活動

担当授業 教育原理、保育原理、保育・教育課程論、保育・教職実践演習、保育実習指導Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ・Ⅱ、専門特別基礎演習、専門特別演習

教育活動 幼稚園教諭免許更新講習、影絵人形劇サークル顧問、指導

所属学会 保育学会、子ども環境学会

専門分野 保育、幼児教育

最近の研究課題

子どもが主体的に取り組む環境構成

学生の環境構成の視点を養う

身近な木や木の実を使った教材の環境構成と子どもの遊び

主要な著書・論文

著書 『保育内容 人間関係』(共) 北大路書房 2009年

『すてきな保育者をめざして』(共) 東京教育専門学校 2012年

論文 『幼児が主体的に活動に取り組むための保育計画と環境構成』 東京教専門学校研究紀要 2012年

社会活動

・平成24年10月北海道教育大学附属函館幼稚園の要請により北海道教育大学附属函館幼稚園教育研究大会で『子どもの主体性を育てる援助を考える～保育者のことばがけから～』をテーマに講演

・平成26年1月平成25年度北海道・東北ブロック保育協議会 保育士会リーダーセミナー『子どもの主体性を育てる援助を考える』をテーマに講演

・学生と共に影絵人形劇による上演と影絵遊びの支援活動

[平成25年3月野田村立図書館、8月宮古市田老保育園・田老分所図書館、12月紫波町立図書館、平成26年2月末広町種市図書館]

・平成25年12月学生と共に影絵人形劇による上演と影絵遊びの支援活動
学生と共に滝沢村にて子どもたちに影絵人形劇の上演と影絵人形劇の指導及び上映の支援

石川 正子 (イシカワ ショウコ)

職 名 助 教

最終学歴 看護学研究科・看護学修士

担当科目 子どもの保健 I a・子どもの保健 I b、子どもの保健 II、乳児保育、保育相談支援、専門特別基礎演習、専門特別基礎演習

所属学会 ヘルスカウンセリング学会、日本看護協会、岩手県看護協会、日本小児看護学会、日本子ども虐待防止学会会員、日本小児保健協会会員、日本保育学会

専門分野 母子看護学領域 小児看護学研究分野

最近の研究課題

極・超低出生体重児の母子関係、子育て支援、災害後の子どものケア
小児慢性疾患の子ども

主な著書・論文

論文 『保育者養成校における子育て支援の取り組み』
盛岡大学短期大学部紀要 第 21 巻 2011 年
『小児慢性疾患の子どもに対する保育学生の認識』
盛岡大学短期大学部紀要 第 23 巻 2013 年

学会活動

『慢性疾患の子どもに対する保育学生の認識に関する調査』
平成 23 年度 全国保育士養成協議会東北ブロックセミナー宮城大会
2011 年
『学生の保育実践力向上に関する岩手県内保育者養成校調査 1—重要度・充足度による傾向と特徴—』
全国保育士養成協議会第 51 回研究大会 2012 年
『学生の保育実践力向上に関する岩手県内保育者養成校調査 2—自由記述分析による傾向と特徴—』
全国保育士養成協議会第 51 回研究大会 2012 年

社会活動

平成 22 年 平成 22 年度岩手県立釜石高等学校大学出前講座 講師
平成 24 年 日本小児看護学会 第 22 回学術集会 実行委員
平成 25 年 平成 25 年度子育てサポーター養成講座 講師
平成 25 年 地域婦人部交流会 講師
平成 26 年 キャリア形成訪問指導事業スキルアップ研修 講師
平成 26 年 平成 25 年保育士有資格者（再就職支援）研修 講師

吉 村 哲 (ヨシムラ サトシ)
 職 名 助 教
 最終学歴 教育学研究科・教育学修士
 担当科目 音楽基礎表現、音楽表現法、音楽入門 I、幼児音楽表現 I、幼児音楽表現 II、専門特別基礎演習 声楽実技、専門特別演習 声楽実技、教育実習、大学礼拝
 所属学会 日本声楽発声学会、日本音楽表現学会
 専門分野 声楽、音楽教育
 最近の研究課題 ドイツ・リート of 演奏法、ドイツ・プロテスタントの教会音楽
 主な著書・論文
 論文 『フーゲー・ヴォルフの歌曲—《メーリケ歌曲集》に見られる音楽的表現方法に関する研究—』
 盛岡大学短期大学部紀要 第 20 巻 2010 年
 『保育者をめざす学生の音楽表現力の育成について—音楽と朗読劇を通して—』 (共著)
 盛岡大学短期大学部紀要 第 23 巻 2013 年
 著作 『幼児教育のためのやさしいコードネーム伴奏・こどものうた 70 選』 (共著) 永代印刷 2013 年
 社会活動
 平成 15 年 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン テノール・パートリーダー (現在に至る)
 平成 22 年 教員免許状更新講習「子どもの音楽表現」講師
 平成 23 年 教員免許状更新講習「幼児教育者のための音楽表現と教育」講師
 平成 24 年 教員免許状更新講習「幼児教育者のための音楽表現と教育」講師
 平成 25 年 教員免許状更新講習「幼児教育者のための音楽表現と教育」講師

黒澤彩花（クロサワ アヤカ）

職名 助教

最終学歴 2009年 東京女子体育大学 体育学部体育学科卒業

学位 体育学士

担当授業科目及び教育活動

幼児体育Ⅰ・Ⅱ、保育実習指導Ⅰ・Ⅲ、専門特別基礎演習、専門特別演習、
礼拝

所属学会 日本LD学会、日本発達障害学会

専門分野 体育学

最近の研究課題

家族支援（障がいのある子どもをもつ保護者支援）

体育競技実績

2009年 第14回全日本レディースソフトボール大会出場

2010年 第15回全日本レディースソフトボール大会出場

2011年 第16回全日本レディースソフトボール大会出場

2012年 第17回全日本レディースソフトボール大会出場

社会活動

2009年 障害者初級スポーツ指導員

公認ソフトボール指導員

岩手県ソフトボール協会役員

2013年 教員免許更新講習 講師

2014年 公認エアロビック指導員

日本エアロビック連盟認定B級審判員

平成25年度潜在保育士再就職支援研修会 講師

『気になる子どもの保護者支援～ペアレント・トレーニング～』

5 授業評価

(1) 平成 25 年度 学生による授業評価調査実施要領

この授業評価は、学生による授業評価を行い、その結果を授業の改善に役立てるとともに、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の促進、ひいては本学の教育の質の向上に資することを目的とする。また、調査にあたっては個々の担当者の業務評価ではなく、授業の諸側面について、それぞれの性質に適した方法により情報を収集し、改善にかかる学生と教員間のコミュニケーションを促進する評価を目的とする。

調査は、次の手順で行った。

①調査対象とする授業科目

今回調査対象とする授業科目は、専任教員が担当する科目、1科目とし、具体的な対象授業科目については、報告書を参照して下さい。

②調査期間

調査は、平成 26 年 1 月 20 日（月）から 1 月 29 日（水）の期間で行った。

③調査方法

調査は、原則として、担当教員が学生に調査の目的を説明した後に調査票を配付し、学生は回答後、机の上に置き、それを担当教員が回収し、厳封後速やかに、学生部に提出する方法で行った。なお、調査票はマークシート方式であった。

④集計

教員から返却された調査票を取りまとめ、業者に依頼して集計した。

⑤調査結果のフィードバック

調査結果の教員へのフィードバックは、3月上旬に行われ、各教員に「担当授業科目ごとの集計結果」と「担当授業科目の調査票（原本）」が配布された。

各教員は、フィードバックされた資料を基に「授業に関する自己点検票」（様式は自己評価委員会指定の様式）を作成し、学生部に提出した。なお自己点検票は、授業の評価に関する自己評価ではなく、授業全体を通じた評価とした。

自己評価の報告は、2013 年度版盛岡大学短期大学部自己点検・評価報告書に掲載することにより行うこととした。

(2) 幼児教育科教員

社会福祉論 I

対象：幼児教育科 1 年

担当：教授 齋 藤 修

調査対象は幼児教育科 1 年生前期「社会福祉論 I」の履修者 170 名、回答率は 100% である。

調査結果について各質問項目 5 点満点に対する平均点をみると、もっとも高い項目は、問 2「この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つか理解できたか」が 4.41 点、回答率をみると「理解出来た」「やや理解出来た」が 95.9% を占める。次が問 12「担当教員の熱意を感じられたか」4.28 点、回答率は「大変感じられた」「やや感じられた」が 85.8% を占める。3 位は問 8「授業の速度は適切でしたか」4.22 点。ついで問 13「この授業を受けて、将来の仕事に対する動機づけが強められたか」4.20 点、回答率は「大変強められた」「やや強められた」が 83.6% を占める。

問 3「授業時間数」、問 4「予習・復習などの自習」の 2 項目を除く、11 項目中 6 項目が平均点 4 点を超えていた。

一方、平均点がもっとも低かった項目は、問 1「授業内容は難しかったですか、易しかったですか」の 3.12 点であった。しかし回答率をみると「やや難しかったが理解できた」80%、「ちょうど良かった」と合わせると 92.9% を占める。次に低かったのは「教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか」3.22 点である。回答率をみると「少し聞き取りにくかった」「聞き取りにくかった」が 18.4% を占める。自由記述に「早口で聞き取れないことがあった」という指摘があった。出来るだけゆっくり話そうと思っはいるのだが、話しているうちにだんだんと早口になってしまいがちである。「板書の使い方やノートの取りやすさ」は 3.26 点、自由記述に「文字が小さい、薄い、丁寧に書いてほしい」といった指摘があった。以前から文字を丁寧と思いつつも悪筆である。今回、初めて「文字が薄い」と指摘された。チョークの関係かと思うがこれからは気をつけたい。

全体的に講義にたいする学生の評価は良い評価を得ているが、早口と板書については一層注意していきたいと思う。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

科目名	社会福祉 I
担当教員名	齋藤 修
学年	

履修者数	170
回答者数	170

■ 学年

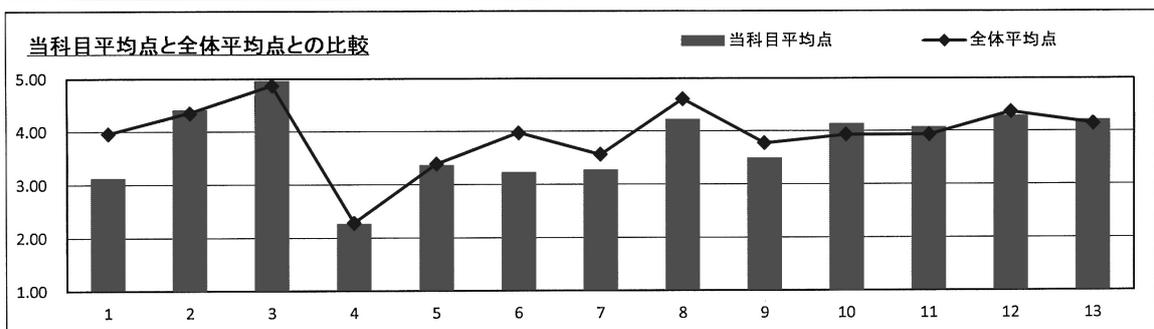
1年	2年	無効回答
168	1	1

■ 性別

男性	女性	無効回答
18	151	1

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問9は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答
問	設問文		5	4	3	2	1		
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.12	11 6.5%	136 80.0%	22 12.9%	0 0.0%	1 0.6%	170	0
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.41	77 45.3%	86 50.6%	6 3.5%	1 0.6%	0 0.0%	170	0
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.95			1 0.6%	166 97.6%	3 1.8%	170	0
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.26		1 0.6%	63 37.1%	85 50.0%	21 12.4%	170	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.36		65 38.2%	101 59.4%	4 2.4%	0 0.0%	170	0
質問項目 II 授業の理解、満足度について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答
問	設問文		大変聞き取りやすかった	聞き取りやすかった	ふつう	少し聞き取りにくかった	聞き取りにくかった		
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	3.22	18 10.6%	40 23.5%	79 46.5%	27 15.9%	6 3.5%	170	0
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.26	13 7.6%	48 28.2%	83 48.8%	23 13.5%	3 1.8%	170	0
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.22	3 1.8%	59 34.9%	106 62.7%	1 0.6%	0 0.0%	169	1
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	3.48	15 8.8%	68 40.0%	72 42.4%	14 8.2%	1 0.6%	170	0
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	4.13	43 25.3%	108 63.5%	17 10.0%	2 1.2%	0 0.0%	170	0
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	4.06	53 31.2%	77 45.3%	37 21.8%	3 1.8%	0 0.0%	170	0
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.28	73 42.9%	73 42.9%	23 13.5%	1 0.6%	0 0.0%	170	0
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.20	62 36.5%	80 47.1%	28 16.5%	0 0.0%	0 0.0%	170	0



科学の基礎

対象：幼児教育科1年 11名

担当：教授 小林 芳弘

授業に対するアンケート集計結果

質問項目Ⅰの1「授業内容の難易」については、難しく理解できなかったは1名だけで、やや難しかった・ちょうどよかったが8割以上なので授業のレベルは適切だったと考えることが出来る。5の「期待する知識や技術が得られたか」については、90%以上の学生が得られたとしているが、2の「この授業が将来の仕事に役立つか」については、理解できたとしたものは36%あまりにすぎなかった。「光の科学」というテーマの授業では、光の性質を理解させた上で、物や色が見える原理を学び、「車社会を考える」というテーマの授業では、車輪と動物の足を比較することにより車の特性を学び、その利点と欠点を考えさせ、最終的にはオゾン層の破壊や地球温暖化、エネルギー問題などの地球環境の問題に発展するプログラムになっている。人類が抱えている大きな課題について取り上げたつもりだが、専門科目とは異なり将来保育現場に出て直ぐに役立つ知識、技術とは感じられなかったかもしれない。

質問項目Ⅱの8、「授業の速度」については約3分の1の学生が速いと感じているが、9の「話す内容」については55%が分かりやすかったと回答しており、90%以上の学生が授業に対する熱意を感じてくれている。しかし、13の「将来の仕事に対する動機付けが強められたか」については、どちらともいえないとする学生が3分の1以上もあり、質問項目Ⅰの2の「この授業が将来の仕事に役立つか」という項目に対する回答と類似した傾向を示している。幼児教育科の一般教養科目としての「科学の基礎」という教科の内容をどのようにするかを考える上で貴重なデータであると思われる。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

1003

科目名	科学の基礎
担当教員名	小林 芳弘
学年	

履修者数	11
回答者数	11

■学年

1年	2年	無効回答
11	0	0

■性別

男性	女性	無効回答
2	9	0

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問9は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

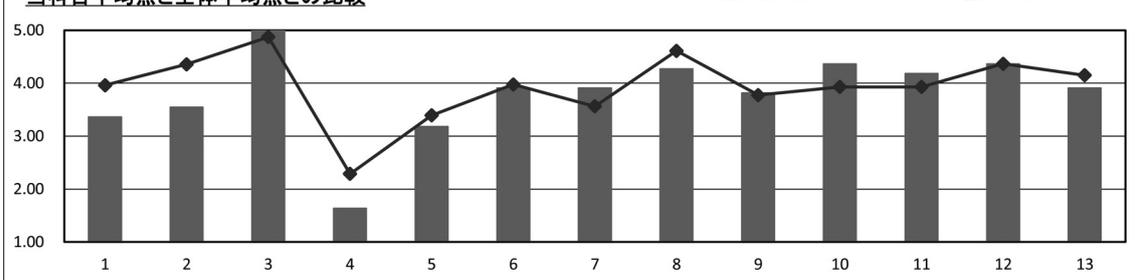
質問項目Ⅰ 授業科目について

問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
			5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.36	1 9.1%	5 45.5%	4 36.4%	0 0.0%	1 9.1%	11	0	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	3.55	3 27.3%	1 9.1%	6 54.5%	1 9.1%	0 0.0%	11	0	
3	授業の時間数はどうでしたか。	5.00	/	/	少ない 0 0.0%	適当 11 100.0%	多い 0 0.0%	11	0	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	1.64	/	/	かなりしていた 0 0.0%	少していた 0 0.0%	ほとんどしていなかった 7 63.6%	まったくしていなかった 4 36.4%	11	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.18	/	/	十分得られた 3 27.3%	やや得られた 7 63.6%	あまり得られなかった 1 9.1%	まったく得られなかった 0 0.0%	11	0

質問項目Ⅱ 授業の理解、満足度について

6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	3.91	大変聞き取りやすかった 3 27.3%	聞き取りやすかった 5 45.5%	ふつう 2 18.2%	少し聞き取りにくかった 1 9.1%	聞き取りにくかった 0 0.0%	11	0
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.91	大変よかったです 3 27.3%	よかったです 5 45.5%	ふつう 2 18.2%	あまりよくなかった 1 9.1%	よくなかった 0 0.0%	11	0
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.27	速かった 1 9.1%	やや速かった 2 18.2%	適切だった 8 72.7%	やや遅かった 0 0.0%	遅かった 0 0.0%	11	0
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	3.82	大変わかりやすかった 3 27.3%	わかりやすかった 3 27.3%	ふつう 5 45.5%	ややわかりにくかった 0 0.0%	わかりにくかった 0 0.0%	11	0
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	4.36	大変集中できた 5 45.5%	集中できた 5 45.5%	どちらともいえない 1 9.1%	あまり集中できる雰囲気ではなかった 0 0.0%	集中できる雰囲気ではなかった 0 0.0%	11	0
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	4.18	大変有効だった 4 36.4%	有効だった 5 45.5%	ふつう 2 18.2%	あまり有効ではなかった 0 0.0%	まったく有効ではなかった 0 0.0%	11	0
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.36	大変感じられた 5 45.5%	やや感じられた 5 45.5%	どちらともいえない 1 9.1%	あまり感じられなかった 0 0.0%	感じられなかった 0 0.0%	11	0
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	3.91	大変強められた 3 27.3%	やや強められた 4 36.4%	どちらともいえない 4 36.4%	あまり強められなかった 0 0.0%	まったく強められなかった 0 0.0%	11	0

当科目平均点と全体平均点との比較



保育内容の指導法「遊びと表現」

対象：幼児教育科1年

担当：教授 松 里 雪 子

「授業のねらいとすすめ方」

シラバスを要約すると就学前の子どもの発達段階に対応し、美術の分野に主眼をおいた遊びの教材研究である。授業には使用頻度の高い道具・材料の多様な扱いによる展開を試みることで認識を深める。資料は事前に配布。

「授業に関するアンケート集計結果から」

調査に協力した学生は履修者171名中、授業に出席した160名である。13の質問項目の回答で8の「あなたにとって授業の速度は適切でしたか」のみが全体平均点を0.3程の差で低い値である。他の12の項目は全体平均点とほぼ同じか、若干高い数値である。更に科目担当者として気になるのは3の「授業の時間数はどうでしたか」である。15回実施しているが「少ない」が44%、8の回答で「速かった」が22%、「適切だった」が74.2%である。更に5の「この授業から、あなたが期待する知識・技術が得られましたか」の回答で「十分得られた」が69.2%で「やや得られた」の30.8%も気になるところである。時間数が少ない、速度が速い、そして約31%が5に関して「やや得られた」と記している。この数値は担当者の内容提示が希薄だったのでは、ということと学生たちのニーズへの働きかけの作業が不十分だったのではないかとということである。そのことを裏付ける評価として捉えられるのが「この授業科目の内容について、特に言いたいこと」に9件、「担当教員の教授方法について、特に言いたいこと」に11件である。大方担当者冥利に尽きる内容であるが、件数が前回との比較では極端に少ないことと、その内容があまりにも素直に楽しみ喜んでいるところが気になる。そうであるなら更に準備に時間をかけ、一つ一つの教材を掘り下げて提供するべきであった、という反省である。

ここ数年学生たちの遊びの種類・道具・材料への経験値の低さを実感している。材料の残り、捨てる量が多い。そして、思いがけないところでの失敗。これは初期段階での基本での取り組み方の不足により、その材料の持つ有効性を認識できず、展開できない、活用できない、ということと考えられる。その教材・材料の特性との出会い、発見の場を多く設けることを心がけることの必要性を実感したことである。

1年生の後期の開設科目では殆ど全員が10日間の施設実習のために1回から2回は欠席をする。この事を認識しており、繰り返しを数回取り入れて授業を進めてはいるのだが、今後この件に関して更に細かな見直しの必要性があると思われる。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5004

科目名	保育内容の指導法 遊びと表現
担当教員名	松里 雪子
学年	1年生

履修者数	171
回答者数	160

■ 学年

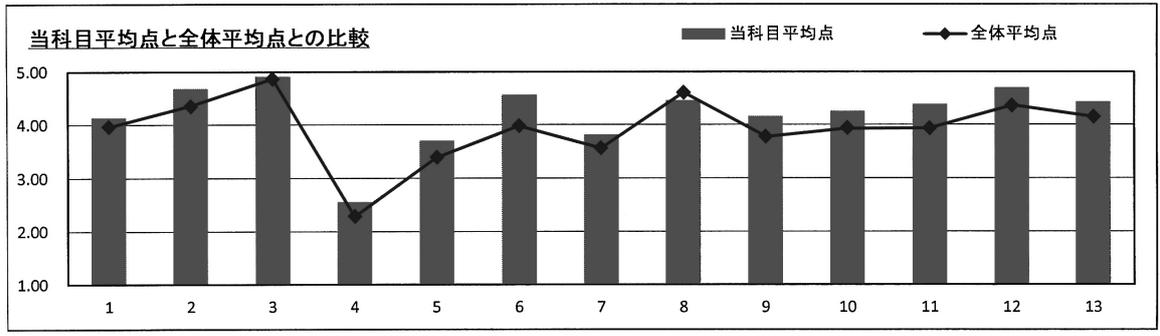
1年	2年	無効回答
160	0	0

■ 性別

男性	女性	無効回答
16	144	0

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について									
問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	4.13	0 0.0%	67 41.9%	90 56.3%	3 1.9%	0 0.0%	160	0
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.68	115 71.9%	38 23.8%	7 4.4%	0 0.0%	0 0.0%	160	0
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.90	/	/	7 4.4%	152 95.0%	1 0.6%	160	0
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.54	/	8 5.0%	79 49.4%	65 40.6%	8 5.0%	160	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.69	/	110 69.2%	49 30.8%	0 0.0%	0 0.0%	159	1
質問項目 II 授業の理解、満足度について									
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	4.56	102 63.8%	47 29.4%	9 5.6%	2 1.3%	0 0.0%	160	0
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.80	31 19.4%	70 43.8%	56 35.0%	2 1.3%	1 0.6%	160	0
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.45	3 1.9%	36 22.6%	118 74.2%	2 1.3%	0 0.0%	159	1
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	4.15	55 34.4%	77 48.1%	25 15.6%	3 1.9%	0 0.0%	160	0
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	4.25	56 35.2%	88 55.3%	14 8.8%	0 0.0%	1 0.6%	159	1
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	4.38	75 46.9%	70 43.8%	15 9.4%	0 0.0%	0 0.0%	160	0
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.69	117 73.1%	38 23.8%	4 2.5%	0 0.0%	1 0.6%	160	0
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.42	80 50.0%	67 41.9%	13 8.1%	0 0.0%	0 0.0%	160	0



自己点検・評価報告書授業評価アンケートについて

平成 26 年 1 月 24 日実施されたアンケートを基に、当該授業に関して思う事を以下に概観しつつ、今後のより望ましい授業のあり方を検討する一助に資するようにしたい。

1. 本学々生の「英語科」に寄せる意識の現状

学生達の多くが、中学校において初めて英語に实际的に触れ、英語と良好な関係を持ち得ないケースが、想像以上に多い事に気付かされる。それは殊にリーディング、ライティングにおいて顕著であるように見える。語学の修得には、日々研鑽の集積が不可欠である。ネイティブスピーカーが言う「英語力の向上云々」は、基礎力の不足を意味するケースが多いようである。一定以上の学力が要求される高等学校の入学試験にあつて、基礎学力に不安を覚えつつも更なる知識を上乘せしなくてはならず、どうしても学生達の苦手意識が助長される傾向になり勝ちである。従つて、学生達の意識は英語そのものに集中する事となり、英語によって伝えられる事からは逸れて行く場合が多くなるのである。

2. アンケート結果についての考察

1) 質問項目Ⅰ 授業科目について

教材は、近年は保育現場を扱ったものを使用しており、学生達の興味をできるだけ幼児教育の分野に近づける努力をしている。アンケートによれば、中間部分への回答が集中しており、建設的な意見・指摘に乏しい結果となっている。特に注目していた予習・復習を試みない学生の数は予想通りとはいえ、やはり淋しい結果であるといえよう。

2) 質問項目Ⅱ 授業の理解、満足度について

先天的に、小生の声・発声法・話し方には不明瞭な分子が内在しており、英語の発音には、しばしば効果的であるが、母国語においては、余りそうではない事が、テープレコーダーに録音したものを再生すると、事実として理解される。それ故、小生の言わんとする所を把握するには、かなりの苦痛が伴う事であろう。

板書も小生の最も苦手とする所である。学生によっては、忠実にノートをとる向もあるが、それによって理解が深まるとは到底思えない所にある。要反省というべきか。他は大旨、同情心に満ちたものが多い。教員の熱意については肝心な所であるが、小生はあえて学生を突き離す態度で接する事を旨としており、客観性の問題であると思われる。最後の項目（将来の仕事に対する動機づけ）に注目した。中間部に評価が集中していて、一面において積極的な評価とはいえないものがある。むしろ低く評価を下した学生達の生の声を聞いてみたい。

3. 総合的に言える事

小生が本学で接している学生達の殆どが、卒業必修科目としての「英語」であって、非常に消極的な選択であるといえる。本学の入学試験の中でも、英語は100%の必須科目ではないようである。当然さまざまに多様な英語力の学生達がいるのは事実である。そのような学生を一様に満足させ得る事は至難の技といえよう。定期試験に言及する時にかすかに見せる学生の頷きや眼の輝きが、願わくば通常の授業運営の中においても垣間見る事が出来得るとすれば、それこそ理想的であろう。

基礎を確認する作業（学生達の）は、時として学生達の短大生としてのプライドを傷つける事に発展する危険性を内包している。しかし、その複雑な要素を有するプライドなるものを自ら捨て去る事や、「どうせ英語」的なネガティブな立場から脱却する事が可能であるとすれば、学生達の英語学習に一条の光明を見出す事となるろう。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5007

科目名	コミュニケーション イン ライティング
担当教員名	中里 義博
学年	1年生

履修者数	171
回答者数	156

■ 学年

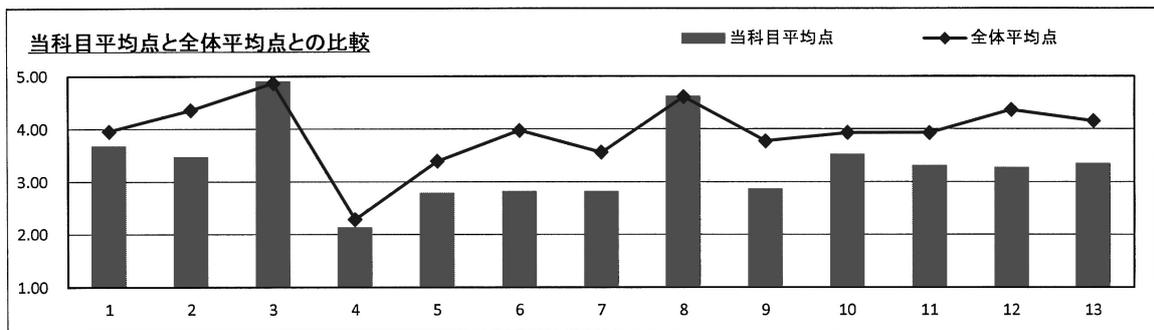
1年	2年	無効回答
155	0	1

■ 性別

男性	女性	無効回答
12	143	1

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について									
問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.68	20 12.8%	54 34.6%	75 48.1%	5 3.2%	2 1.3%	156	0
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	3.46	15 9.6%	65 41.7%	57 36.5%	15 9.6%	4 2.6%	156	0
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.90			2 1.3%	148 94.9%	6 3.8%	156	0
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.12		3 1.9%	47 30.1%	72 46.2%	34 21.8%	156	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	2.78		12 7.7%	103 66.5%	34 21.9%	6 3.9%	155	1
質問項目 II 授業の理解、満足度について									
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	2.81	6 3.8%	15 9.6%	86 55.1%	41 26.3%	8 5.1%	156	0
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	2.81	5 3.2%	11 7.1%	93 59.6%	43 27.6%	4 2.6%	156	0
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.61	3 1.9%	15 9.7%	129 83.2%	7 4.5%	1 0.6%	155	1
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	2.85	6 3.9%	17 11.0%	86 55.5%	40 25.8%	6 3.9%	155	1
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	3.52	7 4.5%	74 47.7%	67 43.2%	6 3.9%	1 0.6%	155	1
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	3.30	10 6.4%	38 24.4%	98 62.8%	9 5.8%	1 0.6%	156	0
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	3.27	14 9.0%	39 25.2%	81 52.3%	17 11.0%	4 2.6%	155	1
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	3.34	11 7.1%	52 33.5%	74 47.7%	15 9.7%	3 1.9%	155	1



造形基礎立体

対象：幼児教育科 1 年

担当：教授 長谷川 誠

この調査は平成 26 年 1 月 23 日(幼児教育科 1 年 B、C 組)、1 月 28 日(同 A 組)の両日、「造形基礎立体」の授業の中で学生による無記名による授業評価のためのアンケートとして行った。回収総数は 167 名(内無効回答 3 名)である。以下にアンケートの集計及び考察を記載し、今後の授業のあり方を探る上での指標としたい。

調査方法：無記名によるアンケート方式により質問項目 I 授業科目についてとして五つの質問項目に対する段階評価(5 段階評価)及び質問 II 授業の理解、満足度についてとして八つの質問項目に対する段階評価(5 段階評価)、加えて自由記述とし、自由記述部分については希望者のみ記入させた。

質問項目及び評価段階は次の通り。質問項目 I 1. 授業の内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。2. この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。3. 授業の時間数はどうでしたか。4. 授業の予習・復習などの自習はしていましたか。5. この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。以上の質問項目に対して 5 段階評価(難しく理解できなかつた、やや難しかったが理解できた、ちょうどよかった、やや易しく理解しやすかつた、易かつた)をさせた。質問項目 II 6. 教員の声、話す内容は聞き取りやすかつたですか。7. 担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。8. あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。9. 教員の話す内容はわかりやすかつたですか。10. 授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。11. 授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。12. 授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。13. この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。以上の質問項目に対して項目ごとに 5 段階評価(別表参照)をさせた。

標記授業科目は幼稚園教諭免許取得に必修で保育士資格取得に選択ということもあり、幼児教育科学生ほぼ全員が履修し、前期の「造形基礎平面」とともに演習を中心とした授業形態から今回は質問項目に作品課題の設定に対する学生の評価を特に加えたが、今回は加えることは出来なかつた。

自由記述について、項目ごとに主な内容を記す。

【この授業科目の内容について、特に言いたいこと】

ためになった。難しい課題もあったけど、こういう作業が好きなので基本的に楽しくやることができました。いろいろなものをつくってみてとても楽しかつたです。難しかつた。色々な作品をたくさんつくることができて、とても楽しかつたです。立体が楽しかつたです。好きになってきた。意欲が持てる講義内容だつた。造形楽しい。

【担当教員の授業方法について、特に言いたいこと】

難しい作業もありましたがとても楽しかったです。色々な体験ができてよかった。1人1人に色をかけてくれて、よかった。様々なアドバイスがもらえて、どうすれば良いかが分かってよかったです。やったことのないことばかりで楽しかったです。少し説明を短くしてもらえたら良いです。楽しかった。楽しかったです！。

考察

アンケートによる結果から、学生の授業に対する主体的な取り組みや、授業の目的理解は概ね達成されていると推察する。本講義の形態（演習主体）から、学生個々の理解進度や技術的な差にいかに対応しながら、授業の到達目標の設定、課題設定、評価といった一連の関係をを行うか、今回の結果を受け止めて演習指導法の向上を考えたい。特に、演習への導入、説明に関して学生の理解度を高められるように指導方法、教室環境の整備を含め尚一層、努めたい。また、クラス単位でほぼ必修に近い履修者数である演習授業は、学生個々の理解度や技術力の差を平均的レベルで捉えざるを得ない面が、学生のニーズに対して十分であるのか授業編成、カリキュラムの再考（特に少人数制の検討等）も行うべき時期にきたのかと考える。ただ多くの学生が自由記述から推察するに、本講義を楽しんで学んでもらえたことは担当者として大いに励みに思うところだ。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

科目名	造形基礎立体
担当教員名	長谷川 誠
学年	1年生

5010

履修者数	171
回答者数	167

■ 学年

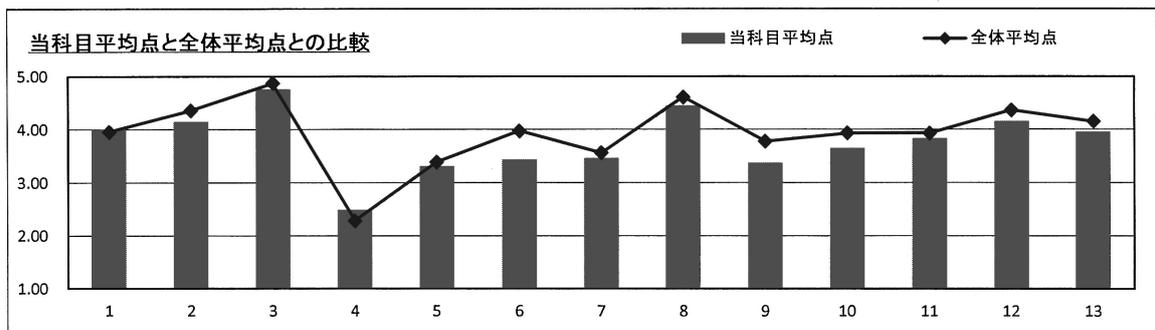
1年	2年	無効回答
164	0	3

■ 性別

男性	女性	無効回答
16	148	3

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について										
問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
			5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.99	3 1.8%	72 43.1%	86 51.5%	6 3.6%	0 0.0%	167	0	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.13	53 31.9%	86 51.8%	24 14.5%	2 1.2%	1 0.6%	166	1	
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.75	/	/	18 10.8%	146 87.4%	3 1.8%	167	0	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.47	/	/	12 7.2%	79 47.3%	52 31.1%	24 14.4%	167	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.30	/	/	56 33.7%	104 62.7%	5 3.0%	1 0.6%	166	1
質問項目 II 授業の理解、満足度について										
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	3.43	19 11.4%	49 29.3%	85 50.9%	12 7.2%	2 1.2%	167	0	
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.45	16 9.7%	49 29.7%	94 57.0%	5 3.0%	1 0.6%	165	2	
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.44	5 3.0%	36 21.6%	125 74.9%	1 0.6%	0 0.0%	167	0	
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	3.36	11 6.6%	50 30.1%	94 56.6%	10 6.0%	1 0.6%	166	1	
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	3.64	15 9.0%	85 50.9%	61 36.5%	4 2.4%	2 1.2%	167	0	
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	3.82	27 16.3%	84 50.6%	53 31.9%	2 1.2%	0 0.0%	166	1	
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.14	54 32.5%	82 49.4%	30 18.1%	0 0.0%	0 0.0%	166	1	
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	3.94	37 22.3%	85 51.2%	42 25.3%	1 0.6%	1 0.6%	166	1	



家庭支援論

対象：幼児教育科2年生

担当：教授 大塚 健 樹

「家庭支援論」の授業アンケートの集計結果は、図1の通りであった。

「家庭支援論」は、幼稚園二種免許状、保育士資格取得のための必修科目である。そのため、幼児教育科2年制のほぼ全員が受講している。受講生171名に対して、アンケート回答者数は161名で、回答率は94パーセントであった。

授業内容は、現在幼稚園教諭と保育士等の業務に新たに加わった保護者支援の背景について学び、具体的な家庭支援の在り方を探ることが主となっている。学生からすると、これから社会に出てからのことであり、彼等彼女らが結婚してからの事でもあり、なかなか想像しにくく理解しにくい内容である。そのため、自らの経験を話したり、映画「クレイマー クレイマー」などを見せたりしながら、具体的にイメージしやすい授業となるよう心がけたつもりである。また、これたまでの授業評価から、板書や書く文字がわかりにくいという指摘もあったので、その点は常に丁寧な字で、わかりやすい板書を心がけたつもりである。

アンケートの集計結果を見ると、全体の平均値とほぼ同じ項目が2.3.5.11.12.13番で、平均値より高いのが1.6.7.8.9番、平均値より低いのが4.10番である。課題だった板書について問われている7番「担当者の板書の仕方やノートのとりやすさはどうでしたか。」が、平均より若干高いので、改善効果があったようで良かった。あまり課題を出さなかったため、4番の「授業の予習・復習などの自習をしていましたか」という項目は全体平均より低くなっている。この点は、反省し今後に生かしたいと考えている。平均より低い2番の「この授業の目的が将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか」は、授業の性格上致し方ないと言えるが、今後、さらに具体的事例を増やすなどの改善を図りたい。

自由記述の部分で「海外との事例比較をもっとして欲しかった」という指摘があったが、確かに授業の中でもっと取り上げれば良かったと反省している。現在、カナダやアメリカで調査を実施しているので、家庭支援の観点からもデータをまとめ、授業で紹介したいと思う。あと、自由記述の部分で「授業がわかりやすかった」、「ビデオが良かった」、「教科書がわかりやすかった」、「住育について興味を持った」という記述が多く見られるので、これまでの授業評価を踏まえて改善を図ってきたことの成果が出たのではないかなと言える。これからも事例を多くし、ビデオなどの視聴覚教材を使ってわかりやすい授業を心がけていきたい。「住育」については、現在共同研究者とテキストを作成する方向で、研究が進んでいるので、これも今後より理論的にわかりやすいかたちで、紹介していきたい。

これからの課題として、海外の事情の紹介や予習・復習などの自己学習が増える工夫をしたい。また、平成27年度から2年前期に授業が移動したので、幼稚園教育実習や後期の「幼児教育相談」などとの連携を考えた授業展開を行っていきたい。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5001

科目名	家庭支援論
担当教員名	大塚 健樹
学年	2年生

履修者数	171
回答者数	161

■学年

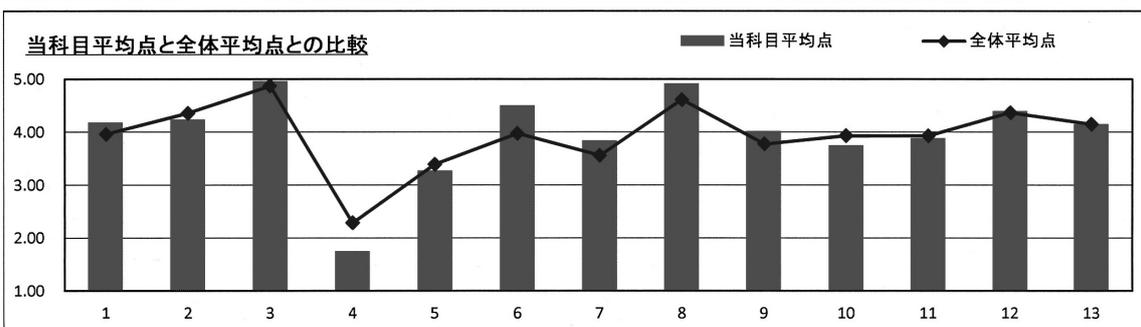
1年	2年	無効回答
0	161	0

■性別

男性	女性	無効回答
13	148	0

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	4.17	0 0.0%	48 29.8%	101 62.7%	5 3.1%	7 4.3%	161	0	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.23	50 31.3%	98 61.3%	10 6.3%	2 1.3%	0 0.0%	160	1	
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.95	/	/	1 0.6%	156 97.5%	3 1.9%	160	1	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	1.74	/	/	2 1.2%	12 7.5%	89 55.3%	58 36.0%	161	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.26	/	/	45 28.0%	113 70.2%	3 1.9%	0 0.0%	161	0
質問項目 II 授業の理解、満足度について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		大変聞き取りやすかった	聞き取りやすかった	ふつう	少し聞き取りにくかった	聞き取りにくかった			
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	4.48	87 54.0%	65 40.4%	9 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	161	0	
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.82	32 19.9%	75 46.6%	47 29.2%	7 4.3%	0 0.0%	161	0	
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.90	2 1.2%	2 1.2%	155 96.3%	2 1.2%	0 0.0%	161	0	
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	4.01	37 23.0%	89 55.3%	34 21.1%	1 0.6%	0 0.0%	161	0	
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	3.73	22 13.8%	83 51.9%	45 28.1%	10 6.3%	0 0.0%	160	1	
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	3.87	32 19.9%	77 47.8%	51 31.7%	1 0.6%	0 0.0%	161	0	
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.39	71 44.1%	81 50.3%	9 5.6%	0 0.0%	0 0.0%	161	0	
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.14	42 26.1%	99 61.5%	20 12.4%	0 0.0%	0 0.0%	161	0	



音楽表現法

対象：幼児教育科1年

担当：教授 剣 持 清 之

音楽表現法は、コードネームによる簡易伴奏法演習とピアノ実技個人レッスンを、隔週で行う1年後期開講の幼稚園教諭免許必修科目である。

和音記号により旋律に伴奏をつけるコードネーム伴奏は、個々の技術に合わせて自由に様々なパターンで伴奏ができる方法である。左手でバス(和音根音)・右手でコード(和音)を弾く両手伴奏法と、右手で旋律・左手でコードを弾くメロディー付き伴奏法の二種類から学生が自由に伴奏法を選び弾き歌いで演習を行う。教材は幼児のための生活の歌・季節の歌を使用し、前期はハ長調、後期はヘ長調のコードネーム伴奏習得を目標としている。ピアノ実技レッスンにおいては、それぞれのレベルに合わせて個人レッスンを行い、ピアノ初心者はバイエル教則本終了を目標とした。今回の調査においては、コードネーム伴奏法演習を対象とした。

調査結果については別表どおりである。自由記載「弾けるようになるまでは苦勞するが、最終的には自分につながる講義内容だった」「ピアノ技術が4月より上達し、メロディー付き伴奏ができるようになった」「初心者には難しい内容ではあったが、将来のためにスキルアップができた」「将来に大変役立つ授業なので授業時間をもっと増やしたほうが良い」「幼児の歌が弾けるようになり楽しい。練習した分上達すると感じた」「曲によって伴奏を工夫することができるようになった」「ピアノを弾いたあとにアドバイスを書き込んでくれるので分かりやすかった」「試験の出来だけでなく普段の取り組みも評価に入れてほしい」等53の記述があった。

調査結果・自由記載から、本講義の目的内容に関して、おおむね学生に浸透していると思われる。授業では全員がキーボードを使い弾き歌い課題を練習し、グランドピアノを使用して全員の前でレッスンを受けるスタイルをとっている。授業内容は初心者にとっては難しかったと思われるが、音符になじみ楽器に触れる時間を増やすことによって、両手伴奏からメロディー付き伴奏への技術向上、それぞれの技術に合わせて曲想にあった伴奏の工夫等をアドバイスしていくことで実践力が身についてくる。本講義は学生のピアノ経験の有無により理解・実践に大きな差が出てくる。入学者の約80%がピアノ初心者あるいは初級程度の経験者であることを踏まえ、学生がピアノへの苦手意識を持たないように、それぞれの技術・進度に合わせて分かりやすくきめ細かい指導を行い、実践力が身につく授業を目指すことが今後の課題である。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5013

科目名	音楽表現法
担当教員名	劔持 清之
学年	1年生

履修者数	171
回答者数	157

■学年

1年	2年	無効回答
155	0	2

■性別

男性	女性	無効回答
16	139	2

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問9は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

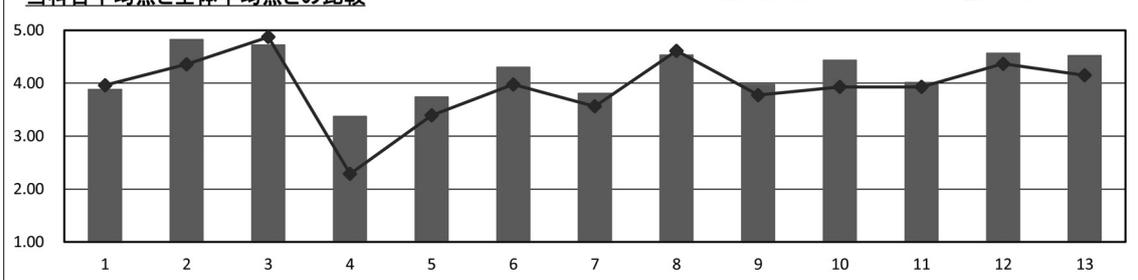
質問項目Ⅰ 授業科目について

問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.88	2 1.3%	72 45.9%	74 47.1%	6 3.8%	3 1.9%	157	0
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.82	132 84.1%	22 14.0%	3 1.9%	0 0.0%	0 0.0%	157	0
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.72	/	/	19 12.1%	135 86.0%	3 1.9%	157	0
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	3.37	/	/	61 38.9%	93 59.2%	3 1.9%	157	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.74	/	/	117 74.5%	39 24.8%	1 0.6%	157	0

質問項目Ⅱ 授業の理解、満足度について

6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	4.30	大変聞き取りやすかった 61 38.9%	聞き取りやすかった 83 52.9%	ふつう 12 7.6%	少し聞き取りにくかった 1 0.6%	聞き取りにくかった 0 0.0%	157	0
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.81	大変よかった 31 19.9%	よかった 65 41.7%	ふつう 59 37.8%	あまりよくなかった 1 0.6%	よくなかった 0 0.0%	156	1
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.53	速かった 3 1.9%	やや速かった 27 17.2%	適切だった 124 79.0%	やや遅かった 2 1.3%	遅かった 1 0.6%	157	0
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	3.97	大変わかりやすかった 43 27.4%	わかりやすかった 72 45.9%	ふつう 37 23.6%	ややわかりにくかった 5 3.2%	わかりにくかった 0 0.0%	157	0
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	4.43	大変集中できた 73 46.5%	集中できた 79 50.3%	どちらともいえない 5 3.2%	あまり集中できる雰囲気ではなかった 0 0.0%	集中できる雰囲気ではなかった 0 0.0%	157	0
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	4.01	大変有効だった 47 29.9%	有効だった 65 41.4%	ふつう 45 28.7%	あまり有効ではなかった 0 0.0%	まったく有効ではなかった 0 0.0%	157	0
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.56	大変感じられた 92 59.0%	やや感じられた 60 38.5%	どちらともいえない 4 2.6%	あまり感じられなかった 0 0.0%	感じられなかった 0 0.0%	156	1
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.52	大変強められた 95 60.9%	やや強められた 48 30.8%	どちらともいえない 12 7.7%	あまり強められなかった 1 0.6%	まったく強められなかった 0 0.0%	156	1

当科目平均点と全体平均点との比較



教育情報処理演習

対象：幼児教育科1年

担当：教授 宮 森 孝 治

【授業の概要】

本科目は幼稚園教諭二種免許取得のための専門必修であり、卒業必修でもあるので幼児教育科1年生は全員履修している。前期の「情報処理入門」教科でコンピュータの基本操作の習得を踏まえて、幼稚園教諭として必要となる「園だより」「誕生カード」などの教育文書の作成や「園児名簿・住所録」等のデータ処理、教育教材活用のひとつとして「デジタル絵本」制作などの演習中心の教科である。

【アンケート結果】

最後の授業（H26年1月）においてアンケートを実施し、履修者数が164人のところ163人の回答が得られた。質問内容は授業科目についての評価として5項目、授業の理解、満足度について8項目を行い、下記のとおり各項目の評価の平均値及び内訳の集計結果が得られた。また、当科目平均点と全体平均点の比較を示す。

【授業科目についての評価（1～5項）】

（1項）授業の難易度、（2項）授業の目的、（3項）授業時間数、（5項）期待する知識・技能の質問に対する回答については肯定的評価が多く、全体平均点と比較しても大きな差がないように思えるが、（1項）、（2項）及び（5項）について、できるだけ否定的評価が減少するように、今後さらに、授業の目的をより明確にするとともに、授業の進め方等についても改善の余地があると感じた。

【授業の理解度、満足度についての評価（6～13項）】

（6項）、（7項）、（9項）について肯定的回答が多いとは言えず、また全体平均点と比較してもやや低いことから、授業方法について大いに改善する必要があると感じた。また（11項）教員の熱意、（12項）将来の動機付けについても同様の結果であり、工夫改善の必要性を感じた。11月～12月の実習で1～3回授業に参加できない学生達がいるということや、ホームページ制作やデジタル絵本制作の手順や目的が少し分かりにくいと感じた学生もいたのではないと思われる。

【今後の課題】

理解度の早い学生に他の学生のアドバイスやアシスタント的な役割ができるような授業手法を取り入れて、様々な受講生のレベルに対応した授業にする必要がある。また、時間配分や内容の吟味、資料の充実、進め方について改善の余地が大いにある。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5018

科目名	教育情報処理演習
担当教員名	宮森 孝治
学年	1年生

履修者数	171
回答者数	165

■学年

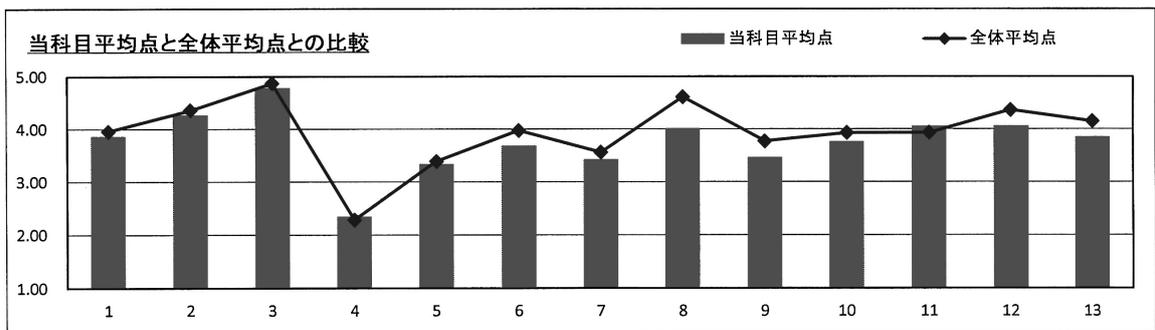
1年	2年	無効回答
164	0	1

■性別

男性	女性	無効回答
17	147	1

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.86	4 2.4%	75 45.5%	78 47.3%	5 3.0%	3 1.8%	165	0	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.25	71 43.0%	70 42.4%	21 12.7%	1 0.6%	2 1.2%	165	0	
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.77			17 10.3%	146 88.5%	2 1.2%	165	0	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.33			6 3.7%	67 40.9%	66 40.2%	25 15.2%	164	1
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.33			61 37.0%	98 59.4%	5 3.0%	1 0.6%	165	0
質問項目 II 授業の理解、満足度について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		大変聞き取りやすかった	聞き取りやすかった	ふつう	少し聞き取りにくかった	聞き取りにくかった			
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	3.68	24 14.5%	69 41.8%	67 40.6%	5 3.0%	0 0.0%	165	0	
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.41	15 9.4%	37 23.1%	107 66.9%	1 0.6%	0 0.0%	160	5	
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.00	10 6.1%	57 34.8%	92 56.1%	5 3.0%	0 0.0%	164	1	
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	3.45	10 6.1%	64 39.0%	81 49.4%	8 4.9%	1 0.6%	164	1	
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	3.75	20 12.1%	88 53.3%	53 32.1%	4 2.4%	0 0.0%	165	0	
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	4.04	42 25.5%	88 53.3%	34 20.6%	1 0.6%	0 0.0%	165	0	
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.05	46 27.9%	81 49.1%	38 23.0%	0 0.0%	0 0.0%	165	0	
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	3.84	29 17.6%	84 50.9%	50 30.3%	1 0.6%	1 0.6%	165	0	



保育内容の指導法 表現

対象：幼児教育科1年

担当：教授 菊池 由美子

この科目は、1年次前期に開講されている卒業および幼稚園教諭二種免許状、保育士資格取得のための必修科目である。授業の概要は、幼稚園教育要領および保育所保育指針の領域「表現」に示されているねらい、内容を理解し、幼児の発達段階を踏まえて音楽教育方法を体験しながら幼児のいろいろな表現や方法の実践をめざしている。

授業に関するアンケート調査の結果は、右表のとおりである。授業内容がやや易しかった傾向が見受けられたことと、授業に集中できる雰囲気にかける面が見受けられた。講義だけではなく手あそびや運動などの演習を多く取り入れているため、声を出したり動いた後は騒がしくなり、静かになるのを待って次の実践に移るといった状況にある。できるだけスムーズに授業を進める工夫が必要である。

自由記述については、「今まで知らなかった歌や手あそびを覚えることができてよかった」「実際に歌ったり動いたり作ったりすることができて、保育士になってから生かすことができると思った」「とても楽しかった」「たくさんアドバイスをしてくれたのでよかった」「保育士になった時、子どもにどのように音楽を触れさせればよいのかを学ぶ事ができた」「どのようにすれば子どもたちにわかりやすく伝えることができるか話し合いを重ね、表現できるよう活動することができた」「手あそび、子どもの歌、手づくり楽器、音楽劇など、たくさん経験できたし、他の人の作品も見ることができたので参考になった」「人前で発表するのは難しかった」「目的を持ってしっかり取り組むことができた」「将来に生かせる授業でよかった」「皆の前で発表したりする機会が多く、保育士になってから生かすことができると思った」「雰囲気がよくて皆で楽しくできてよかった」「グループ発表などの機会が多かったので役に立った」「もっとグループ発表をしたかった」「もっと手あそびを知りたい」などがあげられていた。

授業では、ただ歌を覚えるためだけに歌うのではなく、子どもの目線に立ち、保育者自身が楽しくわかりやすく歌い、子どもたちの興味を引き出しながら表現することに重点を置いている。自由記述の内容をみるとおおむね重点のねらいは伝わっていると推察する。今後は授業の内容をもう少し吟味し、易しすぎないように改善していきたい。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

1001

科目名	保育内容の指導法 表現
担当教員名	菊池 由美子
学年	

履修者数	170
回答者数	168

■ 学年

1年	2年	無効回答
167	0	1

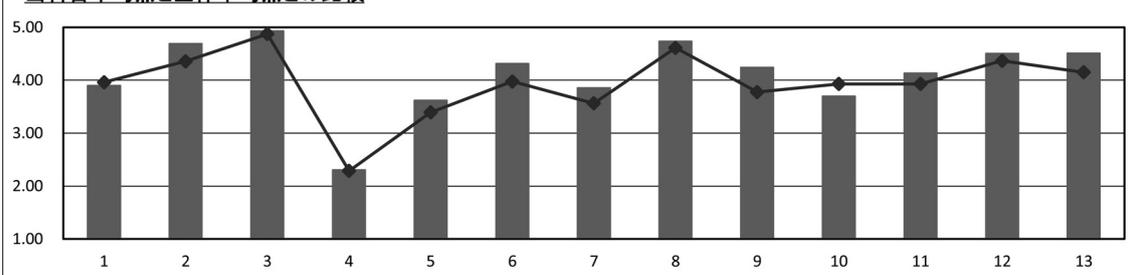
■ 性別

男性	女性	無効回答
16	150	2

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問9は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.90	1 0.6%	17 10.2%	105 62.9%	15 9.0%	29 17.4%	167	1	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.69	124 74.3%	39 23.4%	1 0.6%	1 0.6%	2 1.2%	167	1	
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.93	/	/	少ない 6 3.6%	適当 161 96.4%	多い 0 0.0%	167	1	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.31	/	/	かなりしていた 5 3.0%	少していた 63 37.7%	ほとんどして 77 46.1%	まったくして 22 13.2%	167	1
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.62	/	/	十分得られた 103 62.0%	やや得られた 63 38.0%	あまり得られ 0 0.0%	まったく得られ 0 0.0%	166	2
質問項目 II 授業の理解、満足度について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		大変聞き取り やすかった	聞き取り やすかった	ふつう	少し聞き取り にくかった	聞き取り にくかった			
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	4.32	85 50.6%	59 35.1%	16 9.5%	8 4.8%	0 0.0%	168	0	
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.86	47 28.0%	55 32.7%	62 36.9%	3 1.8%	1 0.6%	168	0	
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.74	5 3.0%	12 7.2%	150 89.8%	0 0.0%	0 0.0%	167	1	
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	4.24	64 38.6%	78 47.0%	24 14.5%	0 0.0%	0 0.0%	166	2	
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	3.70	19 11.3%	87 51.8%	54 32.1%	8 4.8%	0 0.0%	168	0	
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	4.13	51 30.7%	86 51.8%	29 17.5%	0 0.0%	0 0.0%	166	2	
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.51	95 57.2%	60 36.1%	11 6.6%	0 0.0%	0 0.0%	166	2	
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.51	94 56.3%	64 38.3%	9 5.4%	0 0.0%	0 0.0%	167	1	

当科目平均点と全体平均点との比較



社会的養護内容

対象：幼児教育科2年

担当：教授 嶋野重行

「社会的養護内容」の科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、後期に開講している。

授業としては、前期履修の「社会的養護」にかかわって、子どもを対象とした社会福祉施設での具体的な養護内容についての理解を深めることにある。

一般に子どもの養護は家庭養護と社会養護に区分される。社会が子どもの養育に関わる際の社会的養護の対象は虐待や孤児、片親など家庭に問題を抱えている子ども、障がいなどを持っている子どもに大別することができる。本授業では家庭や本人になんらかの問題を抱えているところに対して、主に社会制度が子どもの養育面でかかわっていく施設での養護内容を学習していく。その中心となる施設が、児童養護施設や障がい児発達支援施設などである。

学生たちは1年次に社会福祉施設ですでに実習を行ってきている。その内容についてはレポートとして提出させており、さらに2年次の本授業では自分の実習施設での経験を通して学んだ事柄を発表させるとともに今後の課題などの情報を他の受講生と共有して、問題解決に向けて考えることができるように授業を展開している。

学生たちは、1年次に社会福祉施設で実習を行っているが、その実習先は乳児院、児童養護施設、障がい児施設、障がい者支援施設など多岐にわたっている。自分の実習先とは違う経験を発表しあうため、学生たちは主体的に学習に参加し、互いに興味津々と発表を聞いているようである。それに対する評価は、発表することによって20%、発表者に対する質問について30%の割合で行っている。工夫している点は、発表するだけでなく、質問することによって高い評価を与えて、問題を深く考えることができるようにしている。そして、討論後にはそのコメントについて教員が行い、一般的、学問的見地からの見方を整理してまとめるようにしている。

さらに授業を進める上では、拙著の市販テキストを使用し、基本的に覚えておかなければならないミニマムエッセンシャルな事柄を確認するようにしている。また、特に最近では子どもを巡る虐待の問題、発達障害の問題が多くニュースなどで報じられるようになってきていることから社会福祉や教育に関わるニュースや話題を取り上げて、エッセイとして仕上げ、プリント配付することをしている。これは、社会の時事問題に関心を持って欲しいという願いからである。

これらに対して学生からの評価は総じて、好意的にとらえられ理解できているということであった。自由記述による感想・意見については次のとおりであった。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

科目名	社会的養護内容
担当教員名	嶋野 重行
学年	2年生

履修者数	171
回答者数	165

■ 学年

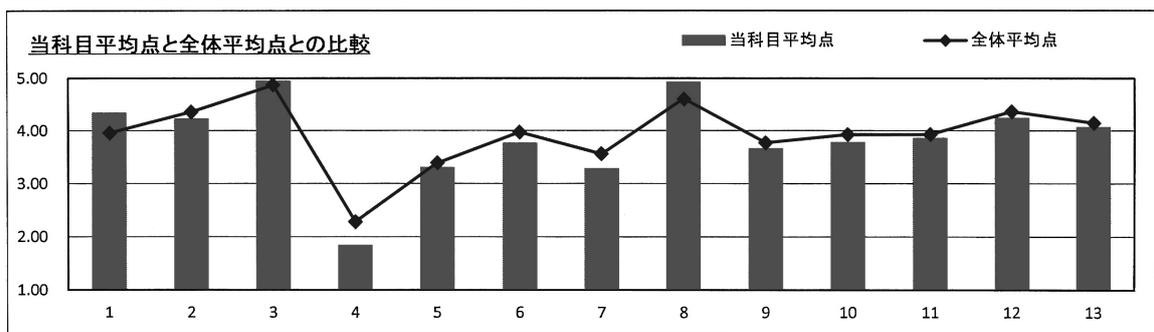
1年	2年	無効回答
0	165	0

■ 性別

男性	女性	無効回答
12	153	0

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について									
問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	4.33	難しく理解できなかった 2 1.2%	やや難しかったが理解できた 39 23.6%	ちょうどよかった 113 68.5%	やや易しく理解しやすかった 10 6.1%	易しかった 1 0.6%	165	0
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.22	理解できた 60 36.4%	やや理解できた 84 50.9%	どちらともいえない 19 11.5%	あまり理解できなかった 2 1.2%	まったく理解できなかった 0 0.0%	165	0
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.95	/	/	少ない 0 0.0%	適当 161 97.6%	多い 4 2.4%	165	0
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	1.83	/	かなりしていた 0 0.0%	少ししていた 22 13.3%	ほとんどしていなかった 93 56.4%	まったくしていなかった 50 30.3%	165	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.30	/	十分得られた 54 32.7%	やや得られた 106 64.2%	あまり得られなかった 5 3.0%	まったく得られなかった 0 0.0%	165	0
質問項目 II 授業の理解、満足度について									
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	3.76	大変聞き取りやすかった 33 20.0%	聞き取りやすかった 66 40.0%	ふつう 61 37.0%	少し聞き取りにくかった 4 2.4%	聞き取りにくかった 1 0.6%	165	0
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.27	大変よかった 18 10.9%	よかった 33 20.0%	ふつう 91 55.2%	あまりよくなかった 22 13.3%	よくなかった 1 0.6%	165	0
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.93	速かった 1 0.6%	やや速かった 3 1.8%	適切だった 159 97.0%	やや遅かった 1 0.6%	遅かった 0 0.0%	164	1
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	3.66	大変わかりやすかった 28 17.0%	わかりやすかった 63 38.2%	ふつう 64 38.8%	ややわかりにくかった 10 6.1%	わかりにくかった 0 0.0%	165	0
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	3.78	大変集中できた 19 11.5%	集中できた 96 58.2%	どちらともいえない 44 26.7%	あまり集中できる雰囲気ではなかった 6 3.6%	集中できる雰囲気ではなかった 0 0.0%	165	0
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	3.86	大変有効だった 35 21.2%	有効だった 75 45.5%	ふつう 52 31.5%	あまり有効ではなかった 3 1.8%	まったく有効ではなかった 0 0.0%	165	0
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.24	大変感じられた 66 40.0%	やや感じられた 74 44.8%	どちらともいえない 24 14.5%	あまり感じられなかった 1 0.6%	感じられなかった 0 0.0%	165	0
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.07	大変強められた 46 27.9%	やや強められた 84 50.9%	どちらともいえない 35 21.2%	あまり強められなかった 0 0.0%	まったく強められなかった 0 0.0%	165	0



授業アンケート結果

担当：准教授 吉 田 実

「授業に関するアンケート」は、講義形式での最終授業時（平成 24 年 1 月）に実施した。履修者 171 人のところ 163 人からの回答が得られた。質問内容は授業科目について 5 項目、授業理解と満足度については 8 項目とした。各項目に対する回答選択肢は 3 個から 5 個設け、それらを点数化した結果が得られた。集計結果は次のとおりである。

<授業項目>

質問項目 2 の肯定的評価（5、4）の割合が 89% と高く、同様に質問項目 5 の肯定的評価（4～3）の割合も 99% と高い。これらから、学生は予想以上に興味を持って授業を取り組んでいたことが感じられた。一方、質問項目 4 の否定的評価「2、1」の割合が 82% と高い。これは、授業時間以外の日常生活の中で、積極的な身体活動や運動スポーツの実践化までは及んでいない学生が少なからずいることを示しているのではないかと感じた。

<授業理解と満足度>

質問項目 6 の肯定的評価（5、4）の割合は 86% と高いが、質問項目 9 の否定的評価（2、1）の割合と「ふつう」という中間的评价を加えると 25% となる。このことは、全体の四分の一の学生は、「わかりやすかった」とは言えないという結果が示された。そこで、質問項目 9 についての否定的評価を減少させるために今後の授業のお進め方等の改善の余地があると感じた。

<今後の課題>

質問項目「特に言いたいこと」の中には、「色々なスポーツをやることができ毎回来楽しく取り組めた」、「将来就職してから必要なことを学べてよかった」などうれしい感想もあった。

授業のねらいである健康づくりのための運動・スポーツの大切さを理解し、将来の保育者を見通した行動をした学生。また、スポーツ種目の実践から達成感や他者とのコミュニケーション能力の向上に繋がった学生。指導者の説明不足をそのまま受け入れて受講していた学生など様々な学生が履修している。

学生の運動・スポーツの経験や部活動経験の有無を事前調査し、学生の主体的活動が容易に出来る種目を取り入れた授業内容とすることで意欲を高める。また、毎回の授業のねらいを板書する等の工夫を加えながら、様々なレベルの学生に対応した授業とすることで改善を進めたい。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5022

科目名	基礎スポーツ
担当教員名	吉田 実
学年	1年生

履修者数	171
回答者数	163

■学年

1年	2年	無効回答
161	0	2

■性別

男性	女性	無効回答
12	149	2

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問9は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

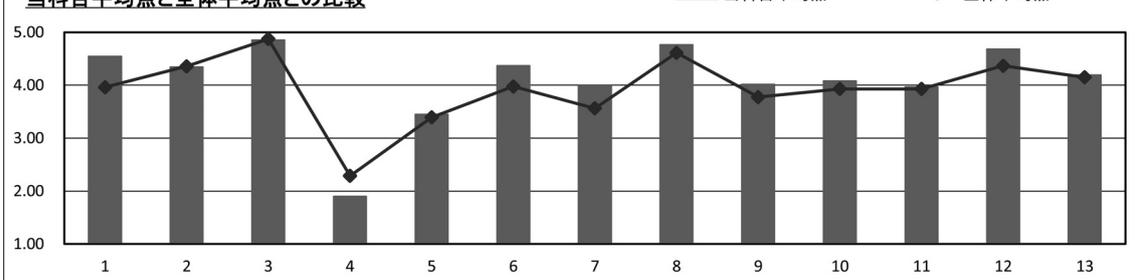
質問項目Ⅰ 授業科目について

問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
			5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	4.55	0 0.0%	18 11.0%	131 80.4%	9 5.5%	5 3.1%	163	0	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.34	74 45.4%	71 43.6%	18 11.0%	0 0.0%	0 0.0%	163	0	
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.85	/	/	10 6.1%	151 92.6%	2 1.2%	163	0	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	1.90	/	/	2 1.2%	28 17.2%	85 52.1%	48 29.4%	163	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.45	/	/	75 46.0%	87 53.4%	0 0.0%	1 0.6%	163	0

質問項目Ⅱ 授業の理解、満足度について

6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	4.37	大変聞き取りやすかった 87 53.4%	聞き取りやすかった 53 32.5%	ふつう 19 11.7%	少し聞き取りにくかった 4 2.5%	聞き取りにくかった 0 0.0%	163	0
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.99	大変よかった 49 30.6%	よかった 61 38.1%	ふつう 49 30.6%	あまりよくなかった 1 0.6%	よくなかった 0 0.0%	160	3
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.77	速かった 4 2.5%	やや速かった 9 5.6%	適切だった 147 90.7%	やや遅かった 2 1.2%	遅かった 0 0.0%	162	1
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	4.02	大変わかりやすかった 49 30.2%	わかりやすかった 72 44.4%	ふつう 36 22.2%	ややわかりにくかった 5 3.1%	わかりにくかった 0 0.0%	162	1
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	4.08	大変集中できた 42 25.8%	集中できた 93 57.1%	どちらともいえない 27 16.6%	あまり集中できる雰囲気ではなかった 1 0.6%	集中できる雰囲気ではなかった 0 0.0%	163	0
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	3.97	大変有効だった 41 25.2%	有効だった 78 47.9%	ふつう 42 25.8%	あまり有効ではなかった 2 1.2%	まったく有効ではなかった 0 0.0%	163	0
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.68	大変感じられた 123 75.9%	やや感じられた 28 17.3%	どちらともいえない 10 6.2%	あまり感じられなかった 0 0.0%	感じられなかった 1 0.6%	162	1
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.19	大変強められた 60 36.8%	やや強められた 77 47.2%	どちらともいえない 24 14.7%	あまり強められなかった 1 0.6%	まったく強められなかった 1 0.6%	163	0

当科目平均点と全体平均点との比較



保育内容の指導法 人間関係

対象：幼児教育科1年

担当：准教授 鎌田 多恵子

【授業のねらいとすすめ方】

本科目は幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、児童厚生二級指導員資格取得のための必修科目である。

人間の生涯の人格形成の基礎となる人とかかわる力の発達の理解と実態に即した保育者の役割と援助の方法について学ぶことを授業のねらいとしている。乳幼児期の人とかかわる力の発達の理解は、子どもとのかかわりが未経験の学生たちには大変難しいのが現状である。このことを踏まえ、保育現場でよく見られる子ども同士や保育者とのやりとりの様子などを事例として挙げ、学生たちがあたかもその現場に遭遇して観察しているような状況の中で、具体的なイメージと臨場感を持って理解できるよう授業をすすめている。机上の知識からの理解で終わるのではなく、子どもたちが園生活で毎日のように繰り返し出会う様々な出来事やそこで体験する身近な人たちとのかかわりの中で育まれていく生きる力の基礎を、実感を伴って捉えることができ、それが的確な援助の模索に繋がることを期待している。

学生たちの授業への評価は、別表の通りである。

自由記述については46名の記載があった。主な内容は、先生の豊富な知識と経験を聞き授業内容に対して納得しやすかった、具体的な保育現場での出来事等を聞くことができた、例え話を加えながらの授業で大変分かりやすかった、保育の仕事に就く際にとっても役立つ理解しやすい授業だった、エピソードや例などが多く毎回とても勉強になり子どもと関わりたいとさらに思った、という感想が挙げられている。上記のアンケート集計結果回答と自由記述の感想から授業に対する教員の熱意は感じてもらえたようであり、授業のねらいも概ね学生たちに伝わっていると捉えられる。しかしその他の自由記述にあった板書をする時ノートに取りやすいとありがたい、ノートをまとめるのに先生が速すぎて聞き取れない部分があった、ノート書きやポイントが分かる授業にしてほしい、など担当者が紹介する事例が空回りして、理解してほしいと願うポイントが明確に伝わっていない点が大きな課題として挙げられる。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5025

科目名	保育内容の指導法 人間関係
担当教員名	鎌田 多恵子
学年	1年生

履修者数	171
回答者数	163

■ 学年

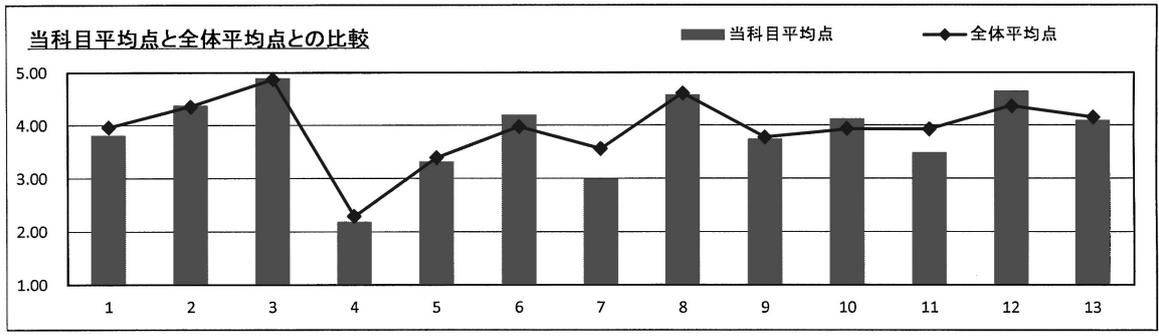
1年	2年	無効回答
163	0	0

■ 性別

男性	女性	無効回答
15	146	2

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について										
問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
			5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.80	2 1.2%	89 54.9%	67 41.4%	4 2.5%	0 0.0%	162	1	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.37	73 44.8%	77 47.2%	13 8.0%	0 0.0%	0 0.0%	163	0	
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.89			3 1.9%	153 94.4%	6 3.7%	162	1	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.18			1 0.6%	47 29.0%	94 58.0%	20 12.3%	162	1
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.31			60 36.8%	94 57.7%	8 4.9%	1 0.6%	163	0
質問項目 II 授業の理解、満足度について										
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	4.18	75 46.0%	52 31.9%	28 17.2%	7 4.3%	1 0.6%	163	0	
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	2.98	8 4.9%	33 20.2%	74 45.4%	43 26.4%	5 3.1%	163	0	
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.57	2 1.2%	20 12.3%	132 81.5%	5 3.1%	3 1.9%	162	1	
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	3.74	37 22.7%	64 39.3%	46 28.2%	14 8.6%	2 1.2%	163	0	
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	4.12	44 27.0%	97 59.5%	19 11.7%	3 1.8%	0 0.0%	163	0	
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	3.47	21 12.9%	41 25.2%	96 58.9%	4 2.5%	1 0.6%	163	0	
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.64	116 71.2%	36 22.1%	11 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	163	0	
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.09	56 34.4%	71 43.6%	32 19.6%	2 1.2%	2 1.2%	163	0	



授業評価について「保育原理」

対象：幼児教育科1年

担当：准教授 岩崎基次

「保育原理」は、1年後期の授業で、保育の原理を理解し、実際の保育場面をどのように捉えて考えていくことができる力を身に付けることを目的としている。

授業の進め方として、保育の原理原則としての基本的な知識を教授しながら時折実践事例を提示したり、学生に具体的に「保育場面ではどのようなことが考えられるのか」について個々に考えさせて発表したり、学生同士協議しグループ毎に発表したりしている。時には、実習を経験して自分たちが体験したことについて、それぞれ考えたことを発表し合った。それらが保育の原理としてどのように捉えたらよいのか、理論を具体的な実践活動でどのように生かされているのか、逆に具体的な実践活動をどのように理論的に考えればよいのか等、考える時間を重視して行っている。

授業の進め方として具体的な事例を提示し、学生自身に自分なりに考え判断するという時間を大切にしているため、今回のこの授業評価で「教員の話す内容はわかりやすかったですか」に対し【大変わかりやすかった】28 (17.2%)、【わかりやすかった】77 (47.2%)であり、2/3以上がわかりやすい授業であったとしていることは一応の適切な進め方になっていたと考えられる。具体的な書き込みにおいても「具体的な例を言ってくださっていたので大変よかった。」等の具体的な事例があってよかったとの意見が数例あり、実践的な事例はとても有効であったと考える。それぞれ学生に考えさせたり、相談したりする時間を設けたりしていたので学生にとって授業の進め方がどうであったか気になったが、書き込みで「みんなの意見を聞ける場があって良かったです。」「自分の考えを発表する場が多くあったので良かったです。」との意見があり学生の理解に役立ったと考える。また、学生同士協議する時間を度々取っていたので進み具合が気になったが「あなたにとって、授業の速度は適切でしたか」の問いに対し、【適切だった】が150 (92.6%)であったという意見に安心した。

「授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。」の項目では、【どちらともいえない】が56 (34.4%)、【あまり集中できる雰囲気ではなかった】が9 (5.5%)とあり、4割が十分に集中できる落ち着いた環境ではなかったと感じていることになるが、学生同士協議したりするときと、発表する時、また講義を聴くとき等、教師側でけじめを付けさせる指示や意識付けを行っていくことが必要だと考える。また、「この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか」の項目で、【十分得られた】が62 (38.8%)であり、【やや得られた】が93 (58.1%)であったことについては、半数以上が十分に満足していないことがわかり、具体的な資料の提示や学生たちに考えさせるポイント等を吟味していく必要がある。

最後に、「教科書はいらなかったのかなと思いました。」との書き込みがあったが、もう少し教科書を使って丁寧な理論の確認を行い、また状況によってはより適切な教科書を吟味して選んでいくように心掛けたい。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5028

科目名	保育原理
担当教員名	岩崎 基次
学年	1年生

履修者数	171
回答者数	163

■ 学年

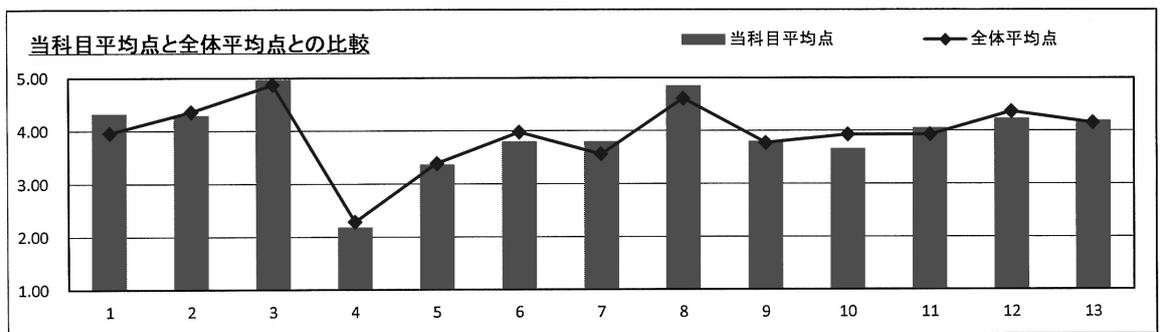
1年	2年	無効回答
161	0	2

■ 性別

男性	女性	無効回答
16	145	2

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	4.31	3 1.8%	44 27.0%	112 68.7%	2 1.2%	2 1.2%	163	0	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.28	66 40.5%	77 47.2%	19 11.7%	1 0.6%	0 0.0%	163	0	
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.98			1 0.6%	161 98.8%	1 0.6%	163	0	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.16			2 1.2%	42 25.8%	99 60.7%	20 12.3%	163	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.36			62 38.8%	93 58.1%	5 3.1%	0 0.0%	160	3
質問項目 II 授業の理解、満足度について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		5	4	3	2	1			
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	3.79	35 21.5%	70 42.9%	49 30.1%	7 4.3%	2 1.2%	163	0	
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.78	33 20.4%	63 38.9%	64 39.5%	2 1.2%	0 0.0%	162	1	
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.84	1 0.6%	7 4.3%	150 92.6%	4 2.5%	0 0.0%	162	1	
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	3.79	28 17.2%	77 47.2%	53 32.5%	5 3.1%	0 0.0%	163	0	
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	3.64	16 9.8%	82 50.3%	56 34.4%	9 5.5%	0 0.0%	163	0	
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	4.04	45 27.6%	81 49.7%	36 22.1%	1 0.6%	0 0.0%	163	0	
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.22	57 35.0%	85 52.1%	21 12.9%	0 0.0%	0 0.0%	163	0	
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.18	58 35.6%	77 47.2%	28 17.2%	0 0.0%	0 0.0%	163	0	



保育相談支援

対象：幼児教育科2年

担当：助教 石川 正子

保育相談支援は、2011年4月の入学生から適応された新設科目であり、保育士の専門性を活かした保護者支援の知識・方法（技術）・価値等について体系的に学ぶための科目である。2年次後期に開講している保育士資格必修科目であり、保育所以外の児童養護施設で保育士が行う保護者支援も含めた内容を心がけ、ソーシャルワーク的機能を基礎とし、保護者との信頼関係構築ができるような授業を行っている。

今回の調査結果では、「授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。」という問いは、やや難しかったが理解できたを含めると100%の学生が理解できたとしている。「この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。」という問いは、97.5%の学生が理解できたという結果であった。「この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか」という問いは、97.6%の学生が得られたと答えており、「この授業を受けて、将来の仕事に対する動機づけが強められましたか」という問いは、86.9%の学生が強められたと答えている。保育相談支援は、心理療法やカウンセリング、ソーシャルワーク、ガイダンスといった近接領域の専門的知識や技術をふまえた授業であり、新設科目であったため調査結果に対する不安があった。しかし、学生の多くが理解できたと答えていたことに、安堵することができた。また、担当する教員の熱意を95%の学生が感じたと答えており、理解や将来の仕事に対する動機づけに役立ったという回答を得て、空回りの授業でなかったことの手ごたえを感じることもできた。自由記述には、「保護者との関わり方や子どもへの関わり方について詳しく学ぶことができ、とてもよかった」「保護者との信頼関係を培うことは、よりよい保育をするうえで必要不可欠だと思った」「保護者から相談を受けた時、どのように対応したらよいかを詳しく学ぶことができよかった」というコメントがあった反面、「読みづらい文字」や「字をもう少し丁寧に」といったコメントがあった。学生の理解を深めるためには、丁寧に板書する努力が必要であり、改善すべき課題である。今後は、視覚教材を取り入れながら現場で活かせるように、一層の工夫と改善に努めたい。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5031

科目名	保育相談支援
担当教員名	石川 正子
学年	2年生

履修者数	171
回答者数	160

■ 学年

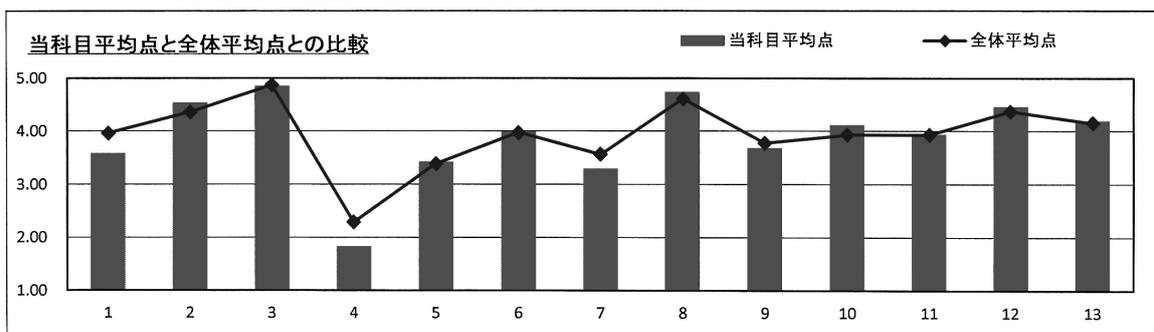
1年	2年	無効回答
0	160	0

■ 性別

男性	女性	無効回答
11	149	0

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目 I 授業科目について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.58	0 0.0%	105 65.6%	48 30.0%	5 3.1%	2 1.3%	160	0	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.52	87 54.4%	69 43.1%	4 2.5%	0 0.0%	0 0.0%	160	0	
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.84	/	/	0 0.0%	147 91.9%	13 8.1%	160	0	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	1.82	/	/	1 0.6%	20 12.6%	87 54.7%	51 32.1%	159	1
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.41	/	/	70 43.8%	86 53.8%	4 2.5%	0 0.0%	160	0
質問項目 II 授業の理解、満足度について		平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
問	設問文		大変聞き取りやすかった	聞き取りやすかった	ふつう	少し聞き取りにくかった	聞き取りにくかった			
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	3.98	48 30.0%	66 41.3%	40 25.0%	6 3.8%	0 0.0%	160	0	
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	3.28	14 8.8%	48 30.0%	71 44.4%	23 14.4%	4 2.5%	160	0	
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.72	2 1.3%	17 10.7%	139 87.4%	1 0.6%	0 0.0%	159	1	
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	3.67	23 14.6%	70 44.3%	55 34.8%	10 6.3%	0 0.0%	158	2	
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	4.10	38 23.8%	103 64.4%	16 10.0%	3 1.9%	0 0.0%	160	0	
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	3.93	33 20.6%	83 51.9%	43 26.9%	1 0.6%	0 0.0%	160	0	
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.45	80 50.0%	72 45.0%	8 5.0%	0 0.0%	0 0.0%	160	0	
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.18	51 31.9%	88 55.0%	20 12.5%	1 0.6%	0 0.0%	160	0	



幼児音楽表現Ⅱ

対象：幼児教育科2年

担当：助教 吉村 哲

講義では、器楽合奏を通して教育現場で用いられるさまざまな楽器の扱い方や演奏の仕方について、ピアノのレッスンでは、音楽的表現力を高めることに重点を置いた指導を行った。

15回の講義の内訳は、1～8回が器楽合奏、9～15回が絵本の音作りである。

器楽合奏では、子どもを対象とした合奏曲を数曲取り上げ練習し、また子どもの歌から曲を選び、リズムパートを中心に編曲を施し、器楽合奏曲にアレンジした。

絵本の音作りでは、学生がグループに分かれて絵本を選び、楽器を使いながら絵本の題材に適したBGMや、イメージーションをふくらませるような効果音を作成する試みを行った。

器楽合奏に関しては、比較的演奏のしやすいものから、何度か練習しないと通すことの困難な曲まで取り上げたが、最終的にはどのクラスも曲を楽しみながら演奏することができた。また子どもの歌の器楽合奏曲への編曲は、リズムパートに限定したものの、個人の音楽的知識や技術の差を反映し、思い通りに記譜することに苦労した学生もいた。しかし最終的に出来上がった曲は、それぞれの個性の表れたものとなった。

絵本の音作りに関しては、絵本にふさわしいBGMや効果音を選ぶまで予想以上に時間がかかったものの、発表では、場面ごとの選曲や音作りに各グループの工夫が見られ、実演する側も鑑賞する側も楽しんでいるように見受けられた。

ピアノ実技は、技術の向上はもちろんであるが、曲の解釈を自分のものとして表現している様子から、進歩を確認することができた。

学生の授業に関するアンケートからは、授業内容の分かりやすさ、達成感に関する一定の評価が得られた。しかしながら、必要とする知識を得られなかった、期待する技術を得る事ができなかったという厳しい声もあった。

今後の課題としては、履修者の読譜力や演奏技術の差をうまく埋めることが、この講義を円滑に進める鍵となっていることを痛感したため、音楽の得意な学生は合奏する際に各グループの中で活躍できるように、苦手意識のある学生でも楽しみながら技術向上に取り組むことのできるように、選曲や楽器の役割分担、練習方法を工夫していきたい。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5034

科目名	幼児音楽表現Ⅱ	学年	2年生
担当教員名	吉村 哲		

履修者数	123
回答者数	118

■ 学年

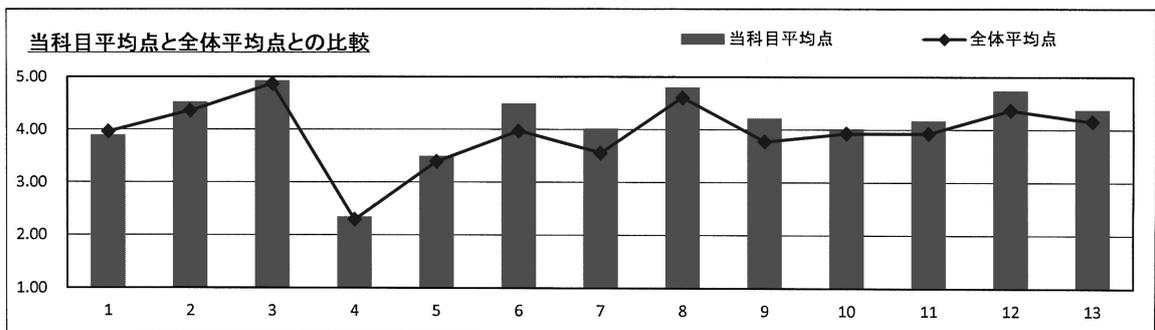
1年	2年	無効回答
0	118	0

■ 性別

男性	女性	無効回答
11	107	0

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目Ⅰ 授業科目について										
問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答	
			5	4	3	2	1			
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	3.88	0 0.0%	16 13.6%	72 61.0%	10 8.5%	20 16.9%	118	0	
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.51	69 58.5%	42 35.6%	6 5.1%	0 0.0%	1 0.8%	118	0	
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.92			4 3.4%	113 95.8%	1 0.8%	118	0	
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.33			6 5.1%	41 34.7%	57 48.3%	14 11.9%	118	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.48			59 50.0%	58 49.2%	0 0.0%	1 0.8%	118	0
質問項目Ⅱ 授業の理解、満足度について										
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	4.48	64 54.2%	48 40.7%	5 4.2%	1 0.8%	0 0.0%	118	0	
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	4.01	42 35.6%	35 29.7%	41 34.7%	0 0.0%	0 0.0%	118	0	
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.79	4 3.4%	2 1.7%	109 94.0%	0 0.0%	1 0.9%	116	2	
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	4.21	44 37.6%	53 45.3%	20 17.1%	0 0.0%	0 0.0%	117	1	
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	4.00	27 22.9%	68 57.6%	20 16.9%	2 1.7%	1 0.8%	118	0	
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	4.16	38 32.2%	61 51.7%	19 16.1%	0 0.0%	0 0.0%	118	0	
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.73	90 76.3%	24 20.3%	4 3.4%	0 0.0%	0 0.0%	118	0	
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.36	53 44.9%	57 48.3%	7 5.9%	0 0.0%	1 0.8%	118	0	



幼児体育Ⅱ

対象：幼児教育科2年

担当：助教 黒澤彩花

〈講義について〉

この調査は、幼児教育科2年生後期に開講の選択科目『幼児体育Ⅱ』を対象としたものである。この講義のねらいは、保育者が健康への意識を高め、自らが意欲的に体を動かすことで『健康な体』の重要性を認識することである。そこで幼児体育Ⅱでは、誰もがいつでも気軽に行うことのできる『スポーツ・エアロビック』を中心に、健康な体づくりの方法の一つとして実践している。また、近年小中学校の体育において表現運動・リズムダンスと称してロックダンスやヒップホップダンスが体育に導入されたことを受け、得意不得意関係なく『経験する』ことを目的として、現代的なリズムに合わせて簡単なステップやターンなどを取り入れたダンスも行っている。幼児体育Ⅱでは技術だけでなく、体を動かす楽しさを味わう、表現する、集団活動の経験、評価するといった保育士に必要な要素を養う場として講義内容の構成を考えながら進めている。

〈自己点検・評価〉

回答は履修者169名に対し、167名。次の項目が半数以上の共感を得ていた。

質問項目Ⅰ「授業科目について」

- ・授業内容は難しかったか易しかったか。
- ・授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できたか。

質問項目Ⅱ「授業の理解・満足度について」

- ・教員の話す声・内容について。
- ・授業の速度。
- ・授業中の私語がなく、集中できたか。
- ・教員の熱意。

〈学生からの感想〉

共感コメント

『先生のエネルギーややる気が伝わってきた。』、『分からないことなどを熱心に教えてくれた。』、『エアロビが楽しかった。』、『体を動かす楽しさを学ぶことができた。』、『普段やらないダンスなどがあり、楽しかった。』、『みんなでエアロビをする楽しさを知った。』、『みんなと協力できて、クラスの仲が深まったと思う。』、『友達と音楽を決めたり、振付を考えたりして楽しかった。』

批判コメント

『指導する速度が速すぎてついていけなかった。』、『見本はステージの上でやらない

と見えない。』『評価の仕方について、評が多いところに自分も評を入れれば能力があるみたいなのはおかしいと思う。』『できていない人へ指導する時間がほしい。』『声が少し聞き取りにくかった。』

〈自己評価と今後の課題〉

調査結果から、講義の進め方は妥当であると考えている。講義内容もねらいに沿って概ね浸透しているように感じる。指導については、指摘されたことは真摯に受け止め、改善に努めたい。また、『評価する目を養う』ことの指導に関しては説明不足の点があった。学生に違和感を与えてしまったことを反省し、今後注意したい。指導の速度については半数以上の学生が『ちょうどいい』と記入していたが、一部の学生は『ついていけない、できていない学生への指導時間がほしい』との記載があった。今後は必要に応じて時間外での学習の場を設けたいと考えている。

学生からの評価は、これからの授業運営において貴重な助言となった。学生の向上心をさらに引き出すためにも、今回の調査結果を踏まえ授業改善に役立てたい。

2013年度 授業に関するアンケート集計結果(科目別)

盛岡大学短期大学部

5037

科目名	幼児体育Ⅱ
担当教員名	黒澤 彩花
学年	2年生

履修者数	169
回答者数	167

■学年

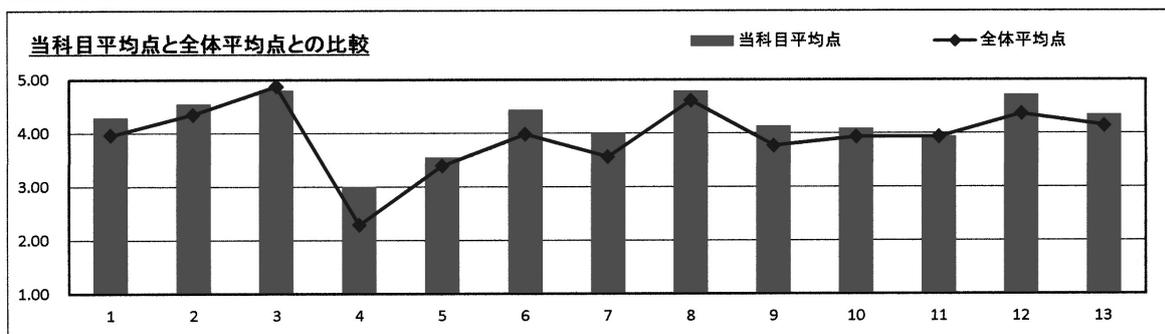
1年	2年	無効回答
0	167	0

■性別

男性	女性	無効回答
13	154	0

※問1および8は、選択肢3を5点、選択肢2と4を3点、選択肢1と5を1点として算出しています。
 ※問3は、選択肢2を5点、選択肢1と3を3点として算出しています。
 ※問4および問5は、マーク値と得点が同一のものとして、4点法で算出しています。

質問項目Ⅰ 授業科目について									
問	設問文	平均点	回答数/回答率					有効回答	無効回答
			5	4	3	2	1		
1	授業内容は、あなたにとって難しかったですか、易しかったですか。	4.28	0 0.0%	39 23.4%	112 67.1%	11 6.6%	5 3.0%	167	0
2	この授業の目的や将来の仕事にどのように役立つかが理解できましたか。	4.54	102 61.1%	56 33.5%	6 3.6%	3 1.8%	0 0.0%	167	0
3	授業の時間数はどうでしたか。	4.80	/	/	16 9.6%	150 89.8%	1 0.6%	167	0
4	授業の予習・復習などの自習はしていましたか。	2.99	/	56 33.5%	70 41.9%	25 15.0%	16 9.6%	167	0
5	この授業から、あなたが期待する知識、技術が得られましたか。	3.53	/	93 55.7%	70 41.9%	4 2.4%	0 0.0%	167	0
質問項目Ⅱ 授業の理解、満足度について									
6	教員の声、話す内容は聞き取りやすかったですか。	4.43	94 56.3%	54 32.3%	16 9.6%	3 1.8%	0 0.0%	167	0
7	担当教員の板書の使い方やノートの取りやすさはどうでしたか。	4.00	51 30.5%	67 40.1%	47 28.1%	2 1.2%	0 0.0%	167	0
8	あなたにとって、授業の速度は適切でしたか。	4.78	4 2.4%	8 4.9%	150 91.5%	2 1.2%	0 0.0%	164	3
9	教員の話す内容はわかりやすかったですか。	4.12	56 33.7%	78 47.0%	28 16.9%	4 2.4%	0 0.0%	166	1
10	授業中の私語が少なく、授業に集中できる雰囲気でしたか。	4.07	39 23.4%	102 61.1%	25 15.0%	1 0.6%	0 0.0%	167	0
11	授業で使用された教材・プリントや視覚的機器は授業内容の理解に有効でしたか。	3.93	42 25.3%	71 42.8%	52 31.3%	1 0.6%	0 0.0%	166	1
12	授業を担当する教員の熱意は感じられましたか。	4.71	122 73.1%	41 24.6%	4 2.4%	0 0.0%	0 0.0%	167	0
13	この授業を受けて、将来の仕事に対する動機付けが強められましたか。	4.33	72 43.1%	80 47.9%	13 7.8%	2 1.2%	0 0.0%	167	0



6 教務事項

教務委員会からの報告

1. 教育課程について

(1) 教養科目の取り組み

教養科目に「キリスト教概論」を必修科目として配し、礼拝と連動させながら本学の教育理念であるキリスト教精神への理解を図っている。礼拝は一年次に週一回実施し、宗教主任のもと近隣の教会牧師の奨励、学長講話を取り入れキリスト教精神と本学の教育理念を理解できるようプログラムを組んでいる。

また、国際的な視点を持った人材を育成するべく「異文化理解」「国際英語」「幼児英語」の科目を設け、異文化への理解を図っている。さらに、「音楽入門Ⅰ・Ⅱ」を設け、ピアノ初心者に対する指導の充実を図っている。

(2) 専門教育の内容

学科で取得できる免許・資格に係る実習を充実させるために、事前指導・事後指導の授業時間を規定より多く設定している。特に事後指導に力を入れており、これにより実践的な力を身につけさせることができている。さらに、2014（平成26年度）年から「幼稚園実習・保育実習事前指導」を1年後期に時間割に組み込み事前指導を徹底する。

(3) 専任教員の配置

専任教員は、免許・資格の取得に係る主要教科を担当するよう配置し、各資格・免許の専門性を習得できるように努めている。

①当該課程の履修により取得可能な免許・資格

幼稚園教諭二種免許状、保育士資格、児童厚生二級指導員、社会福祉主事任用資格、エアロビック準指導員（専門特別演習「フィジカルトレーニング」履修者のみ）

②上記以外の資格

ネイチャーゲームリーダー養成講座、レクリエーション研修講座（いずれも課外で実施）

(4) 選択科目の履修

①指導について

入学時のオリエンテーションで、学生便覧・授業計画（シラバス）について詳細に説明。また学期の始め、学年の始めに履修ガイダンスを行い再度説明・履修確認を行っている。

②時間割上の工夫

時間割作成にあたっては、空き時間のない選択ができるようしている。また、卒業・免許・資格の必修科目は可能な限り4時限までに配置するなどの配慮をしている。

(5) 卒業要件単位数及びその他の卒業要件

①卒業要件単位数

卒業要件については学生便覧に記載し、教養教育科目については12単位以上、専門教育科目については50単位以上（学則第11条）である。

②卒業要件の周知方法

卒業要件及び免許・資格に関する科目の取得方法については、入学時のオリエンテーション、学期・学年の初めで周知している。なお、その際には成績表を本人に配布し単位取得状況を確認させている。

(6) 教育課程の見直し、改善について

科目名の変更等はあったが、大幅な見直しは行っていない。専門科目の授業内容が一部重複している科目があり、2014（平成26年度）年に科目整理を行う。

2. 授業計画（シラバス）について

シラバス記載内容を科目名、単位数、授業形態、卒業要件、資格要件、開講年次、担当者、授業の狙いと概要、授業計画（15回）、評価方法、テキストの項目に、前回の自己点検時指摘のあった履修上の留意点（事前学習）、参考文献の2項目を増やし改善している。また、2014（平成26年）年度シラバスには授業の到達目標と時間外学習の2項目を増やし、さらに改善を行う。

3. 特記事項について

①国際理解教育

本学では、カナダのカモーンソン大学と姉妹校提携をしており、毎年2月から3月にかけて短期海外研修の機会を設けている。また、「異文化理解」「国際英語」「幼児英語」などの科目を設け、異文化理解に関する教育に努めている。しかし、経済状況の悪化等の理由で短期海外研修の参加者が減ってきている。

②その他

本学後援会の助成を受け「特色ある教育活動」という取り組みを行っており、2006年度から毎年学科の教育内容に関するテーマを設定し講演会を実施している。

また、2007年度から定期的に行っている「秋季特別支援教育研修会」は7回を数え、1・2年生の他に現場の幼稚園教諭や保育士も参加する特別支援教育に関する講演会と研修会を実施している。さらに1年生は新入生特別研修時に、「いわて子どもの森」へ見学に行っている。また卒業年次のまとめとして、「美術専攻ゼミ展」「音楽専攻ゼミ演奏会」「卒業発表会（エアロビック・伝承遊び・絵本ゼミ・授業での取り組みの発表）」など、ゼミの発表を積極的に行い教育効果を上げている。ゼミの取り組みは「特別演習集録」として毎年報告書にまとめている。

4. 退学、休学、留年等の状況について

(1) 過去3年間（平成23年度～25年度）の退学、休学、留年者数

平成26年3月31日現在

区 分	23年度入学	24年度入学	25年度入学	備考
入学者数	176	173	171	
うち退学者数	3 (1.7)	2 (1.1)	3 (1.7)	
うち休学者数	1 (0.5)	2 (1.1)	2 (1.1)	
休学者のうち復学者	0	0	0	
うち留年者	0	2 (1.1)	—	
卒業者数	173	169	—	

単位は人で、()内は%

(2) 退学者の退学理由割合、休学者に対する指導（ケア）の現状

退学者の理由は、平成23年度が進路変更70%、一身上の都合30%。平成24年度が進路変更100%。平成25年度進路変更70%、出産育児30%であった。休学者（復学者）に対しては、担任が中心となりゼミ担当教員と連携し指導（ケア）にあたっている。

前回の点検時は経済的な理由で退学する学生が若干見られたが、過去3年間の状況は不本意入学であったことを理由に進路変更をする学生が多くみられる。経済的な問題を抱えている学生も多いが、奨学金の対応で退学に至らないケースがほとんどである。不本意入学の学生には高校段階からの指導の問題がみられるため、指導には限界がある。

7 学生支援

学生委員会からの報告

学生支援について

(1) 入学者に対する支援

① 新入生オリエンテーション

入学式翌日から二日間「新入生オリエンテーション」を実施している。概要は以下のとおりである。

- ・学長または短期大学部長による講話（建学の精神等について）
- ・学生部ガイダンス（各種届出事項、奨学金、保険、ロッカーの使用等）
- ・教務委員による教務事項ガイダンス（学則、シラバス、時間割、単位取得方法、免許・資格、履修方法等）
- ・HR（自己紹介、漢字検定試験等）
- ・専任教員の紹介とゼミの説明
- ・学外実習ガイダンス
- ・図書館ガイダンス
- ・学生生活ガイダンス（保健ガイダンス含む学生生活の留意事項等）
- ・生協ガイダンス

② 新入生特別研修

入学3週間後に一泊二日で「本学の教育方針について理解を深め、新入生相互及び教員との親睦を図り本学の学生であるという自覚を深め、有意義な学生生活に役立てる。」ことを目的とした研修を、各クラス担任、短大部長、学生部職員が参加して実施している。主な研修内容（平成25年実施）は以下の通りである。

- ・学科に関連した施設の見学 「岩手県立美術館」「いわて子どもの森」
- ・卒業生と語る
- ・講演 「女性のがんと健康づくりについて」いわて愛の健康づくり財団
- ・影絵サークル（2年生）による影絵上演と手遊び
- ・HR クラスリーダー、各種委員会委員の選出。

③ 2年生に対してのオリエンテーション

- ・履修ガイダンス（教務委員）
- ・学生部ガイダンス
- ・就職ガイダンス（就職センター）
- ・漢字検定試験
- ・保育実習ガイダンス

(2) 基礎学力不足の学生に対する取り組み

各学年で漢字検定2級程度の漢字テストを年3回ほど実施し、基礎学力の向上に努めて

いる。また、ピアノ初心者に対しては教養科目の「音楽入門Ⅰ・Ⅱ」を履修するよう指導し、基礎技術の向上に努めている。

(3) 学生の学習上の問題、悩み等に対する指導助言の取り組み

学生部と教務委員会（学生委員会も兼務）が連携しながら学習上の指導助言を行う体制をとっている。さらに学習上の問題や悩みに関しては、教務委員会、学生委員会、科会議を定期的に行い学生指導上の問題を共有し連携を密にしている。

学生生活支援体制について

(1) 学生生活を支援するための組織・体制

学生部は教員と職員とで組織され、学生生活・厚生指導・教務事項等に関する支援を行っている。また、学生の自治活動である学友会活動をサポートするため、教員が学友会各部の顧問を担当し、学生部職員が事務的サポートを行っている。

さらに、大学生協と連携し、各クラスから選出された2名の代議員と教員から選出された代議員が協力して、学生生活支援のための生協活動の支援を行っている。短大周辺の安全・医療マップの作成、アパートや日常生活での事故補償、灯油販売などである。

(2) クラブ活動の現状、学友会の現状、学園行事の実施状況

クラブやサークルなどのクラブ活動は、同一キャンパス内の盛岡大学と合同で活動しており、短大生のみで活動しているクラブ・サークルは、アートサークル、ネイチャーゲームサークル、茶道部、影絵サークルなどがある。また、近隣にある岩手県立大学や外部団体と協力して活動している学生もおり、クラブ活動等の活動状況は総じて活発である。影絵サークルは、被災地支援として沿岸地区の公民館・図書館において、地域の子どもたちに影絵上演の活動を行っている。

学友会は各クラスから委員2名が選出され、その委員から学友会会長・副会長・庶務・書記・会計が選出され組織的に活動している。学友会各部と活動内容は次のとおりである。

- ①執行部 学友会全体の運営と、学園祭、卒業を祝う会などの行事を企画運営。
- ②宗教部 建学の精神を具現化する宗教行事の企画。毎週行われる礼拝の準備、クリスマス礼拝などを担当。
- ③研究文化部 学友会機関紙『道程』の企画・編集・発刊。
- ④健康体育部 スポーツ大会の企画・運営。
- ⑤課外活動部 クラブ・サークル活動の支援。

学友会の活動は前述した組織が十分に機能しており、盛岡大学と合同で開催する学園祭やクリスマス礼拝などはほとんどの学生が参加し、顧問の助言・指導を受けながら成功を収めている。また短大生のみで開催するスポーツ大会は、クラス対抗で行なわれ全員の学生が参加し盛況である。

学園祭は2日間にわたって実施され、短大ではクラスごとの企画、ゼミ企画、学友会企画等多数催されている。これらはクラス担任・ゼミ担当教員が指導助言を行い、学生部職

員が支援している。

卒業を祝う会は、学友会の実行委員が学生部職員指導のもと、自由参加ではあるがほぼ全員の参加で実施されている。

また、地域交流の一環として、盛岡の夏祭り「さんさ踊り」に実行委員会を組織し、大学生と合同で参加し6年連続最優秀賞を獲得している。短大からは毎年100名前後の学生が参加している。

(3) 学生の休息のための施設・空間、保健室、食堂等

学生の休息のための施設として、盛岡大学学生生協が運営する学生食堂、短大棟にある一教室と学生ピアノ練習室を自習室として自由に利用できるようにしている。

保健室は大学と共同利用の保健室2室、短大棟に1室の計3室用意し、共同利用の保健室には保健師が1名常駐し、もう1室は「なんでも相談室」と称し非常勤のカウンセラーが1名配置され週1回カウンセリングを行っている。

食堂・売店は盛岡大学学生生協が運営しており大学敷地内に設けられている。

(4) 学生寮の状況、下宿・アパートの斡旋、通学のための便宜

法人が経営する学生寮「生活会館」を有し、全個室で女子237室、男子71室の計308室で、食堂、ランドリー、学生ホール等の設備を設置している。例年90%を超える利用率である。管理人が常駐し会館の管理運営にあたっており、安全管理を徹底している。

アパート・下宿の斡旋は主に「盛岡大学学生生協」が行っている。

通学は、キャンパスが郊外にあることから、路線バスの通らない区間にスクールバスを走らせ通学の便宜を図っている。また、約410台駐車可能な駐車場及び駐輪場を設置している。

(5) 奨学金について（平成25年度）

①外部奨学金

日本学生支援機構奨学金	第一種奨学金（無利子）	73名	
	第二種奨学金（有利子）	150名	合計223名

②学内奨学金

・盛岡大学短期大学部特別奨学生（学業・スポーツ等に秀でた者）

1年生前期（2名）・後期（2名）、2年生前期（2名）それぞれ20万円を給付。

・盛岡大学短期大学部奨学生（学資負担者の死亡・失業等による経済的困窮者）

一口10万円で最高4口までを給付する。

・盛岡大学短期大学部同窓会アネモネ会奨学金（学業成績、人物とも良好な経済的困窮者）

2年生を対象に一人10万円を2名に給付。

(6) 学生の健康管理、メンタルヘルス、カウンセリング

1年生は4月に内科検診、視力検査、身長・体重測定、尿検査、胸部X線撮影を、2年生は3月に視力検査、身長・体重測定、尿検査、胸部X線撮影、4月に内科検診を実施し

ている。大学・短大共用の保健室に保健師が常駐し、健康相談等にあたっている。さらに保健室隣の「なんでも相談室」には、非常勤の臨床心理士を配置し週一回メンタルヘルス・カウンセリングにあたっている。

また、入学時に全学生が「学生傷害保険」に加入し、傷害補償に対応している。

AEDを短大校舎入り口と体育館入り口に設置している。

(7) 学生支援のための学生個々の情報の記録

学生個々の情報の記録として、学生カード、学籍簿、指導要録を学生部で保管している。

①学生カード

入学時に学生が記入し学生部で保管。閲覧は事務室内で関係者のみに限っている。記載事項は、入学年次、学籍番号、氏名、性別、生年月日、出身高校、本籍地、現住所・電話番号、帰省先住所・電話番号、保護者氏名・勤務先・勤務先住所・電話番号、退学・休学・復学の日付、高校での課外活動、特技・免許、家庭の状況(家族の氏名・続柄・年齢・職業・勤務先・学校名)、現住所付近の略図、通学方法等である。

②学籍簿

学籍簿は在学中担任が保管し、卒業後は学生部で保管している。閲覧は事務室のみとしている。記載事項は、学科、学籍番号、氏名、性別、出身高校、その他の学歴、本籍、現住所、保証人の氏名・現住所・勤務先、入学年月日、入試区分、卒業年月日、取得資格、就職先、学籍異動、特記事項等である。

③指導要録

指導要録は学籍簿の裏面となっており、取扱いについては前述のとおりである。記載事項は学科、学籍番号、氏名、家族構成(続柄、氏名、年齢、職業・勤務先・就学状況)、人物の長所・短所、自覚している性格・能力、健康の状況、免許・資格、卒業後の連絡先、担任所見等である。

(8) 特記事項

①卒業時に成績優秀であった者2名、学友会活動・課外活動で顕著な功績を示したものを副賞を添えて表彰している。

②本学は9割以上が女子学生であるので、セクシャル・ハラスメントに対する規程を設け、セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメント相談員に教員と職員を配置し防止に努めている。

8 就職支援の状況

盛岡大学・盛岡大学短期大学部就職センターからの報告

1 盛岡大学短期大学部における就職支援の基本姿勢

就職支援は、学生を社会と職業に結びつける重要な教育活動の1つである。就職支援の目的は、学生の社会的自立を援助することであり、経済社会の中の一員として大きな役割を担うことに繋がるものである。

大学における就職支援活動は、その大学の社会的評価と直結するものであると考えるべきである。近年、就職支援の充実を図らない大学は、存続が難しいといわれるばかりではなく、就職支援に関係する科目を正規の授業の中に組み入れる大学が多くなりつつあるのが現状である。

就職支援活動には、学生が社会の中において自己実現できる場所を選択すること、自分の居場所を選択することにつながる自己分析、自己発見、自分探しの意味もあると考えることが出来る。しかしその一方で、社会の側からはそれぞれの事業所や団体にふさわしい働き手を発掘したいという要請がある。したがって、就職支援には学生が健全で自立した社会人として成長することを手助けすると同時に、求人を探す側がどのような人材を欲しているか、社会情勢や経済動向などを的確の捉え判断し、学生や保護者に明示する必要があるのである。

普段の授業で養われた知識と技術が、学生の学力の基本になることは当然である。それ以上に、日常の学校生活そのものが、就職支援に直結するという基本的な考え方が最も大切だと思われる。

2 就職センターの具体的役割

就職センターは、前述の就職支援の課題を実現するために以下の事業を展開する。

- 1) 学生の就職意識を早期から高め、就職活動に対する明確な目標を持たせる。
- 2) 学生が広い分野、地域で就職できるような実力をつけさせる。
- 3) 各学生の個性や希望を把握し、適切な対応をする。
- 4) 各事業所の求人動向、採用試験等に応じた適切な支援を行う。
- 5) 就職対策委員会と就職センターが連携し、全学を上げて教職員一体となった支援を行う。

3 実施する支援事業

盛岡大学短期大学部は、幼児教育科一学科のみであり、近年、幼稚園教諭、保育士、施設職員等の専門職志望の学生が圧倒的に多いことを念頭に入れ、一部一般職を希望するものに対する指導を考慮した支援事業を展開することが求められている。短期大学部の本格的な就職戦線は、一般職を除き夏休み以降から始まり年末にかけてピークを迎える。

1) キャリアガイダンス

この支援事業は、1年生後期から2年生前期まで、正規の時間割に組み込んで授業形式で実施している（ただし、単位の認定はしない）。

内容は、1年生後期では「講座の目的」「自己分析」「自己理解」を経て、「履歴書作成方法」「自己PR作成方法」「志望動機作成」「面接対策講座（面接の基本知識を知る）」までを網羅しており、就職センター職員と一部外部講師を依頼し実施している。2年生前期では、より実践的な支援、指導となり、「就職決定までの手順」「自己分析」「履歴書の添削指導」「模擬面接を中心とした面接指導」はもちろん夏季休暇中の就職活動まで幅広く指導している。このガイダンスの1年生の出席率は、おおむね8割を超えているものであるが、2年生になるに従い低下する傾向にある。全国的には単位化の方向にあり、出席率の向上がより一層の就職率の向上に結びつく可能性があるに違いない。

2) 就職対策講座

開講時期はキャリアガイダンスと全く同じ1年後期から2年前期で、正規の授業の中に組み込み授業形式で実施している（ただし、単位の認定はしない）。

内容は、1年生では「論作文講座」（原稿用紙の使い方から作文までの添削指導）「一般常識講座」までとし、基礎学力の底上げを最大の目標としている。2年生では、さらに高度な「論作文講座」「一般常識講座」などの筆記試験対策を積み重ね、「一般常識テスト」を実施し実力判定を行いながら進めている。

3) 公務員採用試験対策講座

毎年、1年生を対象にして2月末から3月初めにかけて外部講師に依頼して10日間実施している。受講者は、併設の盛岡大学と合わせて約50名である。短期大学部学生の場合、受験を考える範囲は、初級職と中級職、つまり一般行政初級と公立幼稚園保育所となる。この公務員採用試験対策講座受講者の中から地方公務員採用試験合格者も出ている。

4) 盛岡大学・盛岡大学短期大学部合同企業説明会

12月中旬に市内のホテルを会場にして、盛岡大学3年生、盛岡大学短期大学部1、2年生を対象に県内外の企業50～60社を招き合同の企業説明会を開催している。この他に企業や本学の要請により、学内説明会を開き学生に求人情報を提供している。

5) 求人情報の収集

平成26年3月1日現在における盛岡大学短期大学生に対する求人件数は、専門職約470件、一般職約360件となっている。就職センターから発送する求人依頼は、9月を目標に約1500件である。

求人情報の収集は、事業所訪問が有効である。専門職事業所には、短期大学部教員が教育実習、保育実習、施設実習の巡回指導の際にその職場に就職した卒業生の状況をうかがいながら次の求人情報を得ているほか、必要に応じて就職センター職員が随時訪問する体制をとっている。一般職については就職センター職員が精力的に事業所訪問をし、有効な情報を入手している。

6) 教員による就職相談

短期大学部教員による保育所、幼稚園、施設実習の巡回指導や就職センター職員による企業訪問をふまえ、どんな人材が求められているかを把握した上でボランティア活動、専門特別基礎演習、専門特別演習、各専門教科を通して学生の適正を考慮した就職指導を行っている。さらに、前期は2年生、後期は1年生の保護者を対象にした就職懇談会と講演会を開催し、終了後は担任と保護者、学生を交えた個別面談を実施して各教員が学生の就職支援に取り組んでいる。

4 就職支援業務

- 1) 学生対応および就職相談
- 2) 求人票の発送、受理、開示
- 3) 対外的文書の受理および発送
- 4) 来客対応
- 5) 面接指導
- 6) 学生閲覧用参考図書、ビデオ、問題集等の整理と貸し出し管理
- 7) 事業所向けパンフレットの作成
- 8) 就職の手引き「就職ガイドブック」の作成、配布
- 9) 就職内定状況調査
- 10) 講座の企画、立案、実行
- 11) 学校推薦書類の作成、発行
- 12) 就職の斡旋
- 13) 年度初め「就職関係オリエンテーション」
- 14) 就職登録および原簿の整理、管理
- 15) 事業所訪問
- 16) 学校企業説明会（随時実施）
- 17) 合同企業説明会（12月）

対象 盛岡大学短期大学部 幼児教育科 2 年生

就職対策講座 (平成 25 年 4 月～7 月)

火曜日 4 時限 14:30～16:00

〔日程と内容〕

回数	実施日	テーマ	主眼	主な内容
第 1 回	4 月 9 日	論作文講座①	論文・作文の文章作法・テクニックを知る	簡単な題材で短い文章を作成し、基本的な文章作成ルールを確認します。
第 2 回	4 月 16 日	論作文講座②	論作文を書く	実践：就職試験でよく問われる題材で論作文を作成します。(添削指導)
第 3 回	4 月 23 日	一般常識講座①	時事に関連する知識を知る	問題演習を通して、時事に関する知識を深めます。(政治分野)
第 4 回	5 月 7 日	筆記試験対策講座①	論作文を書く	実践：保育士試験でよく問われる題材で作文を作成します。(添削指導)
第 5 回	5 月 14 日	論作文講座③	時事に関連する知識を知る	問題演習を通して、時事に関する知識を深めます。(経済分野)
第 6 回	5 月 21 日	筆記試験対策講座②	論作文を書く	実践：保育士試験でよく問われる題材で論文を作成します。(添削指導)
第 7 回	5 月 28 日	筆記試験対策講座③	筆記試験で頻出の非言語分野をマスターする	計算・文章問題のスキルアップを目指します。
第 8 回	6 月 25 日	論作文講座④		
第 9 回	7 月 2 日	筆記試験対策講座④		
第 10 回	7 月 9 日	一般常識講座②		
第 11 回	7 月 16 日	夏休みの過ごし方	幼稚園教諭・保育士に求められる課題	(就職センター担当)
第 12 回	7 月 23 日	一般常識テスト	一般常識に関する知識確認	最近の傾向を踏まえた筆記試験により、実力を判定します。

キャリアガイダンス (平成 25 年 4 月～7 月)

火曜日 5 時限 16:10～17:40

〔日程と内容〕

回数	実施日	テーマ	主眼	主な内容
第 1 回	4 月 9 日	就職センター担当	就職活動での注意事項	(就職センター担当)
第 2 回	4 月 16 日	就職決定までの手順	就職決定までの手続きを知る	就職活動の一連の流れ及び注意すべき事項を確認します。
第 3 回	4 月 23 日	自己分析①	自己 PR 作成の準備	自己 PR を作成するために自己経験の棚卸を行います。
第 4 回	5 月 7 日	自己分析②	自己 PR・志望動機を作成する	自己経験を踏まえた自己 PR、志望動機を作成します。
第 5 回	5 月 14 日	履歴書作成	履歴書の正しい書き方を知る	1 年次に学んだ作成方法により、完成版を作成します。(添削指導)
第 6 回	5 月 21 日	メイクアップ講座	メイクアップの方法を知る	就職活動に必要な基本的なメイクアップ方法を学びます。
第 7 回	5 月 28 日	面接対策講座①	面接までに必要な準備内容を知る	敬語の基本・電話のかけ方・正しい言葉づかいを学びます。
第 8 回	6 月 25 日	面接対策講座②	回答を準備する	予想質問に対して、自分自身の回答を準備します。
第 9 回	7 月 2 日	面接対策講座③		
第 10 回	7 月 9 日	面接対策講座④		
第 11 回	7 月 16 日	面接対策講座⑤	模擬面接	模擬面接により、実際の面接を実感します。

※概ねの計画であり、内容は変更することがある。

対象 盛岡大学短期大学部 幼児教育科 1年生

就職対策講座 (平成 25 年 10 月～平成 26 年 1 月)

火曜日 4 時限 14:30～16:00

〔日程と内容〕

回数	実施日	テーマ	主眼	主な内容
第 1 回	10 月 1 日	論作文講座①	文章作成の基本を知る	文章作法の基本・原稿用紙の使い方を学びます。
第 2 回	10 月 8 日	論作文講座②	文章を書く	簡単な題材で短文を書くことを通して、実践力を養成します。
第 3 回	10 月 15 日	論作文講座③	論作文を書く	実際に出題された題材で、論作文を作成します。(添削指導)
第 4 回	10 月 22 日	一般常識講座①	筆記試験によく出る非言語問題対策	筆記試験対策に必要な基礎数学を学びます。
第 5 回	10 月 29 日	論作文講座④	論作文を書く	実際に出題された題材で、論作文を作成します。(添削指導)
第 6 回	11 月 5 日	一般常識講座②	筆記試験によく出る非言語問題対策	筆記試験対策に必要な非言語諸分野の知識を学びます。
第 7 回	11 月 12 日	一般常識講座③	筆記試験によく出る時事	筆記試験によく出る時事の基礎を学びます。(政治分野)
第 8 回	11 月 19 日	論作文講座⑤	論作文を書く	実際に出題された題材で、論作文を作成します。(添削指導)
第 9 回	11 月 26 日	一般常識講座④	筆記試験によく出る時事	筆記試験によく出る時事の基礎を学びます。(経済分野)
第 10 回	12 月 3 日	論作文講座⑥	論作文を書く	実際に出題された題材で、論作文を作成します。(添削指導)
第 11 回	12 月 10 日	一般常識講座⑤	筆記試験によく出る地歴	筆記試験によく出る地歴の基礎を学びます。
第 12 回	12 月 17 日	一般常識講座⑥	筆記試験によく出る理科	筆記試験によく出る理科の基礎を学びます。
第 13 回	1 月 7 日	一般常識テスト	一般常識基礎テスト	学習した内容を簡単なテストを通して確認します。

キャリアガイダンス (平成 25 年 10 月～平成 26 年 1 月)

火曜日 5 時限 16:10～17:40

〔日程と内容〕

回数	実施日	テーマ	主眼	主な内容
第 1 回	10 月 1 日	就職センター担当	キャリアガイダンスの目的・概要	(就職センター)
第 2 回	10 月 8 日	就職センター担当	求められる保育士とは	(就職センター)
第 3 回	10 月 15 日	自己分析①	自己の適性把握	Social Style テストを通して、自己の適性を把握します。
第 4 回	10 月 22 日	自己分析②	社会人と仕事	社会人として必要な能力や様々な仕事の内容を学びます。
第 5 回	10 月 29 日	履歴書作成①	履歴書の正しい書き方を知る	履歴書作成の基本を学びます。
第 6 回	11 月 5 日	履歴書作成②		履歴書に記載する志望動機、自己 PR の書き方を学びます。
第 7 回	11 月 12 日	自己 PR 作成	自己 PR の作成方法	経験棚卸をし、自己 PR を 400 字程度で書いてみます。
第 8 回	11 月 19 日	志望動機作成	志望動機について知る	志望動機の必要性や、作る際のポイントを学びます。
第 9 回	11 月 26 日	就職センター担当	OB・OG 体験談	(就職センター)
第 10 回	12 月 3 日	面接対策講座①	面接の基礎知識を知る	面接の基礎知識(挨拶、言葉づかい、印象アップの方法等)を学びます。
第 11 回	12 月 10 日	面接対策講座②		
第 12 回	12 月 17 日	面接対策講座③		
第 13 回	1 月 7 日	就職センター担当	就職カード記入	(就職センター)

※概ねの計画であり、内容は変更することがある。

9 地域に開かれた短期大学としての現状 —地域連携の取り組み等について—

【各取り組みからの報告】

学生の社会的活動について

教授 嶋野重行

(1) 過去3年間（平成24年度～26年度の学生による地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等の状況を記述してください。

地域の各種施設、幼稚園、保育所、研究会等からのボランティア依頼にこたえて、毎年多くの学生が参加し、依頼者側から良好な評価を得ている。

主だった障がい者（児）施設、大会等でのボランティア活動を紹介する。

<平成26年度>

- ・心理リハビリテーションの会全国大会（於、ホテルメトロポリタン盛岡）
脳性まひ、てんかんなどをもつ子どもに対する指導についての全国大会において、大会運営、分科会運営、託児所などのボランティアとして、20名の学生が参加した。
- ・滝沢市北部スポーツ交流会（於、滝沢市北部コミュニティセンター）
滝沢市北部コミュニティセンターが企画する障害のある中学生、施設利用者さんによるスポーツ大会である。輪投げや卓球などの運営に学生20名が参加した。
- ・岩手県立盛岡みたけ支援学校のスポーツ大会
滝沢市にある特別支援学校高等部より県立運動公園でのスポーツ大会にボランティアとして陸上競技やフライングディスクなど15名の学生が運営、支援者として参加した。
- ・岩手県障がい者スポーツ大会—フライングディスク大会(於、岩手ふれあいランド)
岩手ふれあいランドで開催された、スポーツ大会に20名がボランティアとして参加した。

<平成24年度～26年度>

- ・障がい者支援施設みのりホームの夕涼み会 12名参加
 - ・岩手県手をつなぐ育成会あすなろ園、さわら園祭 14名参加
 - ・障がい者支援施設、第二新生園祭 4名参加
 - ・障がい者支援施設、ルンビニー学園祭 6名参加
 - ・障がい児支援施設、たばしね学園祭 2名参加
 - ・希望ヶ丘学園の夏まつり、クリスマス会への支援ボランティアに4名参加など
例年行われている施設の行事には参加している。
- 他にも幼稚園や保育園での運動会や学習発表会などの大きな行事には、教育実習や保

育実習を契機として、1園に対して数名がボランティアに参加している。

- (2) 短期大学では学生の地域活動、地域貢献あるいはボランティア活動等についてどのように考え、どのように評価しているか記述してください。

本学では、地域社会からボランティア要請があった場合には、なるべく誠意をもって対応するようにしている。授業等で重なる場合もあるが、年に1、2回のボランティア活動は許容範囲として考えている。学内だけの学びに留まらず、多くの幼稚園や保育園行事でのボランティアは、規定の教育実習や保育実習で得られない体験・経験を通し、学びを広め深めるようである。

また、現場の教員や保育者と多くかかわることで、人間成長にも役立っている。

さらに障がいのある子どもたちと多く触れ合うことで、ノーマライゼーションの精神についても学習していると考えられ、人に対する思いやりが強まるなど人間的な成長もうかがわれるため本学では、積極的にボランティア活動を奨励している。将来的には、担当部署を組織し、ボランティア活動を推進していきたい。

地域連携の取り組みについて

准教授 岩崎基次

(1) いわて高等教育コンソーシアム 図書館活動の一環として

- ①目的：被災地の子どもたちに、学生らと共に影絵人形劇活動を通して、物語に親しみながら学生や友達と共感し合う楽しさに触れ、一緒に表現することの喜びを味わってほしいと考え、影絵人形劇サークルを立ち上げ取り組んできた。
- ②実施：[平成25年3月野田村立図書館、8月宮古市田老保育園・田老分所図書館、12月紫波町立図書館、平成26年2月末広町種市図書館]
- ③まとめ：学生たちは皆初めての経験だったので、できる限り学生の主体性を尊重しながら影絵人形劇の制作や演技の指導を行った。影絵の上映の仕方など回を重ねる毎に、学生たちは子どもたちの反応を見ながら関われるようになっていった。また、子どもたちも影絵の鑑賞だけに終わらず、この機会を利用して自分で影絵を映したり、学生と関わって遊んだりできるようにしたところ、興味関心を持って影絵を映したり汗だくで学生と関わって遊んだりしていた。

(2) 滝沢村夢プロジェクト企画『みんなで影絵人形劇をつくって見せよう』の取り組み

- ①目的：身近な地域の子どもたちに『影絵人形劇を通して、子どもたちが友達や地域の人と関わることの喜びを体験する』ことを目的としてこの企画に取り組んだ。
- ②活動内容：平成25年11月30日、滝沢東小学校にて学生と共に影絵人形劇の上映会を行う。その後『影絵人形劇を作って見せよう』の企画に賛同して1年生から6年生まで小学生9名が集まり、平成25年12月7日(2日目)同小学校で、小学生たちによる影絵人形劇上映会を開催した。会の挨拶や劇の紹介は子どもたちが行い、「はらぺこあおむし」と「ぞんくんのさんぽ」を2つのグループに分かれて上映した。
- ③まとめ：参加した子どもたちは、積極的に協力し合いながら取り組み、この会の上映会のみならず、自分たちの学童クラブのクリスマス会で影絵を上映するなど自分たちで自発的に行っており、一定の成果があったと手ごたえを感じた。

(3) 地域の幼稚園、保育所と木工活動の保育実践の取り組み

身近な自然の素材等を生かした保育活動の研究として行った。この木工活動を通して、子どもたちが身近な自然の物を使うことにより、「身近な素材を工夫して作ることの楽

しさを味わう」、「身近な自然物や素材を大切に扱う」といった心を育てることを目的として行っている。昨年の10月から12月にかけて、ゼミの学生を参加させて、盛岡大学附属厨川幼稚園、同附属松園幼稚園、釜石保育園、気仙沼市立かやの実保育所、下田保育園を対象にのべ9回の木工活動を行った。それぞれの園からは良い活動だったと評価していただき、平成26年度もこれらの園と連携しながら継続して行っていく。

たきざわ夢プロジェクト

「チャグチャグ馬コ夢ウォーク（ランニングペインティング）」実施報告

盛岡大学短期大学部アートサークル 代表 高橋 のぞみ
顧問 長谷川 誠

滝沢市（プロジェクト実施時滝沢村）は、市内の各大学（盛岡大学、岩手看護短期大学、岩手県立大学）との連携を強化すると共に、大学と地域がより一体となって様々な課題解決に当たれるよう、「学連携活性化事業」を実施している。その一環としての事業である平成 25 年度学連携活性化事業「たきざわ夢プロジェクト」へ本学アートサークルが応募し、採択事業となった。ここでは採択プロジェクトの目的及び、実施内容を報告する。

本プロジェクトは、滝沢市（プロジェクト実施時滝沢村）の伝統的民俗行事であるチャグチャグ馬コをテーマに主に滝沢市（プロジェクト実施時滝沢村）在住の方々と盛岡大学短期大学部アートサークルの学生（参加学生：幼児教育科 2 年生 7 名）と一緒に創り上げるランニングペインティング（走りながら楽しめるほどの画面の長さを持つ）である。

プロジェクトの目的である地域の方々との協同作業を第一に、当日はだれもが参加できる共通テーマを提示し、表現効果が即効性を持つ独自の描画方法の提案を行った。テーマは「チャグチャグ馬コ」。誰もが知っているモチーフであり、自然と身近な伝統的民俗行事への関心が向けられたのではと推察する。結果、単なる表現方法の提案ではなく、それぞれが、自分だけの「馬コ」の行進を表現することへ気持ちを高め表現として発展させることが出来き、テーマに共通性を持たせたことが大変有効であったと考える。

学生にとっても一般参加者への本プロジェクトについての説明、協同作業の実施と、初めての経験ばかりで、十分な働き掛けが出来なかった面もあったかと思われるが、限られた時間の中で大画面を一般参加者とともに描き、観賞という、作品制作を通じた意識の共有までも出来たことは、何よりの励みになったかと思われる。

今回は準備期間から実施までの時間が短く、十分な広報、および告知が至らなかった面も多々あったが、関係諸機関より地域の広報紙面への掲載や、ホームページへの情報提供等頂き大変感謝したい。

今後、このような、地域連携プロジェクトが盛んに行われ、学生と地域との共同作業がより活発に行われることを期待し、本プロジェクトの報告としたい。

尚、作品は会場となったふるさと交流館のご厚意で、同館ホールに 2013 年 11 月 23 日から 12 月 6 日まで展示の機会を得た。



10 学生の受入状況について ー入試制度の改善状況等ー 盛岡大学・盛岡大学短期大学部入試センターからの報告

1 はじめに

本学と同法人である盛岡大学では、2010年に盛岡大学栄養科学部を開設したことで、本学は食物栄養科を改組転換し2010年から学生募集を停止した。1992年をピークとした18歳人口が年々減少化傾向のなか、本学幼児教育科は単科構成となり、学生募集はより厳しい状況下でありながらも定員を確保しながら、現時点（2013年度）まで順調に推移している。

2 入学者選抜方針および方法について

2013年度における本学の入学者選抜方法は、一般推薦、特別推薦〔A方式（職業科目による選考）、B方式（技能による選考）、C方式（スポーツによる推薦）、専門学校からの推薦〕、同窓生子女特別推薦、本学附属高等学校推薦と一般入学試験前期および一般入学試験後期の入学試験がある。入学試験種別としては、推薦入学試験・一般入学試験前期・一般入学試験後期の計3回の実施となる。また、社会人特別選抜入学試験前期と社会人特別選抜試験後期を2回実施した。コンプライアンスの観点から入学者選抜方針および方法は、文部科学省高等局長通知の「大学入学者選抜実施要領」に基づいて実施した。

3 推薦入学試験

(1) 特別推薦入学試験

特別推薦入学試験の募集定員は若干名、同窓生子女特別推薦入学試験の募集定員は3名としている。1993年度入学試験から職業科目を履修した者を対象とした選考の特別推薦入学試験（A方式）に加え、2003年度から音楽・美術・身体表現分野の技能の優れた者を対象とした選考の特別入学試験（B方式）、そして2010年度からはスポーツの競技成績が優れた者を対象とした選考の特別推薦入学試験（C方式）を実施している。受験者数は、A方式だけの2002年度特別推薦入学試験では5名であったが、B方式を導入した2003年度特別推薦入学試験は20名となり、確実に受験者は増加した。（受験者数…2004年度：34名、2005年度：35名、2006年度：27名、2007年度：33名、2008年度：42名）

一方、2010年度から導入したC方式と同窓生子女特別推薦試験も同様に受験者を確保している。しかし、専門学校からの推薦による受験者は、まだ実績を計上できていない。（表I-1 特別推薦入学試験受験者の推移参照）

表 I-1 特別推薦入学試験受験者数の推移

(2009 年度から 2013 年度)

入試区分	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
A 方式	11	5	8	9	5
B 方式	13	10	13	8	11
C 方式	導入前	12	8	17	14
同窓生子女	導入前	2	4	5	3
専門学校	0	0	0	0	0
合計	24	29	33	39	33

(2) 一般推薦入学試験

一般推薦入学試験の募集人員は、本学附属高等学校を含み 120 名としてあり、入学定員の 80% に当たる。2013 年度の受験者は 117 名であった。2011 年度の一般推薦入学試験受験者は、前年比 41 名の増加が示された。その内容は、秋田県（5 名増）の微増に加え岩手県内からの受験者が増加した。東北地区の 18 歳人口推移（河合塾調査）は、2010 年度 10.0 万人から 2011 年度 9.7 万人の 3 千人減少という厳しい状況報告のなかにも、本学では受験者増が示された。しかし、その後は 2011 年度程の増加は示されなかった。（表 I-2 一般推薦入学試験・附属高校推薦入学試験および特別推薦入学試験受験者の総合計推移参照）

表 I-2 一般推薦入学試験・附属高校推薦入学試験および特別推薦入学試験受験者数の総合計推移

(2009 年度から 2013 年度)

入試区分	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
一般推薦	109	98	139	107	106
附属高校	11	11	11	13	11
特別推薦	24	29	33	39	33
総合計	144	138	183	159	150

4 一般入学試験

(1) 一般入学試験前期および一般入学試験後期

一般入学試験の募集人員は、前期 25 名・後期 5 名で合計 30 名としている。2013 年度の受験者は、前期 60 名・後期 13 名で、2011 年度から減少化傾向にある。（表 II-1 一般入学試験前期および一般入学試験後期受験者数の推移参照）

表Ⅱ-1 一般入学試験前期および一般入学試験後期受験者数の推移

(2009年度から2013年度)

入試区分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
一般前期	54	60	85	66	60
一般後期	8	10	26	14	13
合計	62	70	111	80	73

(2) 一般入学試験前期・仙台会場

宮城県近隣の受験生の便宜を図る方策として、仙台会場で一般入学試験前期を2003年度入学試験から2012年度入学試験までの10年間実施した。受験者数の減少化傾向を熟慮した結果、仙台会場での一般入学試験前期を廃止し、2013年度入学試験から本学会場だけでの実施とした。(表Ⅱ-2 仙台会場での一般入学試験前期受験者数の推移参照)

表Ⅱ-2 仙台会場での一般入学試験前期受験者数の推移

(2003年度から2007年度)

学科	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
食物栄養科	9	10	10	5	4
幼児教育科	25	16	17	12	11
合計	34	26	27	17	15

(2008年度から2012年度)

学科	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
食物栄養科	3	4	募集停止		
幼児教育科	5	3	3	7	3
合計	8	7	3	7	3

5 社会人特別選抜入学試験

社会人特別選抜入学試験は、前期と後期の2回実施している。社会人の年齢層は様々であるが、入学の目的や目標が明確であることで勉学の意欲が高いことから一般の入学生の大いなる刺激となっている。(表Ⅲ-1 社会人特別選抜入学試験前期および社会人特別選抜入学試験後期受験者数の推移参照)

表Ⅲ-1 社会人特別選抜入学試験前期および社会人特別選抜入学試験後期受験者数の推移
(2009年度から2013年度)

入試区分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
社会人前期	2	0	1	2	1
社会人後期	1	1	4	1	0
合計	3	1	5	3	1

6 終わりに

(1) 2013年度の入学者選抜状況について

文部科学省が行っている「学校基本調査」によると、1993年度の短期大学数は595校であったが、2013年度には359校まで減少している。1993年度と比較すると実に236校も減少している。2013年度に短期大学として学生募集を実施したのは、公立19校、私立340校であった。また、1993年度の大学（4年制）は534校であったが、2013年度には248校増の782校になった。その多くは、短期大学の改組転換による大学への移行であることが言える。冒頭に述べた本学食物栄養科の改組転換も同様の現れである。（表Ⅳ-1 短期大学及び大学の学校数の推移参照）

表Ⅳ-1 短期大学および大学の学校数の推移 (1993年度から2013年度)

校種別	1993年度	2003年度	2009年度	2013年度
国立短大	37	13	2	0
公立短大	56	47	26	19
私立短大	502	463	378	340
合計	595	525	406	359

(1993年度から2013年度)

校種別	1993年度	2003年度	2009年度	2013年度
国立大学	98	100	86	86
公立大学	46	76	92	90
私立大学	390	526	595	606
合計	534	702	773	782

18歳人口の減少化に加え短期大学数の減少化傾向のなかで、本学の定員確保の要因には、教育内容や取得可能資格そして就職率などの要素にほかに、合格手続き後の辞退者数から算出される歩留り率の高さにあると考える。(表V-5 歩留り率の推移を参照)

辞退者が少なく専願者が多くを占めることは、地域社会から一定の評価を得られているとも言えるのではないだろうか。

(2) 今後の課題

一番の課題は定員の確保である。2013年度入学試験までは順調に定員確保を継続していたが、次年度以降はより厳しい状況であることに間違いはない。短期大学を志す高校生や社会人にとって魅力ある学校づくりには、教育内容・施設面・就職先など幾つかの要素や局面、そしてそれぞれの方策は挙げられる。しかし、入学試験担当の入試センターの立場では、間近に迫った全入時代を見据えた入試方法および広報活動の改善について、本学幼児教育科の基本方針であるアドミッション・ポリシー(こういう人を求めています)、カリキュラム・ポリシー(このようなことが学べます)、ディプロマ・ポリシー(卒業までに身につけるべき能力)を土台とし、教職員が共通理解の元で検討することが必要であると考えます。

ア 入試方法での検討課題

入学定員・入学試験実施方法そして推薦入学試験と一般入学試験それぞれの見直しと改善の検討が必要である。

イ 広報活動での検討課題

従来の各媒体の実績評価をするとともに入学試験関連に傾いているホームページに、短期大学の教育内容をアピールできる内容を加える必要がある。高校訪問では、卒業生の就職先が面談内容となることがあるので、就職先データ等の個人情報の取り扱いについて関係部署で検討する必要がある。

ウ 在学生と教員による広報活動についての提案

高校側が本学を評価する要素には、卒業生の成長(伸び代)の確認も重要であると考えます。そこで、学生自身による就職先の報告や、夏休み期間や実習終了時には出身高校に近況報告を実施するなどの学生指導について、幼児教育科内での検討を提案する。

7 資料

V-1 志願者の推移 V-2 受験者の推移 V-3 合格者の推移
V-4 入学者の推移 V-5 歩留り率の推移 V-6 倍率の推移

V-1 志願者数の推移

() は男子内数

学科	入試区分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
食物栄養科	一般推薦	60 (8)	学生募集停止			
	特別推薦	16 (2)				
	一般前期	55 (3)				
	一般後期	10 (1)				
	社会人前期	4 (0)				
	社会人後期	0 (0)				
学科小計		145 (14)				
幼児教育科	一般推薦	120 (15)	109 (11)	150 (19)	120 (9)	117 (18)
	特別推薦	24 (0)	29 (6)	33 (2)	39 (4)	33 (2)
	一般前期	56 (7)	63 (9)	92 (13)	70 (5)	65 (8)
	一般後期	8 (3)	11 (1)	28 (6)	14 (4)	15 (3)
	社会人前期	2 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)
	社会人後期	1 (0)	1 (0)	4 (2)	1 (0)	0 (0)
学科小計		211 (25)	213 (27)	308 (42)	246 (22)	231 (31)
推薦合計		220 (25)	138 (17)	183 (21)	159 (13)	150 (20)
一般合計		129 (14)	74 (10)	120 (19)	84 (9)	80 (11)
社会人合計		7 (0)	1 (0)	5 (2)	3 (0)	1 (0)
全入試合計		356 (39)	213 (27)	308 (42)	246 (22)	231 (31)

V-2 受験者数の推移

() は男子内数

学科	入試区分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
食物栄養科	一般推薦	60 (8)	学生募集停止			
	特別推薦	16 (2)				
	一般前期	51 (3)				
	一般後期	9 (1)				
	社会人前期	4 (0)				
	社会人後期	0 (0)				
学科小計		140 (14)				
幼児教育科	一般推薦	120 (15)	109 (11)	150 (19)	120 (9)	117 (18)
	特別推薦	24 (0)	29 (6)	33 (2)	39 (4)	33 (2)
	一般前期	54 (7)	60 (8)	85 (13)	66 (5)	60 (8)
	一般後期	8 (3)	10 (1)	26 (6)	14 (4)	13 (3)
	社会人前期	2 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)
	社会人後期	1 (0)	1 (0)	4 (2)	1 (0)	0 (0)
学科小計		209 (25)	209 (26)	299 (42)	242 (22)	224 (31)
推薦合計		220 (25)	138 (17)	183 (21)	159 (13)	150 (20)
一般合計		122 (14)	70 (9)	111 (19)	80 (9)	73 (11)
社会人合計		7 (0)	1 (0)	5 (2)	3 (0)	1 (0)
全入試合計		349 (39)	209 (26)	299 (42)	242 (22)	224 (31)

V-3 合格者数の推移

() は男子内数

学科	入試区分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
食物栄養科	一般推薦	59 (8)	学生募集停止			
	特別推薦	15 (2)				
	一般前期	42 (3)				
	一般後期	5 (0)				
	社会人前期	4 (0)				
	社会人後期	0 (0)				
学科小計		125 (13)				
幼児教育科	一般推薦	114 (13)	108 (11)	108 (6)	101 (7)	111 (15)
	特別推薦	20 (0)	28 (5)	33 (2)	39 (4)	32 (1)
	一般前期	48 (3)	53 (6)	37 (4)	36 (1)	40 (4)
	一般後期	7 (3)	6 (0)	10 (1)	10 (2)	8 (1)
	社会人前期	2 (0)	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)
	社会人後期	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)
学科小計		191 (19)	196 (22)	191 (13)	189 (14)	192 (21)
推薦合計		208 (23)	136 (16)	141 (8)	140 (11)	143 (16)
一般合計		102 (9)	59 (6)	47 (5)	46 (3)	48 (5)
社会人合計		6 (0)	1 (0)	3 (0)	3 (0)	1 (0)
全入試合計		316 (32)	196 (22)	191 (13)	189 (14)	192 (21)

V-4 入学者数の推移

() は男子内数

学科	入試区分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
食物栄養科	一般推薦	59 (8)	学生募集停止			
	特別推薦	15 (2)				
	一般前期	28 (1)				
	一般後期	4 (0)				
	社会人前期	3 (0)				
	社会人後期	0 (0)				
学科小計		109 (11)				
幼児教育科	一般推薦	114 (13)	108 (11)	108 (6)	100 (7)	109 (14)
	特別推薦	20 (0)	28 (5)	33 (2)	39 (4)	32 (1)
	一般前期	24 (2)	39 (5)	26 (4)	23 (1)	23 (3)
	一般後期	5 (2)	2 (0)	7 (0)	8 (1)	6 (1)
	社会人前期	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	1 (0)
	社会人後期	0 (0)	1 (0)	2 (0)	1 (0)	0 (0)
学科小計		164 (17)	178 (21)	176 (12)	173 (13)	171 (19)
推薦合計		208 (23)	136 (16)	141 (8)	139 (11)	141 (15)
一般合計		61 (5)	41 (5)	33 (4)	31 (2)	29 (4)
社会人合計		4 (0)	1 (0)	2 (0)	3 (0)	1 (0)
全入試合計		273 (28)	178 (21)	176 (12)	173 (13)	171 (19)

V-5 歩留り率の推移

() は男子内数

学科	入試区分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
食物栄養科	一般推薦	100%	学生募集停止			
	特別推薦	100%				
	一般前期	67%				
	一般後期	80%				
	社会人前期	75%				
	社会人後期	—				
学科小計		87%				
幼児教育科	一般推薦	100%	100%	100%	99%	98%
	特別推薦	100%	100%	100%	100%	100%
	一般前期	50%	74%	70%	64%	58%
	一般後期	71%	33%	70%	80%	75%
	社会人前期	50%	—	0%	100%	100%
	社会人後期	—	100%	100%	100%	—
学科小計		86%	91%	92%	92%	89%
推薦合計		100%	100%	100%	99%	99%
一般合計		60%	69%	70%	67%	60%
社会人合計		67%	100%	67%	100%	100%
全入試合計		86%	91%	92%	92%	89%

V-6 倍率の推移

() は男子内数

学科	入試区分	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
食物栄養科	一般推薦	1.02	学生募集停止			
	特別推薦	1.07				
	一般前期	1.21				
	一般後期	1.80				
	社会人前期	1.00				
	社会人後期	—				
学科小計		1.12				
幼児教育科	一般推薦	1.05	1.01	1.39	1.19	1.05
	特別推薦	1.20	1.04	1.00	1.00	1.03
	一般前期	1.13	1.13	2.30	1.83	1.50
	一般後期	1.14	1.67	2.60	1.40	1.63
	社会人前期	1.00	—	1.00	1.00	1.00
	社会人後期	—	1.00	2.00	1.00	—
学科小計		1.09	1.07	1.57	1.28	1.17
推薦合計		1.06	1.01	1.30	1.14	1.04
一般合計		1.20	1.19	2.36	1.74	1.52
社会人合計		1.17	1.00	1.67	1.00	1.00
全入試合計		1.10	1.07	1.57	1.28	1.17

11 本学の特色ある教育についての報告

現在、幼児教育科が標記の件で取り組んでいるのは、1. 学生希望図書 2. 音楽専攻ゼミ発表会 3. ネイチャーゲームリーダー養成研修・レクリエーション研修 4. 特別支援教育研修会 5. 美術専攻実技ゼミ展 6. 「住育」に関する講演会 7. 「もりもり子育て支援」 8. 卒業発表会 9. 「総合特別講座」の開設をしている。

これらの約半数は学外の施設での発表活動を続けている。学外での発表を開始して10年には満たないが、この活動の先駆は16年程前にゼミを取り入れたことである。短大の時間割が過密であることは承知の上で、当時の学生たちに専任教員が伝えるべきものはまだある、それを伝えることで学生生活は更に充実するのみならず、卒業後の彼らに自信を持たせるという主旨のものと開設。当初ゼミは卒業必修であったが、学生の負担を考慮し、保育士資格必修に変更した。2年間における学生一人一人の学びの記録である「特別演習集録」は年度末に1回の発行であるが、今年（2014.3）で第15号となる。

上記の活動を順に見る。

1. 学生希望図書

これは予算内での購入であるが、H.21年度の機関別評価結果において、「特筆すべきは、図書館の絵本のコーナーの充実である」という評価をいただき、それ以後も継続して選定している。更に絵本に関しては2010年の10月に絵本作家の長谷川義史氏の「絵本ライブ」を公会堂で一般公開できたことである。この件では岩手日報が3回、盛岡タイムスが2度に亘り掲載、岩手日報の最終掲載では会場一般のお客さん方に対する本学の学生の対応が素晴らしかった、と感謝の意を込めた投書を掲載していただいたことが二重三重の喜びであった。

2. 音楽専攻ゼミ発表会

学外での発表の第1回目は2007年2月の卒業発表会と合同であった。2回目（2009年12月）は会場を「おでってプラザ」に移し、「音楽朗読劇シェイクスピアっておもしろい！こどものための『ハムレット』」と題し、音楽専攻ゼミの1年生と2年生が相互に良い刺激を与え合い、観客にも感動を与えた。以後、継続して発表会を開催している。担当教員の教えと思い、そして1年生と2年生が夫々のものを持ちながら一つのステージに立ち精いっぱい表現していることの喜びがストレートに伝わってきている。

3. ネイチャーゲームリーダー養成研修・レクリエーション研修

ネイチャーゲームリーダー資格取得講座への取り組みは2004年から開始。夏期休暇中に1日7時間2日間でリーダー資格取得が可能。レクリエーション研修は2005年からの開始で夏期休暇中に1日5時間で3日間。いずれも保育の現場で求められている生かせる環境教育の重要性とコミュニケーション能力の開発につながる。参加者は当初よりは減少しているようであるが、参加した学生は想像以上の成果を実感している。

4. 特別支援教育研修会

この活動は2006年の10月の講演会の開催から開始。テーマは「発達障害の理解と支援」。会場は本学（2回目まで）、参加者は200名。内容はLD、ADHD、自閉症スペクトラムなどの軽度発達障害のある子どもの理解と支援である。講師は東京都練馬区立総合教育センター心理相談員の松橋静香氏であった。3回目は公会堂、参加者は約600名。4回目からは会場を岩手教育会館に移し、参加者は毎回約500名。参加者にはこの講演会を企画担当教員のゼミを履修している学生は勿論のこと、他の学生たちも意欲的に参加。尚、彼らの表情を窺うと、今得た情報・知識を一つも残さず洩らさず大切に自分の懐に仕舞い込みつつ講師の言葉に深く聞き入っている姿に見えるのが印象的である。因みに8回目（2013）のテーマは「配慮を要する子どもと親への支援」で、演題は「子どものことばの遅れの理解と支援」で、講師は岩手県立総合教育センター研修指導主事の森和佳子氏であった。参加者には卒業生、一般の方々が継続して来場している。このことはこの研修会が地域の活動として浸透してきているということを確認させた。

5. 美術専攻ゼミ展

2000年から2005年までは学内での作品展を開催していたが2006年12月からは菜園の「ギャラリー la vie」で発表。テーマは「子どもの私—今のわたし」である。2009年度から2013年度までのテーマを列挙すると「ジャングルジム」、「子どもの眼・子どものかたち」、「カメラの眼／私の眼（カメラになった私）」、「子どもの家・子どもの時間」、「子どもの惑星」。会場に足を向けると作品の持つ独特の風を感知することが多い。学生たちの創作の「根底にはそれぞれが表現する以前に確認すべき、表現に至るまでのルーツを子どもの“眼”を重ねながら考える点に特色を出している。」とは担当教員の言葉である。作品は鑑賞する人の心の裡にあるその人自身の“子ども”との対面へと担い手の役目を果たす。その対面の時間は物づくりの原点を想起させ、懐かしく、寂しく、嬉しく、貴重な回帰の時間である。尚、音楽専攻ゼミのステージ発表の舞台美術はこの美術専攻ゼミの学生たちの手づくりになる。更に平成24年度はゼミの学生が個展を開催。学外での作品発表には盛岡タイムスが2006年～2013年まで、岩手日報が2007年～2010年まで記事を掲載してくれている。

6. 「住育」に関する講演会

「育児不安や育児ストレスが叫ばれている現代の子育てを、『育児しやすい住まいの間取り』をコンセプトに軽減しようという取り組みが『住育』である。この住育の提唱者である(株)ミセスリビング代表の宇津崎氏により平成22年から25年まで、本学後援会の助成を受けて講演を行ってきた。その間の平成24年1月には、一般にも開放し『住育フォーラム』を盛岡劇場で実施した。」

これは担当者の言葉である。数年来、教育・保育を支える形で食育・掃育・浴育・育メン等々で「育」という字の持つパワーに縋りたいような空気の流れを感じているところに「住育」の登場。生活の基本の衣食住を根底から考え、取り組む好機を与えられたのでは

ないだろうか。

7. もりもり子育て支援

支援事業名の由来は、森の中の盛岡大学短期大学部の特色を生かすことと活動の場が厨川幼稚園であり、園児たちが園庭を「もりもりの庭」と呼びならわしているところから、子どもたちが親しみやすく元気の出る言葉と判断し名づけられた。

事業の内容は、子育て家庭の支援事業の研究、調整、運営を行い、親子の交流を促進し、子どもの健やかな育ちを支援することを目的としている。極・超低出生体重児の親子および親子同士の交流を主体としているが、2012年より子育て支援事業の一環として、厨川幼稚園の未就園児サークルでのボランティア活動も合わせて行っている。活動はチャイルドケアゼミ担当教員とそのゼミを履修している学生たちが中心となって行われている。当初、活動は月に1回であったが2012年から月に2回とし、継続して活動を行っている。

8. 卒業発表会

かつてみだけ校舎の時代に県民会館で音楽の授業の一環での発表が約10年間続いた。時期は卒業試験後。同時期に中央公民館では美術関係の作品展を開催。音・図・体の授業の性格上、発表すること、見ていただくことが重要で、そのことで授業の持つ役目の一つが果たされるものと思われる。

2007年2月から新たに開始した発表会は見せる・聞かせる・伝えることを主眼においている授業が合同で開催することとした。

第1回のプログラム第一部は直木賞作家の重松 清氏（2001年の受賞）の講演「子育ては自分育て」で始まり、第二・第三部は「遊びと言葉」、「幼児体育」チームエアロビック・フィジカルトレーニングの発表。第2回目の2008年には上記の内容に音楽専攻ゼミと伝承遊びゼミが加わった。発表が卒業を間近に控えている所為か学生たちの熱心な取り組み姿勢は彼等の記憶に一生残るに違いないと思わせる程の燃焼ぶりである。加速度を上げながらの燃焼ぶりは卒業後の働きを約束させてくれる。毎回当日の本番は最高の出来栄となっている。

9. 総合特別講座

近年1年生の最初の幼稚園実習の巡回指導の際、学生が挨拶できないとの指摘があった。実習内容以前のコミュニケーション能力がないということ。伝え方を知らないと同時に伝えるものが希薄だということの認識のもと、双方の解決のためにこの講座を開講することにした。専任教員の大方が夫々の専門から更に学生たちに一步踏み込んだ形での構成である。講座の後半では必ず感想文を提出させている。この取り組みは5年程になるが次年度からは従来の内容に更に充実を図り取り組む計画である。

12 図書館の活動状況についての報告

(1) 図書館等の概要（全体の配置図、座席数、購入図書等選定システム、司書数、情報化の進捗状況等）

① 図書館施設の規模

(ア) 図書館は平成 17（2005）年現在の新図書館に移転した。面積約 2,000㎡、2 階建。収容可能冊数は 1 階書庫 13 万冊、2 階開架閲覧室 7 万冊の計 20 万冊である。

現在、1 階は閉架書庫の他に、新聞・雑誌・教科書/シラバス掲載図書・視聴覚資料・絵本/実習書・情報検索用パソコンの各コーナーがある。

平成 25 年 3 月、ラーニングコモنزの整備を含む館内のレイアウト変更を実施。1 階、ラーニングコモنزでは、複数の学生が集まり、電子情報機器や図書館資料等を用いながら議論を深め、学習を進めていくスペースとなった。可動式の机・椅子を人数や目的によって、自由に組み合わせて使用でき、グループ学習・模擬授業の練習・プレゼンテーション等に幅広く利用できる。スクリーン兼用ホワイトボード、プロジェクターも整備している。

2 階はサイレントエリアとして、キャレルの増設、4 人掛け閲覧机への間仕切り設置を行い、自己学習・読書に集中できる静かな環境に整備した。

多目的学習室は、大人数の利用講座や情報リテラシー教育に対応できるよう、ノートパソコン 40 台を設置。利用講座等で使用していない場合は、学生に常時開放し学習を支援している。室内は、プロジェクター・スクリーン、音響設備も備えており、講演会や会議室としての利用も可能である。

(イ) 閲覧席数は 226 席。キャレル、4 人掛閲覧机、カウンターテーブル等利用者の目的にあわせて設置している。

内訳 1 階ラーニングコモنز 30 席 学習室 40 席 2 階閲覧席 156 席

(ウ) 車椅子対応の閲覧席や蔵書検索用パソコンの他、エレベータ、多目的トイレの設置など障害のある利用者への対応に配慮している。

② 購入図書選定システム

平成 24（2012）年度末の蔵書は約 17 万 2 千冊。平成 20（2008）年 3 月に制定された「盛岡大学図書館資料収集方針」に基づき、学科構成の内容に沿った資料を中心に収集を行っている。特に、幼児教育関係の分野の資料が多い。保育所・幼稚園で行う実習用に絵本・紙芝居・実習書も購入している。

過去 3 年の受入図書は次のとおり。（ ）内は寄贈冊数。ここ数年は受入総数に対する寄贈の割合が高い傾向にある。

年 度	和 書	洋 書	計
平成 22 年度	2,948 冊 (内 579 冊)	227 冊 (内 13 冊)	3,175 冊 (内 592 冊)
平成 23 年度	2,760 冊 (内 635 冊)	121 冊 (内 5 冊)	2,881 冊 (内 640 冊)
平成 24 年度	6,283 冊 (内 4,249 冊)	290 冊 (内 139 冊)	6,573 冊 (内 4,388 冊)

③ 職員構成 事務職員 7 名（内司書 5 名）及び期限付技術職員 1 名

④ 情報化進捗状況

図書館システムを平成 15（2003）年に導入、平成 16（2004）年度から図書館蔵書目録（OPAC）を公開、インターネットによる蔵書検索を可能とした。平成 24 年度には、非来館者への図書館活用を促進することを目的とし、携帯電話から図書館蔵書検索が可能となる OPAC 携帯電話対応ソフトを導入した。平成 19（2007）年度からは図書館システムを使った蔵書点検も実施している。

平成 14（2002）年度には図書館ホームページを開設。更新頻度は月 1～2 回程度で図書館職員が作成・管理を行い、きめ細かな広報を行っている。

OPAC 専用機は、1、2 階開架閲覧室の各所に計 9 台配置。情報検索コーナーのパソコン 6 台は常時インターネットにつながっており、素早い検索が可能である。特に図書館が導入している国立情報学研究所（CiNii）等のデータベースは、利用頻度が高い。

館内貸出用のパソコンは OS の更新に対応しながら徐々に増設し、現在 24 台となっている。新たに、多目的学習室にノートパソコン 40 台を設置。いずれも無線 LAN による学内ネットワークへの接続が可能で、学生のレポート作成等で利用が急速に伸びている。

印刷専用パソコン及びプリンタは 2 セット有り、レポート・卒論等の印刷に活用されている。

(2) 備えられている蔵書数（和書、洋書、学術雑誌数、AV 資料数等）

図書館等蔵書数一覧

（平成 25 年 3 月 31 日現在）

区分	和書	洋書	学術雑誌	AV 資料
冊（種）	149,538 冊	22,489 冊	2,978 種	5,995 件

※併設大学（盛岡大学）との共用

(3) 学生が利用できる授業に関連する参考図書、その他学生用の一般図書等について。また学生の図書館等の利用状況

学生の授業に関連する参考図書や一般図書等の整備については、学科毎に学生及び教員数に応じた資料費を配分し、学科から提出された選定リストをもとに図書館委員会の承認を得て購入しており、概ね適切であると思われる。

保育士・幼稚園教員養成課程があることから、主として幼児教育関係資料を一カ所にまとめ、絵本・紙芝居も加えて絵本実習書コーナーを設置しており、教育実習の時期には学生の利用が活発となる。実習期間が長期にわたるため、各学生の要望に応じ貸出期間を延長する実習貸出も行っている。

平成 25 年度には、学生の授業への取組みを一層支援するため、授業で使用・紹介している資料をまとめて配置するシラバス掲載図書コーナーを 1 階に設置した。

学生の利用は平成 19 年度の利用をピークに貸出者数・貸出冊数ともに減少していた。インターネット等の普及により、図書館に来館しなくても必要な情報は入手可能な時代となっている。図書館に足を運んでもらうには、これまでにない体験が必要と思われる。

このような状況の中、整備されたラーニングコモンズは、パソコンや資料を活用しつつ、意見交換しながらグループ学習を進めるという、新しい利用の仕方を可能にした。平成 24 年度からは、図書館の活動を支援する学生ボランティア（通称：図書館サポーター）を募り活動を開始し、学生による選書ツアーや選書した図書の展示を実施。学生目線による図書案内や手作りのポップが好評で貸出率は高い。その他にも、大学・短期大学部教員による学生への推薦図書の展示や職員による企画展示など様々な取組を行ってきた。

これらの取組により、平成 25 年度の図書館利用者数は前年度を大きく上回ることができた。今後も、様々な取組みを積極的に行い、利用者の増加を図って行きたい。

過去3年間の幼児教育科の学生利用者数は下記のとおり。

年 度	幼児教育科	
	貸出者数	貸出冊数
平成 22 年度	969 人	2,847 冊
平成 23 年度	617 人	2,037 冊
平成 24 年度	466 人	1,313 冊

貸出の他に、図書館の基本的な利用の仕方や、レポートや論文作成の際に必要な情報を入手する方法を学ぶ利用講座も実施している。近年、利用講座について見直しを図り、講座の受講を積極的に教員に働きかけた結果、授業時間にクラス単位で利用講座を実施する割合が増え、受講者が増加している。今後も講座の利用拡大を図るには、教員との一層の連携が欠かせないとする。

(4) 図書館等から学内外への情報発信、他の図書館等との連携等、現在の図書館活動

平成 23 年 3 月に発生した東日本大震災により、沿岸の多くの公立図書館および学校図書室が被災し、その復旧・復興には多方面からの支援が必要となった。盛岡大学図書館では、岩手県における図書館司書養成の中核を担う大学として、専門的知識と技能を生かす支援を行うため、平成 23 年度に「富士大学・盛岡大学復興支援ライブラリーネット」「盛岡大学被災地図書館支援プロジェクト委員会」を立ち上げ、いわて高等教育コンソーシアムと連携しながら、支援活動を行ってきた。主な活動は次のとおり。

野田村立図書館(平成 24 年 1～3 月)→リニューアルオープンに向けた寄贈図書約 2,500 冊のデータ入力・装備・ブックコーティング・配架支援作業

陸前高田市立仮設図書館(平成 24 年 5～6 月)→ブックモバイル用寄贈図書のブックコーティング作業 約 1,300 冊

陸前高田市立図書館郷土資料救済(平成 24 年 3～11 月)→現地での郷土資料救出・ドライクリーニング作業・デジタル撮影による資料の複製作業

県立高田高校の校内資料の修復(平成 25 年 1～6 月)→遠野文化財研究センター職員の協力を仰ぎ、高校の校内資料の救出・洗浄・乾燥・ファイリング作業

いずれの活動でもボランティアを募った結果、学生・地域ボランティア・図書館関係者から多くの協力を得ることができ、これらの支援への延べボランティア参加人数は約 550 名となった。

さらに、平成 25 年 3 月には短期大学部幼児教育科の学生・教員の協力により野田村

立図書館支援のイベントとして影絵劇を上演。当日イベントに参加した多くのご家族に喜んでもらうことができた。以後、宮古市田老公民館、紫波町立図書館でも影絵劇を上演。影絵の後には子供たちとの交流をもち、保育士・幼稚園教諭を目指す学生にとって貴重な体験となった。

これらの支援活動は、学生のボランティア活動への参加機会を提供するとともに、地域に貢献する大学の理念に沿った図書館を強く印象づけることができた。現在、支援活動は一段落しているが、今後もこれまでに蓄積したノウハウを生かし、息の長い支援活動を行っていきたいと考えている。

なお、活動の様子は図書館のホームページ上でも「被災地図書館支援プロジェクト」として詳細に掲載し、学内外へ情報を発信している。

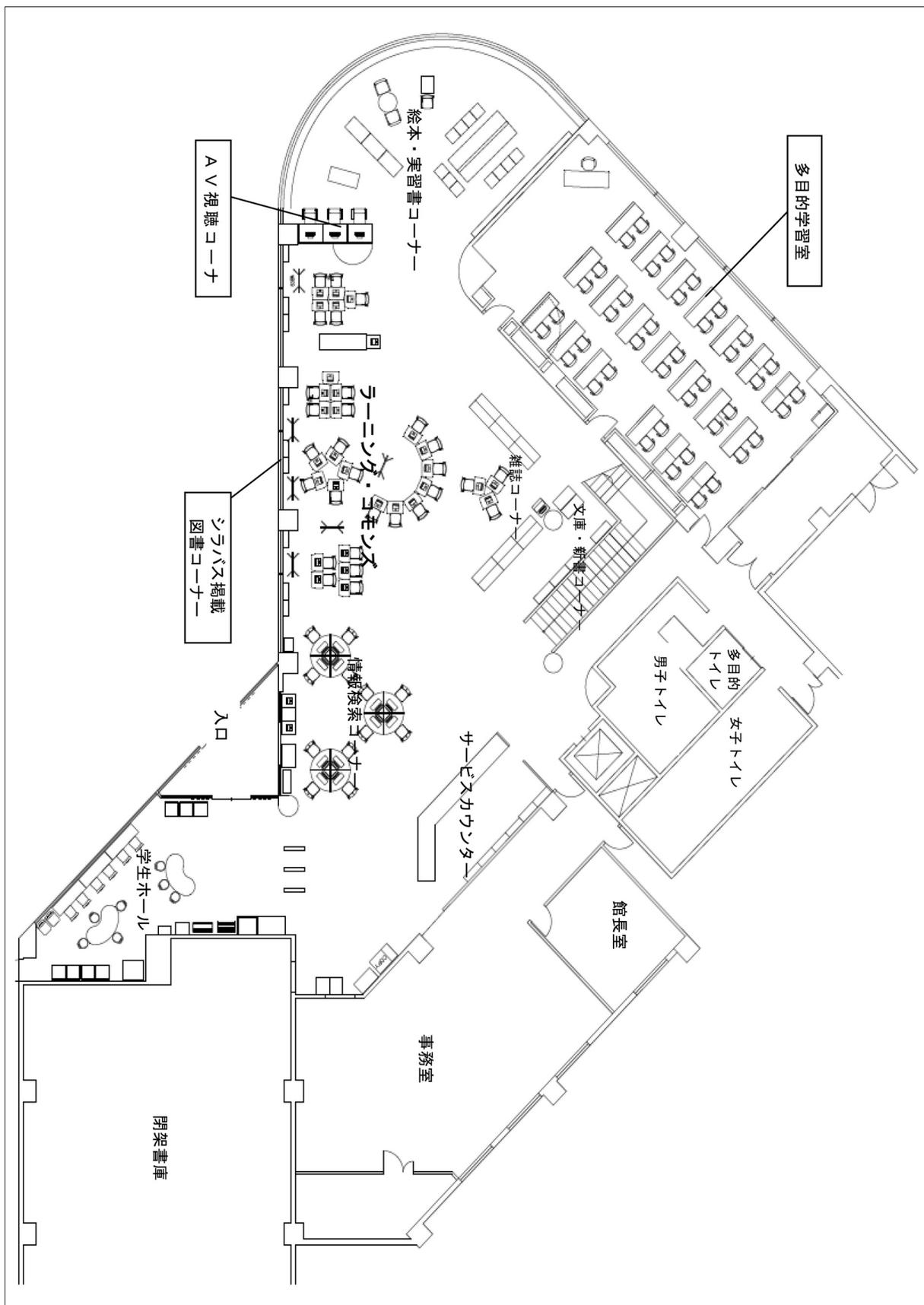
この他、他の図書館との連携は、東北地区大学図書館協議会「大学教育部会」の活動をあげることができる。これは、平成24年10月から25年9月にかけて、当館職員が「学生の主体的な学修に関する部会の取り組み」について、東北地区の他大学図書館職員と共に、東北地区の大学にアンケート調査を実施し、提言の取りまとめを行ったもので、平成25年度の東北地区大学図書館協議会総会にて結果が報告された。

「いわて高等教育コンソーシアム」を形成する、県内5大学の図書館では、毎年2回「附属図書館長及び実務担当者会議」を実施し、相互の利用状況の確認及び情報交換を行い図書館業務の改善に役立てている。更に「岩手県内公共図書館・大学・専門図書館連絡協議会」に加盟し、館種を越えた連携・協力・サービスの充実に努めており、東日本大震災以降は、有事の際の各館の協力体制等も確認している。

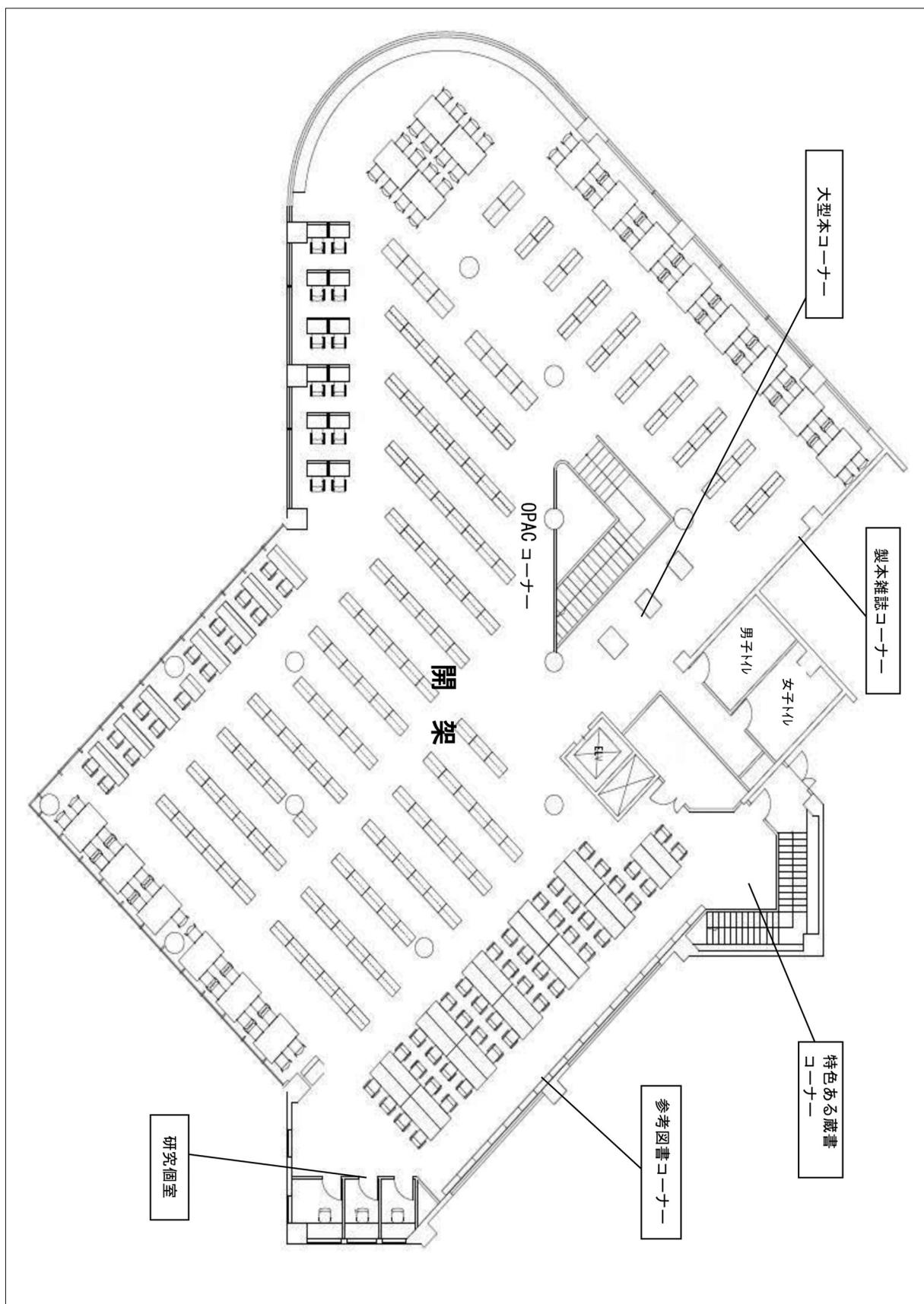
また、国立情報学研究所（NII）、の学術総合目録データベース（NACSIS-ILL）への参加は、本学が所蔵していない資料の複写依頼及び図書の貸借、他大学からの本学所蔵の文献の複写や資料貸出を可能にし、大学間相互協力は順調に推移している。

今後もいわて高等教育コンソーシアムとの連携、東北地区地域の大学図書館のみならず、全国の大学図書館とも協力関係を保ちつつ、サービス向上を目指していきたいと考える。

盛岡大学図書館 1階



盛岡大学図書館 2階



あとがき

このたび、2009年に一回目の認証評価を短期大学基準協会から受けたあととしては、最初となる自己点検・評価報告書を発刊することになった。一回目の認証評価では、避難訓練を実施するよう指摘を受け、その後速やかに避難訓練実施計画を立て、実施した。避難訓練の実施以外は、早急に改善すべき事項の指摘はなかったが、その後も、自己点検・評価に努めてきた。今回の報告書で様々な点検・評価を行い、改善に努めた成果を報告しているが、その中で、いくつかの概要を紹介する。

まず、授業評価に関してであるが、これまでは本学独自の調査項目で実施してきたが、今回は、業者に依頼して実施した。独自の項目で調査してきた頃と比較して、授業そのものに対する評価にそれほど大きな違いはないように感じたが、今回の調査の方がよりきめ細かいので、教員自身の授業改善には、役立ったようである。

次に、地域貢献に関してであるが、東日本大震災以来、日本社会全体でボランティアへの関心が高まったように感じるが、本学では、それ以前から研究大会・幼稚園・保育所・施設などからの依頼を受けて学生をボランティアとして派遣してきた。むろん、東日本大震災関連のボランティアへも学生を派遣し貢献してきた。このような実績を踏まえ、併設する盛岡大学との連携のもと、現在地域貢献の拠点となる「地域連携センター」の開設に向けて準備を進めており、今後さらにボランティア活動などの地域貢献を充実させていくことが期待される。

さらに、就職状況に関してであるが、本学ではこれまでと変わらぬ高い水準での就職率を堅持している。社会全体では保育士が不足し、社会問題になっている。本学としては監督官庁の指導もあって定員を遵守しなければならないが、今後も、質の高い保育士の養成に努め、社会の信頼を得ていきたい。

最後に、本学の特色ある教育活動であるが、本学が社会から認めてもらうためには、なんといっても質の高い専門性を持った人材を養成することに尽き、そのために実施してきた事業である。この「特色ある教育」は後援会の助成を受けて実施してきたもので、幼児教育科が一丸となって自己点検・評価に取り組む中で発展させてきた事業でもある。これからも、自己点検・評価に努め、この事業のさらなる充実を図りたい。

今回の報告書の発刊をうけて、二回目の認証評価を受ける準備に入ることになる。短大受難の時代ではあるが、さらなる努力を続け、地域から信頼される短大を目指していくことが本学の使命であると考えている。

終わりに、今回の報告書の刊行にご協力いただいた学内外の関係各位に深く感謝の意を表し、あとがきとする。

盛岡大学短期大学部自己点検・自己評価報告書 2013

平成 26 年 6 月 30 日発行

編 集 盛岡大学短期大学部自己評価委員会

発 行 盛岡大学短期大学部

〒020-0694 岩手県滝沢市砂込 808 番地

TEL 019(688)5555(代)

印 刷 山口北州印刷株式会社

〒020-0184 盛岡市青山四丁目 10 番 5 号

TEL 019(641)0585